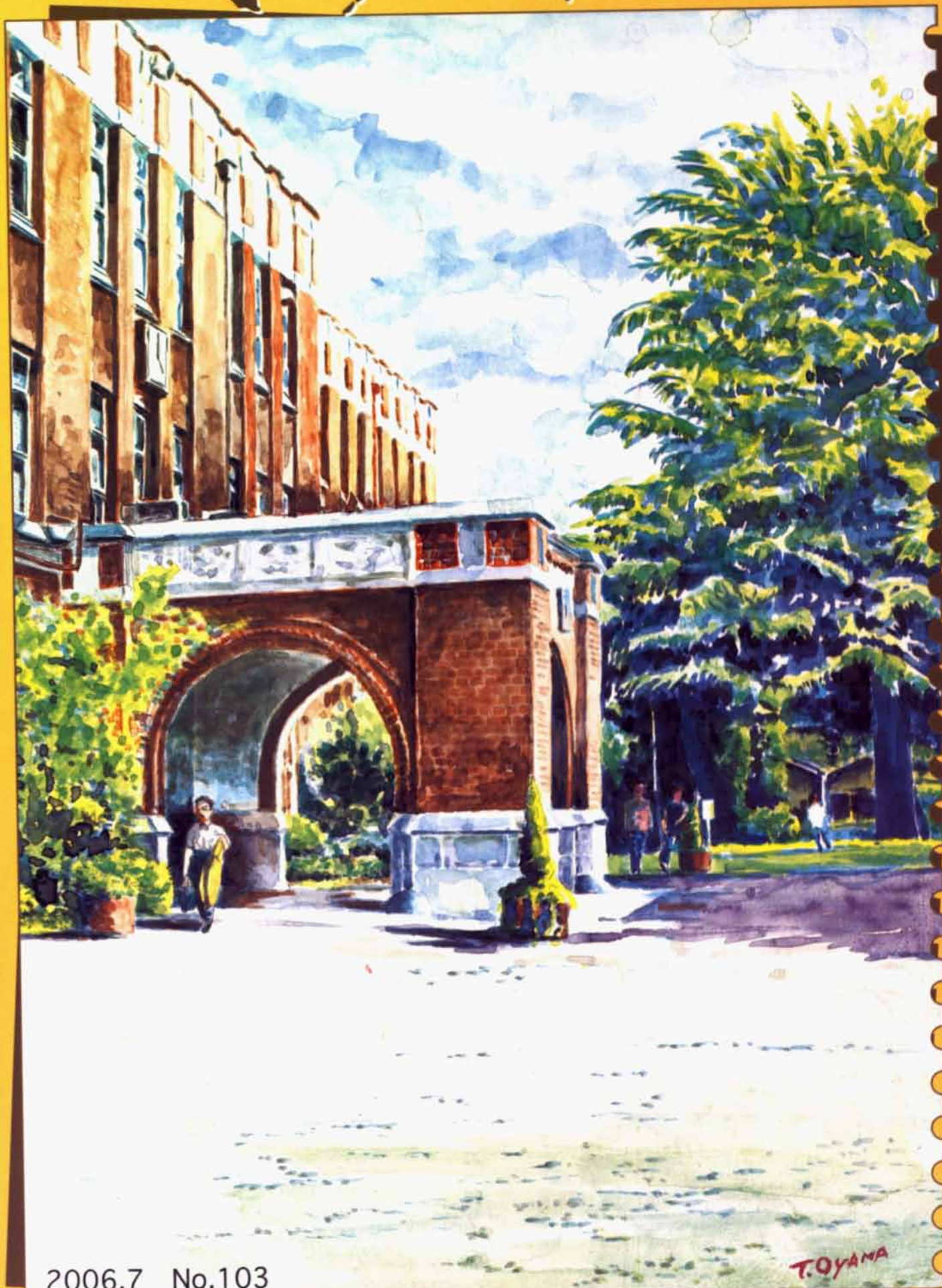


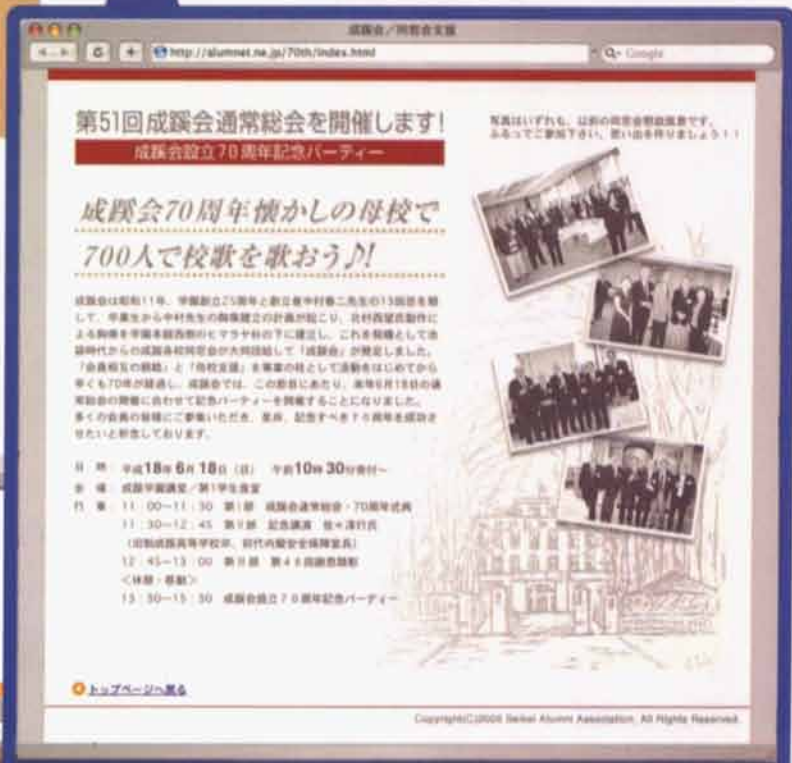
# 成溪會誌





# ホームページのご案内!

成蹊会ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>



成蹊会設立70年に当たって…………… 瀧 秀彦 / 2

就任挨拶…………… 3

専務理事に就任して…………… 橋本 竹夫 / 3  
理工学部長に就任して…………… 廣田 明彦 / 4  
小学校長に就任して…………… 金納 善明 / 5

成蹊会70周年…………… 6

1 成蹊会活性化への期待  
〜成蹊会活動に望むこと…………… 6

成蹊学園理事長・岸 暁  
成蹊大学長・栗田 恵輔  
成蹊中学高等学校長・谷 正紀  
成蹊小学校長・金納 善明

北海道支部・小林 敬明  
東北支部・小田島 司郎  
千葉支部・安田 敬一  
関西支部・高城 尚久  
中国支部・奥田 久徳  
九州支部・川西 到

2 社団法人成蹊会の設立と経緯…………… 12

特別寄稿…………… 14

あの頃の私たち…………… 小池真理子・桐野 夏生 / 14  
成蹊大学文学部創立四十周年を祝う会を終えて…………… 高山 知也 / 19  
世界の中の日本、アジアの中の日本―日本の外交の課題―…………… 廣野 良吉 / 20  
私と成蹊…………… 相川 一成 / 23  
成蹊小学校の近況について…………… 岡崎 忠彦 / 24  
日本のエネルギー戦略と原子力都市計画法…………… 黒沼 稔 / 26  
県民性と県鳥性…………… 峯岸 典雄 / 29

成蹊大学 オープンキャンパス2006 / 11 成蹊ラビリントス / 13 第83回枯林忌 / 55 新聞コラム / 56 予告 / 60

表紙絵の言葉 / 19 働く成蹊人 / 33 叙勲 / 38 地域同窓会連絡先 / 61 退職挨拶 / 62 学術・教育研究助成報告 / 64

書 壮心やまず上條信山 生誕百年記念展 / 39 物故会員 / 39 平成17年度寄付金芳名録 / 71 成蹊会報告 / 72 成蹊会事業報告 / 73

第29回成蹊校祭 / 40 経済学部同窓会アンケートより / 47 表紙の題字は故上條信山先生、絵は小山忠男（政経・31年）

随 想…………… 34

ハツカダイコンに思うこと…………… 荻野 宏幸 / 34  
日本人ビジネススマン50人のアメリカ国歌合唱  
―伝統あるヤンキー「スタジアム」でのハーモニー…………… 市橋 栄一 / 35  
最近のペット事情…………… 伊藤 浩 / 36  
成蹊高校ラグビー部花園観戦記…………… 千葉 英治 / 37

同窓のつどい…………… 42

学校・年次会のつどい / 42

いさお会  
一蹊会  
高校卒業50周年  
中学校昭和38年卒業  
3年E組クラス会  
小学校昭和34年卒業生同窓会  
大学卒業10周年  
黒沼稔先生の傘寿と金婚の祝賀会  
昭和27年卒業成蹊小学校  
6年南組クラス会  
小学校同窓会  
船越学級クラス会  
昭和26年入学者の集い

ニューヨーク成蹊会  
ロンドン成蹊会  
オーストラリア  
クイーンズランド成蹊会  
北海道支部枯林忌の集い  
秋田成蹊会  
千葉支部有志によるゴルフ・コンペ  
渋谷成蹊会  
岐阜成蹊会  
三重成蹊会  
愛媛成蹊会  
長崎成蹊会

体育会・文化会・OB会・趣味のつどい / 47  
グリークラブOB会  
ハモル会  
英語会OB総会

標準式野球部OB総会  
成蹊ラグークラブ歓送・祝勝会  
業界・企業のつどい / 50  
三菱東京UFJ銀行成蹊会  
地域のつどい / 50

# 成蹊会設立70年に当たって

成蹊会会長 龍 秀彦



成蹊会は、昭和十一年、学園創立二十五周年と創立者中村春二先生の十三回忌を期して、卒業生から中村先生の胸像建立の計画が起り、北村西望氏製作による胸像を学園本館西側のヒマラヤ杉の下に建立し、これを契機として池袋時代からの成蹊の各学校別同窓会が大同団結して「成蹊会」が発足しました。その成蹊会も今年で設立七十周年の節目を迎えます。

今年の第五十一回成蹊会通常総会は六月十八日に開催を予定しておりますが、この機に「成蹊会設立七十周年記念パーティー」を併せて開催いたします。「懐かしの母校で、七〇〇人で校歌を歌おう」と呼び掛け、久しぶりの母校で旧友との再会と懇親を図りたいと、各学校・学部同窓会の協力を得ながら、吉野雅晴副会長を委員長とする成蹊会七十周年委員会を組織して準備

を進めております。会員の皆様にはお誘い併せの上、是非通常総会並びに七十周年記念パーティーにご参加いただきたいと存じております。

成蹊会の会員数は、この三月に新たに会員となられた方を含み、既に七万五千名を超えており、十二を数える学校・学部別の同窓会を中心として、国内外の各地域、勤務する企業や、クラブOB会、ゼミOB会など、卒業後の同窓の絆を深める様々な集まりを支援いたしております。そして、更なる同窓会活動の活性化と、それを支える各同窓会組織の基盤強化に向け、この成蹊会設立七十周年の集いがその契機となつてくれることを期待しております。

その成蹊会は、「卒業生相互の親睦」と「母校成蹊学園への支援」を二つの大きな柱として、多くの先達のご努力により今日まで歩んでまいりました。成蹊会設立直後は先の戦争の影響で、思うような活動が出来ませんでした。戦後昭和二十四年になって、成蹊会名簿や成蹊会誌第一号が刊行されるなど、その活動がようやく本格化し始めました。さらに昭和二十五年以降、主要地域に成蹊会の地方支部六支部（関西・東海・九州・千葉・北海道・東北）を結成し、同窓会の活動が地域的にもその広がりを始めました。そして、

とりわけ組織的に大きな契機となったのが、昭和三十年の成蹊会の公益法人化であったろうと思います。加藤英夫会長のもと、当時の成蹊会幹事であった谷岡喜久蔵氏の大変なご努力により公益法人化を実現いたしました。学園賛助員の今村繁三先生が「今後成蹊会が発展した暁には、公共事業を併せ行なう団体になりたいものだと思う」と語られていたことが記録にあります。その意思を受けた谷岡氏が「文部省にお百度参りして任意団体から社団法人に組織変更をした」と述べられております。社団設立当時は既に会員数が一万七千人を超える組織に拡大しておりましたが、同窓会活動やその後の母校支援活動を中心とした公益事業の組織的基盤を整えたことが、今日の成蹊会の発展に繋がっております。

また昭和三十三年には「恩師謝恩事業」が開始されました。当時は毎年十一月に祝賀会を催し、被頭彰者の関係の深い会員からの寄付を募り、集まった金額に応じて祝金を贈呈しておりました。現在は成蹊会通常総会時に恩師の先生方をご招待して、謝恩顕彰会を催しております、今年で四十六回を数えます。同窓会そのものの基盤は「友情」と「愛校心」そして「恩師への感謝の心」でありますが、我々卒業生を育てていただいた恩師へ報恩感謝の誠を捧げたことの気持ちから開始されたこの催しも成蹊会に相応しい事業といえます。

今号では、その成蹊会七十周年の歩みの年表を掲載してまいります。改め

てこの機会に成蹊会設立の経緯に思いを致すとともに、これまでの成蹊会の活動に対する理解を更に深めていただければと存じます。

また現在、国において公益法人改革の検討がなされており、成蹊会もその対象団体となっております。改革の趣旨を踏まえ、成蹊会を取り巻く社会的な状況を視野に入れながら、今後の成蹊会の在り方、成蹊らしさが滲み出るような同窓会活動、公益活動の在り方について、考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様ご承知の通り現在成蹊学園は平成二十四年の学園創立百周年に向けた様々な事業を展開されておられます。国際教育センターの設置による成蹊学園ならではの「一貫した国際理解教育の実践」、小学校二十八人学級制の開始、情報図書館の今秋開館、中学・高校一貫化実現に向けた施設開発着手など学園も百周年を機に更なる発展を遂げようとしておられます。成蹊会では組織を挙げてこの事業を支える百周年記念事業募金に協力をいたしております。会員の皆様方には、私どもが母校成蹊学園を、いつまでも誇れる学園であり続けていただくための協力ととらえ、ご支援をいただきたいと思っております。更に、身近な同窓の方にも積極的にご声掛けいただき、募金目標の達成に向けた取り組みにご協力いただきますようお願い申し上げます。

(政経・35年)

# 専務理事に就任して

橋本竹夫

この3月の学園理事会において専務理事に選任されました橋本です。過去6年間、私は専務理事補佐として学園の経営基盤の長期安定化対策の提案、現在建設中の大学施設である情報図書館の方向性の提案、学園の環境整備の提案などを行って参りました。

現在学園が直面している課題は、少子化が加速する社会の中で学校間の競争に耐えうる体質強化を図らなければならないということと、来る2014年は成蹊学園の創立100周年の年となりますが、学園が今後も教育と研究の質を高めていくために何をすべきかを考え、実行していかねばならないと思っております。現在、これらのことを念頭に置きながら、教育研究の



向上方策の構築に必要な施設建設を実施しております。

その第1は、今年9月開館に向けて最終段階にある情報図書館の建設です。この建物の特徴は、建屋内中心部に宇宙空間に浮くサテライトのような複数のグループ閲覧室があることです。さらには省スペースと利便性を併せ持つ自動書庫を備え、電子化データ対応のIT志向の図書館を目指していることです。

第2は、丸の内地区におけるサテライト事業の展開です。この3月に第一期の修了生を出した法科大学院に在籍している多くの社会人大学院生の講義受講への利便性を高め、学力向上を目指して、丸の内地域内に法科大学院の講義をリアルタイムで受講できる設備を整えた施設を開設いたしました。この施設は、将来的に様々な学園事業にも利用できるように現在検討を行っております。

第3は、教育の一貫化を推進中の中学校・高等学校の校舎の建設です。中学校のクラスを増やし中高一貫教育を強化していくとすると、このクラス編成に合う教室棟の建設に向けた

検討を行っています。

第4は、小学校の28人学級による教育（各学年4クラス編成）を年次進行的に実施しておりますが、このプログラム実施に見合う小学校校舎の建設プラン作成を坂茂氏に依頼し、現在最終的な検討段階に入っております。

第5は、学園の環境整備の推進です。武蔵野市からの地域環境の緑化への協力要請に答え、中高外周の緑化を年次計画に従って進めることにいたしました。今後の環境整備については、学園の財政状況を見ながら必要性の高いものを選定し順次実施計画を立てていく予定にしています。

最後に、地球温暖化防止対策も含めた学園の環境問題に対する取り組み方を自律的に検討するために、学園環境委員会を設置し、学園としての考え方を示してゆきたいと思っております。

列挙しましたハードウェアとしての施設建設は、教育を行うための環境整備であり、大切なことは如何に良い教育を実施出来るかというソフトウェアの構築です。今後、質の良い教育機関として、成蹊学園が高いレベルを保てるように専務理事の立場から最大限の努力をしたいと思っております。

皆様からご支援とご協力を賜りますことをお願いし、就任の挨拶とさせていただきます。

略歴	職歴	学内経歴	賞 前	所属学会
昭和38年3月 成蹊中学校卒業	昭和50年4月 (財)日本自動車研究所 入所	昭和56年4月 英国サンブトン大学音響振動研究所 Visiting Research Fellow (昭和57年3月迄)	昭和45年3月 (社)日本機械学会島山賞	(社)日本機械学会
41年3月 成蹊高等学校卒業	54年3月 (財)日本自動車研究所 退職	平成4年4月 工学部機械工学科主任 (平成6年3月迄)	平成2年5月 (社)日本騒音制御工学会 研究奨励賞	(社)騒音制御工学会
45年3月 成蹊大学工学部機械工学科 卒業	54年4月 成蹊大学工学部常勤講師	6年4月 大学評議員 (平成8年3月迄)	7年9月 SAE Recognition Award	(社)日本機械学会環境工学部門研究業績賞
47年3月 成蹊大学大学院工学研究科 修士課程修了	55年4月 成蹊大学工学部助教	10年4月 大学評議員 (平成12年3月迄)	10年7月 (社)日本機械学会環境工学部門研究業績賞	(社)日本機械学会フェロ
50年3月 成蹊大学大学院工学研究科 博士課程単位取得退学	平成2年4月 成蹊大学工学部教授	12年5月 専務理事補佐 (平成18年3月迄)	18年3月 (社)日本機械学会フェロ	
53年3月 工学博士 (成蹊大学)	現在に至る			



# 理工学部長に就任して

ひろ 田 明 彦  
ひろ た あき ひこ

このたび、上原信吾前学部長の後をうけて、理工学部長に就任いたしました。昭和37年に開設され、以来多くの有為な人材を社会に送り出してきた工

学部は、平成17年4月に理工学部へと改編され、物質生命理工学科、情報科学科、エレクトロメカニクス学科の3学科構成に生まれ変わりました。本年度はこの理工学部開設2年目となりますが、理工学部と工学部が併存しているため、教職員は業務に追われる多忙な毎日を送っています。学部の設置理念に基づいての、完成に向けての実行、運営が私に課せられた任務と思ってい

ます。微力ではありますが、学部ひいては大学、学園の発展のために力を尽くしたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

理工学部では、知識社会の進展に貢献しうる人材の育成を掲げ、理学科を強め、生活の利便性、消費財の生産の追求から、自然との共存、地球環境、グローバル化への対応などを含めた全地球的な観点に立つての教育を行い、広い視野をもち、物事に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。このため各学科では、従来の機械、電気・電子等といった学問分野の枠にはめられず、複数の学問分野を系統的、有機的に集結し、各学科の対象とする科学技術分野の基礎を著実に学べる科目構成をとっています。これは多くのことを学ぶ意欲をもつ好奇心が旺盛な学生と、分野を超えた協同・協力作業技術の融合が必要な企業や社会の要請に応えるものであります。

2005年度の国勢調査により、江戸時代から増加してきたわが国の人口

が初めて減少に転じ、今後もこの傾向は続くという結果が発表されました。

また、団塊世代の大量退職が始まる2007年問題では、企業関係者の多くが、技術、技能の継承に危機意識を抱いています。資源に乏しいわが国が今後も豊かな社会であり続けるには、科学技術立国を堅持していく以外に方法はないと思います。それには、独創的な付加価値の高い製品を作り出し、新しい発想による科学技術を生み出し続けねばなりません。公式を覚え、それに代入して答えのみを求めるといったことから、答えを見出すべく学生が自ら進んで学び、挑戦していく精神を培う教育を行うことが必要です。そこで、1年次に科学技術への興味と意欲を高めるために、各教員が少人数クラスを担当し指導するフレッシュマンゼミと、物理学、化学の双方を含む理学基礎実験を配置しています。また、就職活動を考慮し、インターンシップを全学科3年次に配置して企業における活動の

実際を体験する機会を設け、さらに3年次後期から研究室に配属させて卒業研究の準備段階の教育を実施し、教員との密接な接触と指導が行われるようにしています。これらの過程をおしりて、倫理観と教養を備えた、21世紀を

支える技術者の育成にあたります。

今後は、学部完成に向けての問題の見直しと大学院改革についての議論を深め、よりよい理工学部と大学院研究科の実現に向けて取り組む所存です。卒業生の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

略 歴	
昭和43年	室蘭工業大学工学部機械工学科卒業
昭和45年	東京工業大学大学院理工学研究科 生産機械工学専攻 修士課程修了
昭和48年	東京工業大学大学院理工学研究科 生産機械工学専攻 博士課程修了
昭和49年	東京工業大学工学部助手
昭和51年	成蹊大学工学部講師
昭和63年	成蹊大学工学部教授
平成18年	成蹊大学理工学部長兼工学部部長
長	成蹊大学大学院工学研究科
専門分野	機械加工学



# 小学校長に就任して

金納善明

このたび、岡崎彦彦前校長の後任として小学校長に就任いたしました。

小学校は、少人数教育体制と新校舎建設という重要な課題を具体化する変革期を迎えております。この時期に大任をお受けしましたうえは、微力ではあります。最善を尽くして学校の発展に努力いたす所存でございます。なにとぞ、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私は、昭和五十年に成蹊小学校に着任いたしました。前任校の大先輩である清水晴男先生にお声を掛けて頂いた



のが、成蹊との出会いでした。

当時の小学校長野村純三先生のお勧めで、三月の初めに成蹊学園を訪れました。正門から学園本館に連なる見上げるばかりの櫺、そしてトラスコンを過ぎて小学校エリアまで続く櫺、この成蹊の自然の豊かさに圧倒されたことを、今でも鮮明に思い出します。

恐らく、卒業生の皆様も、成蹊の原風景として櫺と櫺を挙げてくださるにちがいありません。それは、教師としての私にも同じように鮮烈な印象を与えてくれる「成蹊そのもの」でした。

そして、清水晴男先生に紹介していただいた先生方のお顔が懐かしく思い出されます。本館三階の職員室でソファに座っておられた赤堀秀利先生は、煙草を燻らせながら、「やつ」とソフトな会釈を返してくださいました。教材を両手に抱えドアを体ごと押して登場された星野慶治先生のお姿も忘れられません。新参者の私をごく自然に迎え入れてくださった当時の成蹊小学校の先生方は、私にとっても大切な成蹊

の原風景なのです。

成蹊小学校での初めての学年は、山形為次先生と清水晴男先生。翌年清水晴男先生がご退職になると、亀村五郎先生が同学年の担当でした。今思い返せば、息子のような年齢の私を、我慢強く見守ってくださいました先生方でした。恥ずかしくまた懐かしい思い出です。子どもたちばかりでなく、教師も成蹊で育つのだと思わずにはいられません。

そして三十数年が経ちました。冒頭にも申し述べましたように、成蹊小学校は、今、変革期にあります。

良き伝統を継承するとともに、新しい時代の成蹊を創り出すのも、私ども教員の責務です。幾多の先駆的実践を世に問うた諸先輩の業績を真摯に学び取り、新しい成蹊小学校をしっかりと創り出していかなければなりません。

少人数教育体制に備えて、今年度から小学校教員は三十七名となりました。教員一人ひとりが「内なる成蹊」を子どもたちにどのように伝えていくのか、その子どもたちが「内なる成蹊」をどのように次代に伝えていくのか、考えてみると、我々教員の責任は重大です。もちろん、小学校の全てが卒業生の皆様の「内なる成蹊」と寸分違わぬも

のであり続けることは到底不可能です。時代を読み、時代に先駆けた教育を果敢に実践するためにも、私は当時の野村純三校長が雑誌「成蹊教育」の論文の表題とされた『伝統の継承と超克』を座右の銘としたいと思います。

「継承」に甘んずることなく「超克」に身を投ぜよ：右の八文字を、私はそのように読み取っています。

## 略歴

昭和23年	福岡県大牟田市生まれ
昭和47年3月	千葉大学教育学部卒業
昭和47年4月	千葉県船橋市立法典東小学校教諭
昭和48年4月	千葉大学教育学部附属小学校教諭
昭和50年4月	成蹊小学校教諭
昭和55年4月	成蹊小学校研究主任
昭和58年4月	成蹊小学校国際主任
平成3年4月	成蹊小学校研究主任
平成6年4月	成蹊小学校教務主任
平成15年4月	成蹊小学校総務主任
平成17年4月	成蹊小学校教頭
平成18年3月	成蹊学園評議員
平成18年4月	成蹊小学校校長
	成蹊学園理事・評議員

# 成蹊会活性化への期待

## 成蹊会活動に望むこと

### 1

#### ◆これまでの70年、これからの70年

成蹊学園理事長 岸 暁

「成蹊会」が本年創立70周年を迎え、またしたことを皆さんと共に心から嬉しく思います。

成蹊学園に属する各学校のそれぞれと同窓会が集まり、一つの組織のもとにつどうて、法人格まで持っている学校は稀に見るケースで、先人の見識にかながね敬服しております。私立学校は何と言っても卒業生の力に支えられて成り立って行くものです。これは財



政面でも、精神面でも等しく言えることです。よく外国の例を耳にするのですが、著名な私立学校では、通常は莫大な基金をもち、そのうえ卒業生はじめ関係者の活発なドネーションに支えられて、良い教育、良い学校を目指しております。これは日本と他の先進国との社会通念・文化の違い（収入や資産の一定割合は自発的に社会に還元するのが当然という伝統）や、成功者の収入のレベルの違い、あるいは税制の違いなどがあり、ただちに欧米のような訳には行きません。いきおい良い教育を受けさせるためには、ご父母に莫大な負担がかかっています。成蹊会ではこれを少しでもカバーすべく、学園に対する支援のなかに、「奨学金」を

重要な活動として、継続的に行っております。

今日ほど日本にとって教育の重要性が感じられる時代はありません。近代史を紐といてみると1968年以降日本政府は国内諸勢力の均衡をはかりつつ、先進諸国の軍事的圧力に耐え、厳しい財政事情のなかで、近代的人材の養成に努め、（その後の失敗はあったものの）ひとまず大国の仲間入りが果たせた大きな要因は教育を重んじ、それに投資を惜しまなかったからにほかなりません。しかもその過程で、国を中心の教育に対する反省として、中村春二先生をはじめとする大正自由教育が生まれてくるなど自浄能力があったことも注目されます。卒業生の果たすべき役割は勿論財政面だけではなく、母校の教育のあり方について、絶えず関心を持ち、主張し、その方向をただして行くことも大切です。その教育を体験した者のみが果たせることがあることに、思いを致して下さい。成蹊学園は中村春二先生の建学の理念を、非常に尊重しながら教育にあたっており

ます。そのなかには成蹊会の力が非常に重要な役割を担っております。昨年「学問と情熱 中村春二」のDVDが発刊され、本年はまた、先生の生涯のマンガが発刊されたのも、ひとえに成蹊会のお力あつてのことでした。

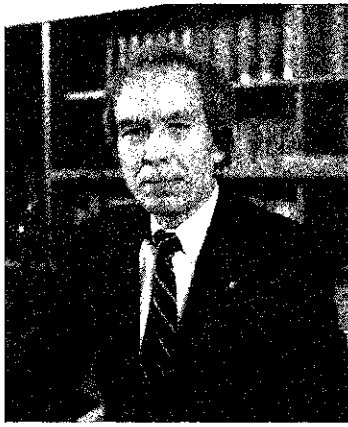
学園としても建学の理念、学園の伝統をどうすれば正しく伝え、活性化出来るかを今後も考えてまいります。関係者の皆様も是非活発なご議論を頂きたいと考えております。そのことについては、過去のセンチメンタリズムだけではなく、未来にむけて高い理想をもって努力して行きたいと考えております。今日の世界のなかにあつて、教育の成果をどう求めるかという課題は決して生易しいものではありません。今、中村春二先生がいらっしゃったらどう仰るだろうか、成蹊学園の同窓生、教職員、ご父母など関係者のみなさまには次なる70年を展望し、学園に厳しいご鞭撻と、暖かいご支援を、引き続き賜りますようお願いを申し上げます。70周年お祝いのご挨拶と致します。



## ◆成蹊会と成蹊大学

成蹊大学長 栗田 恵輔

創立七〇周年を迎え、おめでとうございます。これまでの長い期間にわたって、成蹊会の活動を支えてこられた多くの関係者に対して敬意を表します。本学の卒業生を成蹊会として組織していただいているおかげで、同窓会活動がスムーズに運営されております。また、在学生に対する育英奨学金、スポーツ振興・文化振興助成金、および教員の教育研究活動を対象とした助成金、学術賞などで大きなご支援をいただいております。



成蹊大学はこれまでに、約六万四千人の卒業生を送り出してきましたので、成蹊会の中でも特別に大きな集団となっております。現在、一学年に一八〇

〇名から一九〇〇名が在籍しておりますので、これからも成蹊会にしめる大学卒業生の割合は増大し続けることとなります。成蹊会が大学にとってきわめて重要な組織であることは言うまでもなく、連携をさらに強めて卒業生との緊密な関係を構築していきたいと考えております。

しかし、せっかく成蹊大学に在籍しても卒業してしまうと大学、成蹊会との結びつきが弱くなるのは残念なことです。この傾向は、ほかの大学でも似た状況にあります。結局は、本学に在籍したことに對する満足度を高めるための努力をすることが、地道ではあります。大学としての基本であり、母校に對する帰属意識を高めると思っております。また、成蹊会を中心に卒業生のネットワークづくりを進め、会員であることのメリットをさらに創出していただければと願っております。成蹊会の一層の発展を祈念しております。

## ◆成蹊会の発展を期待して

成蹊中学・高等学校長 谷 正紀

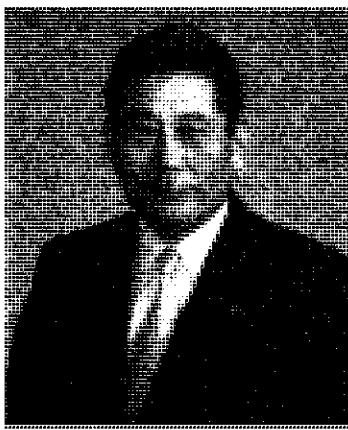
70年の長い歴史にわたる成蹊会の活動は成蹊中学高等学校にとりましても今日の発展の大きな原動力であり、それぞれの時代における諸先輩のご理解とご支援に深く感謝致しております。かような学校の諸活動へのご支援は物の両面があると言えます。

「物」すなわち資金面で生徒の奨学金や部活動へのご支援は生徒、保護者、教員にとって心強いものがあります。

おかげさまで昨年度の部活動ではテニス部、馬術部、ラグビー部などの活躍に目覚しいものがありました。特に高校ラグビー部の花園出場の際には、物心両面での大規模な応援を頂き生徒の士気も大いに上がりました。その後も中学高等学校の運動部の振興について多額のご寄付を頂き感謝致しております。

また、生徒のみならず教員の研究活動へのご支援も頂き、教育力の向上に貢献しております。さらに創立100周年に向けての将来構想の推進に際し、教育施設の再開発について大規模な募金活動のご支援を賜りました。今後とも多様化する学校の教育活動に對し継続的かつ発展的な資金面でのご支援をお願いする次第であります。

また「心」として人的なご支援も学校の諸活動の大きな力となっております。生徒の部活動の指導などは得がたいご支援と深く感謝致しております。今後、教育面で生徒の社会性や主体性の伸長のためにキャリア意識を醸成する教育、さまざまな実社会を見学したり、社会で活躍されている各年代の諸先輩の体験をお聞きしたりすることが重要な要素と認識しておりますので、このような面での組織的なご支援も期待しております。



今後とも成蹊教育の充実・発展に向けて、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、成蹊会の益々のご発展を祈念致します。

## ◆成蹊会設立七十周年を祝して

小学校長 金納 善明

成蹊会設立七十周年、まことにおめでとございます。

ここに、私も小学校がご発展のお慶びを申し上げることができません。永年にわたっての成蹊会のご支援の賜物と、改めて深く御礼申し上げます。

さて、頂戴した稿題は「成蹊会活性化への期待」ですが、微力な私にはいささか荷が重い感もあります。

この成蹊会の組織活性化のご努力は、瀧秀彦会長の発議によるプロジェクト「チーム21」で検討が進められていることなど、HP上でも拝見してまいりました。こうした自助努力こそが、十一の学校・学部を束ねた会員七万名の成蹊会活性化の王道と賛同いたします。

また、小学校としては、特別委員会



のご努力に対しても、常日頃、感謝申し上げております。特に（学術・教育助成）、（スポーツ振興）、（成蹊桜祭）の各委員会には、教員の研究推進や児童の教育機会の拡大充実に関して多大なご支援を頂戴してまいりました。

七つの特別委員会が有機的に結合した「卒業生による新しい卒業生の育成」という公益事業のスタンスに感謝申し上げるとともに、今後の拡充発展に期待いたしております。

私が言うまでもなく、教育は単なる知識の伝達ではありません。教師が熱く語り練り広げる学習の面白さに、子どもたちは「あこがれ」を抱くのです。この「あこがれ」が自立的な学習を生み出し、個性を持った人としての成長がはじまります。その意味でも、成蹊会は、まさにリアルタイムでこの「あこがれ」を実証してくれているのです。こう考えていくと、成蹊会活性化の方策は、私も小学校教師が成蹊会の活動をより理解し、一致協力するといふ点に集約できるのかもしれない。

## ◆北海道支部

北海道支部 会長 小林 敬明

テレビで、時々「台風はこの後北海道に去ります」という言葉で頭に来る事があります。「何で、全てが東京中心なんだ。北海道に去ったら、影響ないのか?」と。

しかし、現実には「北海道を除き、景気は概ね回復した」というニュースもあるのです。

そんな中でも、成蹊会のメンバーは元気です。北海道支部には約300名の会員が登録されています。経済界、農林水産界、学会、医師会など多士済々です。2月の枯林忌には定期的に集まるほか、ゴルフ会なども開いては母校を語り合っています。

このほか北海道には、朋友会というのがあります。成蹊、学習院、成城



武蔵の4学園、フォーの友の集まりです。各校対抗ゴルフ、忘年会も盛大に開かれます。昨春秋、このゴルフで成蹊が優勝、稼いだ賞金を基にして、僅かばかり、百周年募金に寄付させていただきました。些少で申し訳ありません。

さて、世の中、東京中心ながら、北海道の成蹊会メンバーは、地域振興に汗を流しています。そして子弟を成蹊に送り出しています。

成蹊は数の上から、東京に重点を置かざるを得ず、就職も東京中心になることは致し方ないでしょう。しかし、成蹊は全国の成蹊です。学生募集も、就職も地方をもっとと大事にしていただきたいと思います。総理の小泉さんも、成蹊会の安倍さんも「格差社会は無い」と言われますが、実際には「台風が北海道に去る」意識が蔓延していませんか?

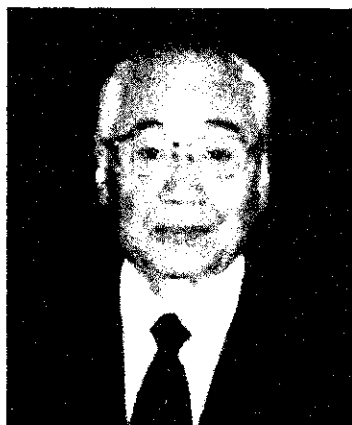
地方は成蹊に期待しています。

(政経・32年)

## ◆東北支部の現状と活性化

宮城成蹊会 会長 小田島司郎

成蹊会70周年おめでとうございます  
 東北支部は、福島・山形・宮城・秋田・岩手・青森の六県の構成で、時間距離、費用等考えても関心度がよほど高くないと一堂に会するのはむずかしいと思います。又、同じ県内でも日帰りが出来ないところも数多くあります。以上の理由で十数年前より各県単位で開催するようにすすめて参りました。秋田・宮城・青森・山形県は実施されており、岩手県は以前数回開催されましたが今は休会状態のようです。福島県は未だ開催されておりません。県単位になって東北トータル出席人数は数倍になったと思います。



が所在不明でもどつて来ます。最近は転入・転出の連絡もあまり期待できません。この傾向はここ十数年徐々に強まって来てるように感じます。会員との連絡が取れないということは活性化以前の問題です。

活性化の試みとして近くの会との交流を考えておりましたが、たまたま昨年山形成蹊会からお誘いがあり、宮城から三名が出席致しました。会の運営他色々勉強になることも多く刺激を受けて帰って参りました。今後この様な催しが続ぎ、参加者も増えれば活性化に繋がるのではないかと思います。事情が許すなら離れた地域との交流もあって良いのではないかと思います。名簿は会にとって最も重要な財産であり、活性化を進めるについてもその基盤となるのは名簿です。活性化には若い会員も必要です。小学・中学・高校・大学に対して時期を見計らって学校と協力して成蹊会の存在と意義をアピールすることも大事かと考えます。成蹊会を知らない人もいるようです。本部には名簿整備を更に徹底して頂くよう期待いたします。(高・28年)

## ◆千葉支部の経緯と活性化に向けて

千葉支部長 安田 敬一



成蹊会設立70周年を心より慶賀申し上げます。今年も奇しくも、千葉支部も設立55周年を迎え、7月1日(土)に祝賀総会を千葉市商工会議所ホールにて開催する準備を進めております。

それにつけても、成蹊会並びに千葉支部設立に甚大なるお力を頂いた故谷岡喜久蔵先生と香月秀雄先生のご人徳が偲ばれます。成蹊会誌バックナンバーを繕ぎますと、千葉支部として正式に発足したのは昭和26年(1951)5月19日開催の支部設立総会の日といわれています。当時の千葉支部は、千葉医科大学卒業生を核とした集まりであったのが、年数を重ねるにつれて千葉県在住の成蹊マン人口も急増し、現在(2005年)の会員数は3917名(内、本部年会費納入者602名)となつております。

翻つて、地域同窓会運営の根幹は、

会員名簿の拡充と熱心なボランティアの協力、加えて本部との積極的交流が不可欠です。当支部の場合は、総会時に把握した会員異動を直ちに本部へ報告して名簿管理の充実化に協力し、総会案内状の発送に際しては本部の援助(正会員のアドレス・シートの提供)を得るなど常に密なる相関関係により、年々盛会裡に運営されておりますことは周知のところですが、また、昨年から年一回の総会開催に止まらず、春秋に各種イベント(千葉市さくらウォーキング/有志によるゴルフ・コンペ)を企画して会員各位の要望に添えていきます。

今後の課題としては、本部の協力を得て当支部の正会員名簿を作成すると共に、ボランティアに徹した次代を担う人材発掘による組織の活性化を図りたいと念じております。

本部の更なる発展を祈念し、平素のご指導に対し深甚なる謝意を表します。

(政経・28年)



## ◆京滋成蹊会と関西支部

京滋成蹊会幹事 高城尚久

京滋成蹊会は京都、滋賀在住の卒業生の地域同窓会です。会設立以来、徳広和三先輩の幹事役により執り行われてきましたが、数年前より中野洋一氏（高37）と私が引き継ぐこととなりました。

主たる活動としましては過去

「夏の貴船」、「桜の円山公園」など、

「いい季節のいい場所」を探して懇

親会の場を設けさせていた

おります。昨年は秋に予定して

り各方面に手を尽くしたのですが

開催には至らず、本年こそはと考

えております。また、ご出席につ

きましても特に京滋成蹊会の会員

を限定しておりませんので、過去

にも他会会員の方もご参加もいた

だいております。

今後「いい季節のいい場所」

が見つかりましたら開催していく

予定しておりますので、その際は本

会のご協力を是非ともお願いいた  
します。

尚、京滋成蹊会は関西支部のと  
りまじめをさせて頂いております  
が、関西支部単位の活動は他の関  
西同窓会と協議して進めてまいり  
ます。

（経・平4年）

## ◆中国支部の活動と課題

中国支部長 奥田久徳

成蹊会支部の中では中国支部は新参  
の支部で、正式の発足は昭和50年だっ  
たと思う。当時、支部会員名簿を作っ  
たが会員数は少なかった。一人ごとに  
往復はがきで案内し、毎年1回は集ま  
って総会を開いた。

昭和53年に第1回広島寮歌祭が開催  
され成蹊も参加することになり、旧制  
高校卒だけでは少人数なので後継校卒  
の有志にも参加してもらい、以後第25  
回の最終回まで毎年参加を続けた。他  
校出身の有力者との交流の場ともなり、  
それまで低かった成蹊の知名度が飛躍  
的に高まった。

その間に次第に会員数が増えたので、

広島と広島以外の場所とで総会を交互  
に開く事も試みた。支部長も事務局も  
何度か変わった。やがて、各県ごとに  
成蹊会ができるようになった。

成蹊大学父母会地方懇談会と中国支  
部総会との合同開催も何度かあつて、  
有意義だったと思う。

支部活動の問題点としては、会員数  
が多過ぎると連絡の費用と手数が大き  
いこと、地域が広過ぎると参集が難し  
くなることだと思ふ。中国支部として  
は、山陽側と山陰側とで地理的距離は  
短くても時間的距離が長いのである。

現在はどこかの県の成蹊会に併せて支  
部総会を開く形をとっているが、県単  
位の成蹊会が充実すれば、現在の支部  
は屋上屋として不要になるのではある  
まいか。

中国支部の範囲では、島根と鳥取の  
両県にまだ成蹊会が無い。山陰成蹊会  
を作れば良いと思う。

（旧高・22年）

## 初夏の成蹊



本館前の榎

## ◆九州支部

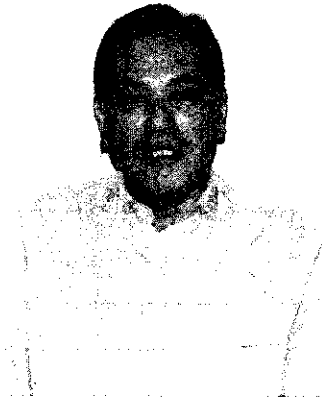
九州支部長 川西 到

同窓会には格別の楽しみがある。

私事で恐縮だが兵庫東北部の中学校を卒業して六十年近くになるが卒業時のクラスの同窓会は今なお盛んである。健在者四十人余りが二年に一度は集まる。開催地は地元を始め東京、京都、福岡と様々だが、出席者は毎回半数を越えている。

半世紀を越えて同郷・同窓の仲間たちの集いは共通の思い出を愛しむ。身体動くうちは出掛けたいと思う。さて問題の成蹊会のこととなるとそんなに明解に答えが出るか誠に心許ない次第である。

昭和二十年代末、九州成蹊会は誕生した。五十年を優に越す。当初は、はるばる東京から九州大学に教師としてやってきた旧制成蹊高校卒業生を中心



にしたまさしく小さな同窓会だったが共通の思い出は色濃く、相互の大きな活力源となっていた。

今日の成蹊会は大学卒業生の増加とともに肥大化した。肥大化は組織を硬直させ、目的や意義が不明確となる。成蹊会は政治団体ではない。卒業生に政治家として活躍する人たちは少なくないが成蹊には政治家を育成する風土は無く政治とは無縁な世界である。

成蹊会は経済団体ではない。かつては三菱の子女の多くが入学し、かなりの数が三菱の関連企業に就職したが、いまの時代成蹊というだけで優先する企業は皆無だろう。

成蹊会はどんなに大きくなっても同窓会なのである。しかしマンモス化した同窓会は学園内のみならず地域社会へ広がりを持つ存在として責務がうまれる。

九州成蹊会は2005年現在600人を越えている。毎年十月に総会を開いているが、二年に一回福岡を離れて九州各県に回している。出席者は減少するが地域社会との結び付きが希薄な成蹊をアツピールするためだ。それが成蹊会の役割と信じているからである。

(政経・34年)

## 成蹊大学 オープンキャンパス2006

オープンキャンパスでは、入試、学部学科の内容、留学、学生生活などを知っていただくために、多彩なプログラムを用意しています。卒業生の皆様もご来場いただけます。教職員や在学生と直接触れあう機会も数多く用意しており、情報だけではわからない成蹊のたくさんの魅力をお伝えします。

### 開催日

- 第1回 7月29日(土)、30日(日)
- 第2回 9月17日(日)、18日(祝)
- 第3回 11月25日(土)、26日(日) 大学祭期間中
  - ◎ 各回とも午前10時より受付開始。受付終了16時30分。
  - ◎ 時間内入退場自由
  - ◎ お車でのご来場はご遠慮ください。
  - ◎ 第3回は内容が異なります。

### 内容

資料配布／キャンパス見学ツアー／体験講義\*／成蹊大学ガイダンス／理工学部ガイダンス(理工学部見学ツアーを含む)\*／AOマルデス入試ガイダンス／AOマルデス入試講義理解力審査過去問題ビデオ上映(経済学部)／教員・学生による相談コーナー、入試相談コーナー／留学相談コーナー／学生生活相談コーナー／図書館見学ツアー

\* ホームページ ([http://www.seikei.ac.jp/university/enter/enter\\_ocampus.html](http://www.seikei.ac.jp/university/enter/enter_ocampus.html)) にて詳しい内容をご確認ください。

### お問い合わせ先

成蹊大学入試課  
武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

<電話> 0422 (37) 3533 <Fax> 0422 (37) 3864 <E-mail> nyushi@jim.seikei.ac.jp  
URL PC <http://www.seikei.ac.jp/university/> Mobile <http://www.seikei.ac.jp/k/>

# 社団法人成蹊会の設立と経緯

昭和11年、当時の成蹊学園の各学校同窓会が大同団結して、学園創立（明治45）以来の卒業生団体として「成蹊会」を設立しました。

その後、昭和30年、文部大臣（文部科学大臣）の許可を受けて公益法人の法人格を取得し、「社団法人成蹊会」として現在に至ります。

大正5年	(1916)	成蹊実務学校第1回生卒業。(15名)
大正6年	(1917)	成蹊小学校第1回生卒業。
大正7年	(1918)	成蹊中学校(旧制)第1回生卒業。
大正8年	(1919)	成蹊実業専門学校(別科)第1回生卒業。
大正9年	(1920)	成蹊実業専門学校第1回生卒業。 成蹊女学校第1回生卒業。
昭和3年	(1928)	成蹊高等学校(旧制)第1回生卒業。
昭和11年	(1936)	学園創立者中村春二先生の胸像除幕式挙行(北村西望氏製作)。これを契機に、建学以来の各学校同窓会が大同団結して卒業生団体「成蹊会」を結成。(会長、丹羽孝三)
昭和12年	(1937)	「成蹊会」設立総会。
昭和24年	(1949)	成蹊大学医歯学進学課程(プレメディカルコース)第1回生修了。 機関紙「成蹊会誌」第1号を発刊
昭和25年	(1950)	成蹊女子学園第1回生卒業。 成蹊高等学校(新制)第1回生卒業。 成蹊会支部(九州支部、関東支部、東海支部)を結成
昭和26年	(1951)	成蹊会支部(北海道支部、千葉支部、東北支部)を結成
昭和27年	(1952)	成蹊大学政治経済学部第1回生卒業。
昭和30年	(1955)	文部大臣の設立許可を得て「社団法人成蹊会」(公益法人)に組織変更
昭和31年	(1956)	成蹊会育英奨学金制度を設ける
昭和32年	(1957)	「社団法人成蹊会功労者謝恩顕彰規程」を設け「恩師謝恩会事業」を開始
昭和33年	(1958)	「成蹊倶楽部」を開設(数寄屋橋のニユートーキョービル7階)
昭和34年	(1959)	学園創立50周年事業として元理事長「岩崎小弥太」レリーフ建立(北村西望氏製作)
昭和38年	(1963)	元池袋公園内に「成蹊学園発祥之地」の碑を建立。(平成10年に元池袋史跡公園に移転) 学園賛助員「今村繁三」像を大学1号館前に建立(菅原安男氏製作)
昭和41年	(1966)	成蹊大学工学部第1回生卒業。
昭和42年	(1967)	成蹊会会員総数が1万名を超える
昭和44年	(1969)	成蹊大学文学部第1回生卒業。
昭和45年	(1970)	成蹊大学経済学部第1回生卒業。 成蹊大学法学部第1回生卒業。
昭和49年	(1974)	成蹊会学術、教育研究助成制度を設ける
昭和50年	(1975)	成蹊会国際交流基金を設ける 成蹊会支部(中国支部)を結成
昭和52年	(1977)	第1回「成蹊桜祭」開催～成蹊会主催、成蹊学園後援～
昭和57年	(1982)	電算処理により作成の「成蹊卒業生名簿」を発行
昭和59年	(1984)	第60回枯林忌追悼会、以降学園と成蹊会の共催開催となる
昭和63年	(1988)	成蹊会本部事務局を学園本館から学園史料館に移転
平成2年	(1990)	成蹊会学術表彰制度を設ける
平成3年	(1991)	成蹊会スポーツ振興基金を設ける
平成8年	(1996)	谷岡基金を設ける
平成13年	(2001)	成蹊会文化振興基金を設ける(平成8年からの旧谷岡基金の全額を移す)
平成18年	(2006)	成蹊大学大学院法務研究科第1回生修了。



～私の推める本～

## 『理系のための独創的発想法』

ミグダル著 長田好弘訳 (東京図書1500円)

研究の現場と研究者のこころ

いたむら のりあき  
板村 賢明 (工・平16年)

ア・ベ・ミグダルが書いた、「理系のための独創的発想法」という本を私の大学生活と併せて紹介したいと思います。この本は、私の大学生活の基盤となり、好奇心旺盛な私を作り出してくれました。私の研究のスタイルに大きく影響を与えた一冊と言えます。

## ◎出会い

私が、この本と出会ったのは、高校を卒業して間もなくの事でした。成蹊大学工学部物理情報工学科に入学が決まり、将来はノーベル物理学賞を受賞するのだと、野望に満ちている時でした。そんな中、「理系のための」という専門性を強調し、「独創的発想法」というノーベル賞をとる為の「虎の巻」を匂わせるタイトルに惹かれ、安易な考えでこの本を手にしたのです。

## ◎本の内容

実際この本を読み終えると、当初私が想像した内容・目的とは全く違う本であることが解りました。私が期待していた「独創的な思考力は、このようにしたら身につく。」といった受験参考書の様なノウハウは一切書かれていません。むしろ、著者自身が「はじめに」で述べているように、「科学者をつき動かしている原動力とは何か?」「どのような問題や困難がつきまとうのか?」といった問題を、著者の科学者としての経験をもとに、精神面にまで立ち入って多くの事例を紹介しながら検討しているという本だったのです。

## ◎『原動力』それは『好奇心』

科学者に限らず、創造的な仕事に携わる方の原動力を、筆者は、『自分の能力を確証したい欲望』、『自己表現の欲求』だと指摘します。そして、もっとも重要な原動力は、『自然に対する好奇心』であり、『自然がどのように成り立っているかを知りたいという願望』であるとも述べています。この主張は、TV番組(トリビアの泉(フジテレビ))の冒頭で述べられる『全ての人間は生まれながらにして知ることを欲する』というアリストテレスの言葉からも納得、共感できる部分でした。

当時の私はこの本の影響を受け、『好奇心』が『原動力』に変わるという信念のもとに、大学で、



ほぼ毎日1～5時限目まで講義を履修し、その後、部活動に専念するという生活をする中で、好奇心を養おうと積極的に行動しました。メインである物理学の分野だけでなくその他の科学分野および教職課程と、学部時代に235単位という数を修得した結果、科学そのものの勉強で得られた能力の他に、講義の中で『なんだらう』と不思議に思う気持ちが芽生え、その気持ちが『好奇心』へと変貌し、いまの研究の『原動力』となっている事を実感しています。

## ◎研究の現場を知る本

私はナノテクノロジー研究室に配属され、数々の賞を受賞されている佐々木成朗教授と出会いました。佐々木教授は、私たちの研究の結果を見て、「正しい」とは言わず『おもしろい!』と表現します。そして、シビヤな顔というより、何か楽しいことでもするかの様な笑顔で、新しいアイデアを提案していただけます。その様子はまさに、この本に書かれている『科学者の努力というのは、人びとが注目するような成功をおさめようとするためのものではなく、知識への渴望と自然の不思議さの魅力、そして日々の小さな一つ一つの成功の喜び、とりわけ、科学における美への感性によって動機づけられるものでなくてはならない。』という言葉の生きたお手本だったのです!

この本は、上で述べたように研究の現場について詳しく書いてあるだけでなく、(ここでは紹介できませんでしたが)研究者が注意すべき点や、心構えにも多く触れています。ですから理系の皆さんは勿論の事、文系の皆さんにも、普段接することの無い研究の現場と研究者のハートを垣間見る本として、是非本書をお勧めしたいと思います。

## 「あの頃の私たち」

こいけまりこ  
小池真理子氏  
桐野夏生氏  
対談

本稿は、平成17年11月20日に成蹊小学校体育館で開催された文学部創立四十周年を祝う会での対談内容を抄録したものです。

司会：それでは、成蹊大学文学部創立四十周年を祝う会を始めさせていただきます。第一部は本学の卒業生でもあり、直木賞受賞作家の小池真理子さんと桐野夏生さんに「あの頃の私たち」と題しましてお話を伺いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。小池：なんか照れますね。桐野さんとは、同じ大学の出身だということは知



つてたんですけれど、初めて知り合っただのは、文藝春秋社のオール読物新人賞の選考委員会の時ですよね。桐野：同じ業界にいるのにな、選考委員会です。桐野：二回目くらいに会ったときからいきなり飲みに行つて、仲良くなりました。こういう場所で、改めて話す関係じゃないんですけど。成蹊大学に入学されたのは、確か私より一年以上ですよね。桐野：七〇年の入学なんです。小池：私は一浪しているから、学年で言ったら二年上なんだ。桐野：そのとき小池さんは仙台にいらしたんですか？小池：うん、私ね、東京で生まれたんですけど、父の転勤であつちこつち行つて。大学に入るとき両親は仙台にいて、私は東京でアパートの四畳半暮らし。

桐野：そのころは、もちろん小池さんとは知り合っていないかつたし、成蹊でも学部が違うからなかなか会わないものね。小池：でもキャンパスのどっかで、絶対すれ違つていたよね。桐野：うーん、私あんまり大学に行かなかつたから。小池：何してたの。(笑) 留年とかしなかつたんでしょ。桐野：してない、してない。(笑)小池：じゃ、一応、単位は取つて。桐野：もうすごいぎりぎり。単位が取れて、卒業できるかどうかという張り紙を見に行くまでもうドキドキで。優なんか一個くらいいしなくて。小池：そのときは両親と一緒に暮らしていたの？桐野：一回も下宿とかしたことないの。うちの父が私、中学二年のとき札幌から東京に転勤になつて、武蔵野市の北町四丁目に住んでいた。中学の転入でこつちに来るとき、父に「成蹊って、いい学校があるから転入しないか」って言われたんだけど、結局、四中という中学校に転入して、そこから別の高校に行つて。で、まさか大学で成蹊に来るとは思わなかつた。小池：大学はここが第一志望じゃなかつたの？桐野：うん、まあ違つた。(笑)小池：実は私なもの。(笑)桐野：でも私なんか、補欠でようやく

ここを受かつたくらい。で、どうしようかなと思つたんだけど、浪人する気概も無いというか、入れていただけるなら入れていただきましようという、限りなく消極的態度で。小池：私も父にね、成蹊大学ですごくいい大学があるから、とにかく受けてみるつて。実を言うと私、早慶に行きたかつたんですけど、全然駄目で、それで慶応がなんとか補欠だったのよ。でも、寄付金を何十万円か払わなくちゃいけない。サラリーマンの父にとってもそこまで払えないと言われて、それで成蹊だけ受かつたので、入つたんですけれど。桐野：どんな学生だったんですか。小池：反抗的でした。私、高校時代は仙台で過ごして、それで七〇年に三島由起夫が自決して。そのころは、七〇年安保の全共闘世代の雰囲気、全国にまん延していた時代で、私は高校時代、制服廃止闘争とかやつちやつてね。桐野：エッセイで読みました。小池：お恥かしい。制服廃止なんてできなかった。ただ単に暴れていたかっただけ。高校のときから、授業途中に教室抜け出して、喫茶店行つたりとか、たばこ吸つたりとか、お酒はまだ飲んでなかつたけど。一浪してこ

こに入つて。成蹊大学つて、イメー  
的に父が推薦するだけあつて、とても  
いいところのお嬢さま、おぼっちゃま  
がいらしているという印象だったし、  
お金持ちって感じだった。

桐野…そうですね。

小池…桐野さんは東京の自宅から通つ  
てたからいいけど、私みたいに地方か  
ら出て来た者には、ほんとにこの人た  
ちお金あるなってびっくりした。だつ  
て私ね、月八千五百円の四畳半一間に  
住んでたの。お風呂が無いから、銭湯  
に行つたりしてたでしょ。仕送りが四  
万ぐらいたつたかな。

桐野…それって多いほう？ 少ないほ  
う？

小池…まあまあ普通。なんとかそれで  
食べていけるという。でもみんなと一  
緒に喫茶店に行つて、当時からチーズ  
ケーキとか、おいしいお店が吉祥寺に  
あつたじゃないですか。同学年の女の  
子と一緒にいって、最後にお会計する  
ときその人の財布をのぞくと、なんと  
お財布に一万円札が並んでたの、よく  
覚えてるわ。私はひと月四万円て暮  
らしてたのに。

桐野…私は自宅から通つてたから、食  
べるのには事欠かないんだけど、た  
だ自由が無く、下宿の人がうらやまし  
くて。十八ぐらいになつたら、外に出

たいけれども、やっぱり親がいるから  
外泊もできないし、ちよつとつまんな  
かった。

小池…それで、大学にあんまり来なく  
て何やつてたの？

桐野…吉祥寺のジャズ喫茶で週に一回  
バイトして、後の日は何してたかなあ  
雀荘に入りびたつていた。あとは本読  
んだり、映画観たり。映画はちよつと  
お金かかるからそんなに行けなかつた  
けど。

小池…今ほど娯楽というか、遊びに行  
くところもなかつたし、せいぜい映画  
を観に行くか、飲みに行くかでしたね。  
私、哲学研究会つてところに二年間い  
て、大学三年のとき、ECCつていう  
米語会話研究会を友だちと立ち上げて。  
哲学研究会の部室では、火鉢でするめ  
焼いたり、先輩たちは馬券買つたり、  
なんからくでもない学生生活してたよ  
うな気がする。

桐野…すごく時間があつて暇なんだけ  
ど、でも音楽聴いたり、なんか忙しな  
かつたです。今のネットの時代と違つ  
て、のんびりはしてたと思ふんだけれ  
ども、気ぜわしく過ごしていたような  
気もします。

小池…洋服をかうお金がないから、い  
つも着たきりすずめ。一枚九百八十円  
のTシャツを、買つて大切に着てた覚

えがある。成人式では成蹊のお嬢さん  
方、きちんと振袖着てたじゃない。自  
分は絶対に振袖なんか着ないし、成人  
式ポイコットとか言つて、赤ちようち  
んで飲んでた。

桐野…私も成人式行つてない。着物も  
つくつてもらつてないし。私、入学式  
も卒業式も出なかつた。

小池…ほんと。じゃ、卒業アルバム載  
つてないの？

桐野…多分、載つてない。

小池…私は卒業式は出たけれど、写真  
写すとき行かなくて。だから私の顔  
はアルバムに載つてないのよ。仕事を  
始めてから、だれかが調べたときに小  
池さんつて、アルバムにも載つてない  
し学歴詐称してるつて言われちゃつて。  
桐野…私が入学した当時は、小池さん  
が入る前で、ちよつと騒がしい七〇年  
安保のころでした。

小池…私なんか一回ロックアウトを  
経験しましたね。私が入学したころ、  
正門からケヤキ並木の辺りに、ずいっ  
と立て看板が立てられていた。でもこ  
の大学つて学生運動的に言つたら、相  
当静かだったですね。

桐野…今、学園祭なんかでたこ焼き売  
りとか見ると、平和だなと思ひますね。  
小池…噂によると、桐野さん、すごい  
成蹊で目立つたつて話聞いたことあ

るけど。目立つファッションしてたん  
じゃない？

桐野…どうだったかな。今でも覚えて  
るんだけど、ミニスカートが流行つ  
たころで、「ロペ」とかでよく買った。  
確かスカート丈が三十二センチとか、  
そういうのをはいていたような気がす  
る。今でも覚えてるのは、ジーンズ  
のジャンパースカートで、ミニスカ  
トロペのみたいのがあつて。デニムの  
それに黄色いシャツ着て、中に黄色い  
タイツはいてたの。(笑)

小池…なんだそれは。

桐野…でしょ？ 恥ずかしいです。

小池…ミニスカート全盛だもんね。吉  
祥寺の駅の階段を上がるときに、後ろ  
をね、バックで隠すかどうかつて、結  
構みんなそれで論争になつてたし。そ  
ういうファッションの移り変わりから  
しても、サブカルチャーの原点の時代  
を私たちは生きてなつて感じがする。  
音楽もファッションも、小説なんかも  
全部。今から考えればあんなに面白か  
つた時代はないよね。

桐野…小池さんは、割と七〇年ちよつ  
と前の作家に影響されてるようね。三  
島由起夫とか。

小池…そうねえ。あのころね、考えて  
みればすごいことだなと思うのは、三  
島由起夫とかが、ベストセラーに入っ



ていたんだよね。

桐野：うん、昔はね、新聞小説書くだけで家が建ったって言われるぐらい、純文学が売れてた。

小池：ベストセラーリストみると、上位五人ぐらい、純文学作家でしたよね。吉本隆明とか。あと倉橋由美子さんなんか、結構ベストセラー入ってたりしたことあったし。

桐野：倉橋由美子好きだったよ。

小池：私も好きだった。この間亡くなったけど、今のベストセラーリストをみると、隔世の感があるよね。

桐野：高橋たか子とか読んだ？

小池：私は旦那のほう、高橋和己の方を読んだ。あと、安部公房。それから芥川賞を取った柴田翔とかね。私たちよりちよつと前。六〇年代まん中辺ぐらい。

桐野：五木寛之さんとか読んだ？

小池：五木さんも読んだ、読んだ。

桐野：流行ったよね。新鮮だったよね。ほとんど読んだ。初期のころの『青年は荒野をめざす』とか。でもちよつとね、純文学とも違う感じで。

小池：直木賞では、五木寛之さんと野坂昭如さん。

桐野：大衆文学とか、言われてたころでしょ。

小池：そうだね。でも今のミステリー

と呼ばれるジャンルが直木賞の中に入ってきたっていうのとも、ちよつと違う。

桐野：エンターテインメントでもなくて、大衆文学みたいなの。

小池：大衆文学、だよ。海外文学はどうだったの？

桐野：結構読んだ気がするけど、あなまたみだいに系統だつて読んでいない。むしろね、B級が好きなのよ、向こう

のエンターテインメントとか。

小池：いわゆるミステリーエンターテインメントとか。

桐野：うちの父がミステリー好きで。よく中学ぐらいからこれ読め、読めって薦められて、いろいろ読んだ。私の

ミステリーの知識って、割と子どものころの知識なのよね。

小池：直木賞受賞した作品がたまたまミステリーだつたことではなくて、最初から、ミステリーでもって小説を書いているこうとしたの？

桐野：そうでもないんだよね。自分でどこに行ったらどう作家としてデビューできるかが分かんなかった。だから私、最初にまずロマンス小説というのを書き始めたの、ちよつとそのとき

マーケットが一番すごかったんで。ジュニア小説も書いたんだけど、その中間ぐらいにレディースコミックの

連載とかもあつて、今のライトノベル？ ライノベって言われるところにいたわけだけれど。でも読むものは文学って呼ばれているものだった。村上龍とか好きだったんで。

小池：私も好き。

桐野：そのころ書きたいんだけども、自分のような者に書けるわけがないと思つてた。文学つてすごくレベル高いものだと思つていたから。

小池：それ、まったく同じ、私も。

桐野：八七年ぐらいになつてようやく『文学界』とか『すばる』とかに応募していたけれどね。

小池：桐野さんは、いろいろ応募していたみたいだけれども、私はね、応募すらできなかったのよ。応募するようになタマじやないという、全然そこまでも達していないんじゃないかという、すごい卑屈でしたからね。

桐野：でも小池さんのデビュー作『知的悪女のすすめ』、すごい鮮烈だった。

小池：覚えてる？

桐野：覚えてる。買ったもん。だつて成蹊出て、私とそんな年変わらなくて、すごい綺麗な人で。しかもタイトルがね、すごいインパクトあつた。

小池：私は、きちんと小説を書いて、あちこちに持つていくことしなかったから、やっぱり安きに流れたという気

持があつて、エッセイを書いて知名度を先に出しちゃつたっていう。その分やっぱ苦労もした。まあ、遠回りして作家になつた感じがする。

桐野：世に問うつて大変だから。でもそれは全然無駄ではないと思う。私なんか、ものおじしてね、ライノベとかね、十年ぐらい回り道したつて気持はあるし。でも今みたいに芥川賞で二十歳ぐらいの女の子がボンと出るの、かわいそう。その年代では、書くものをためる時期じゃないかと思うし。

小池：十八、九や二十歳では後が難しいよね。

桐野：遠回りしたとき、時間を無駄にしたと思うけど、無駄なものは何一つないなつて最近思つている。

小池：やつと今になつてつくづくそう思う。でも最初は嫌で嫌で。新宿のゴールデン街に「M」っていう店あつたの、知ってる？

桐野：はい。

小池：そのママさんつて、もう何年か前に亡くなつていられるけれど、名物ママさんで、あそこ文壇バーだったじゃない。なんか私のエッセイ集読んだらしくて、小池真理子が来たら石投げて追いつ返してやるつて言つてみたい。桐野：ひどいですね。文壇バーつて、なんか。文壇のヒエラルヒーにただ乗

つてる人たちがいるから。最低ですよ  
ね。

小池…でもまだ若かったし、私二十五  
六だったのよ。「小池真理子」という  
名前の人間がもう一人いて、勝手に独  
り歩きしてるっていう感じの時期が何  
年も続いたもんだから。でも自分とは  
いつも一致しなく、齟齬があった。

「小池真理子」に対する不快な感情が  
今になると、やっとなくなりましたね。

桐野…いい経験だと思っただけです。他  
人事みたいに見えるかもしれない。こ  
が、ヒステリーみたいなの、男の女の  
いじめつてあるじゃないですか、この  
業界つて。私も経験したし、林さん、  
山田さんもそう。むしろ義憤を感じた  
女の人が多いんじゃないのかな。

小池…そうかもしれないね。

桐野…そういえば、おすぎとピーコが  
出て、小池さんがまん中について、泣  
きそうになったテレビ見たことある。  
なんか二人にいびられていて。

小池…そう、そう。あれね、生放送だ  
ったのよ。涙がばあーって出てきたの  
分かったんだけど、まばたきすると  
おっこつちゃって来るなって、生放送  
でこんなみつももないとこ見せちゃい  
かんなって思っ、一生懸命上向いて  
我慢して、まだはつきり覚えてい  
る。

桐野…おすぎとピーコが嫉妬していて  
あなたなんかになんて「知的って意味  
が分かるの。」とか言ってた。

小池…知的ってなんなのーって。

桐野…すごい不快だったな。

小池…五、六年前に、私じゃないんだ  
けれども、あるパーティーに私の旦那  
の藤田が行ったら、ピーコが来ていて、  
謝ってたつて。

桐野…あなたに謝まらないと。

小池…そうだね、なんで旦那に謝るの。  
(笑) あのとときは奥さんに本当に失礼  
なこと言っちゃってつて。

桐野…じゃあ、覚えてたんだ。

小池…ところで私たち、よくメールや  
つてるのよね。

桐野…ほとんど毎日。

小池…毎日、三往復、四往復とかやつ  
てるもんね。この間、メールでちよつ  
と書いたことだけれど、お互いの作風  
が違うね、という話ね。なんでそんな  
小難しい話をメールでしたのか、覚え  
てないけど。桐野さんは自分でもよく  
言っているけれど、ジャーナリストイ  
ツクな視点というか。

桐野…うーん、そうなのよね。私逆に  
官能に興味ないの。

小池…なんかそうみたいよね。本人全  
然違うのよね。

桐野…ね、(笑) 仕事は別と言うこと

で。あなた官能小説家つて言われてど  
う？

小池…あんまりよくない、それ。だつ  
て別に官能書いてるわけじゃないもの。  
桐野…じゃ、恋愛小説家なら、いい？  
小池…恋愛小説家もあんまり好きじゃ  
ない。

桐野…なんかレッテルつて嫌だよな。  
小池…たまたま今書いているものが、現  
在の文芸の世界で恋愛小説といわれる  
ものだから、しょうがないから受けて  
るだけで。別に恋愛小説書いている人間  
ですつて、宣言してるわけでもないし。  
桐野…さんはなんて呼ばれてるの。  
桐野…ときどきミステリー作家つて、  
言われるよ。できる限り私拭してるん  
だけ。ジャンルにこだわらたくはな  
いと思ってるから。ただの小説家。

小池…作家桐野夏生が書くものだから、  
共通のテーマなりメッセージが込めら  
れていると思うけれども、私たちの側  
からすれば、一作一作違うわけじゃな  
い？私の作品には性愛描写が多いんだ  
けど、でもそれは必然でもあるから書  
いてるだけであつて、別にそれを書き  
たいから書いてるわけではない。

桐野…すぐ分かる。私もよく聞かれ  
るのは残虐なシーンとか、グロテスク  
なシーン、なんで人間の悪意を書くん  
だつて聞かれるんだけど、それはや

つぱり逃げていられないから書こうと  
いうことだから、その意味では同じだ  
と思う。セックスシーンだつて書くし  
ね。でも最近書かない。なんかちよつ  
と違う方向に行きつつあるのかな。あ  
んまり興味なくなつたのかも。  
小池…うそですよ、それは。(笑) で  
もね、また話戻っちゃうんだけれど、  
ジャーナリストイックな視点つて、す  
ごく私も興味あつて、私も実は、さつ  
き話した『知的悪女のすすめ』という  
エッセイを書いたところ、非常にジャ  
ーナリズムに興味あつたのよ。

桐野…小池さんは恋愛小説家とか、官  
能小説家とか言われるけど、間違つて  
いると思っんです。本当は骨太だと思  
うんですよ。だから結構誤解されやす  
いかもありませんね。お綺麗だし。

小池…いえいえ、桐野さんこそ……。

お互い褒め合つてどうする。(笑)

桐野…相互互助会ということで。(笑)

小池…桐野さんの本読んでいて、実際  
に起こつた事件であるとか、桐野さん  
自身がどこかで強くこだわっているノ  
ンフィクションの興味から入つていつ  
て、桐野夏生という肉体を通して、ま  
つたく違う、別の虚構をつくるという  
感じがいつもする。現実が起こつた事  
件なりを、ニュースや新聞で垣間見て  
ばあーつと触発されることがあるんで

しよ？

桐野：ある。この間、高校生の女の子が後ろからはさみで髪の毛切られたって記事があつて。かわいそうになんと思つていたら、次の日に高校生じゃなくて四十二歳の女だつたつて。ということは四十二歳の女が、セーラー服着て髪の毛垂らして歩いてたから、切られただけけれども。

小池：え、何。切られた方が四十二歳なの？ その人セーラー服着てたの？  
桐野：そう。みんな女子高生だと思つて記事にしたら、実は四十二歳だつたという話で、そうすると、なんか一本書きたくなる。

小池：ニュース一個見ても、人の恋愛話一つ聞いても、それつてうそじゃないのと疑う気持ちつていうのは、若いころに培われてきたのかもしれない。

桐野：小池さんは、お会いしてお話するまで知らなかつたけれど、ほんとフエアーン人だと思います。不公正に対して怒るでしょ、まず。

小池：うん、でも正義感とか、そういうんじゃないんだよね。

桐野：フエアネスつて、正義感と関係なく自分の中の尺度として。

小池：あえて「桐野夏生」「小池真理子」という作家を比較すると、回路は違うけれど根っここの発地点では似通

つたものがある。あと面白いのは、通る回路のあまりの違いに時々、笑つちやうことあるよね。私は情緒的な形で表現するじゃない。

桐野：そうだね。うまいよね、その辺が。

小池：情緒過多というか、感傷過多というか。そういう方向に行きがちなんですよ。そういうのが好きだしね。

桐野：私は割と排除するタイプかな？  
小池：皮をむいて、むいて、むいて、最後に残つたものにとらわれながら書くつていうか。

桐野：そうね。情緒つて、耽溺じゃないけれど、そういう喜びもあるけど、自分の中では、気恥ずかしいの。

小池：でも個人的にお付き合いしていると、あなたはとても女性らしい情緒たつぷりな人だと思う。ところで、どんな日常生活ですか？

桐野：今はちよつと忙しいので、午前中に起きる努力をしているところです。  
小池：うそだー。(笑) だつて朝寝るときあるでしょ。

桐野：そうなんです。ちよつとこの間まで書きだめしてまして、朝五時ぐらいに仕事が終わつて、それから興奮して眠れないんで。

小池：お酒を飲んで。夏になると、外が明るくなつていゝるころ寝るつて感

じ？

桐野：もうすごいよ、朝になつてスズメがチュン、チュン。朝チュンでごみ出して、朝刊つて、向かい側の人に酒臭い顔で、おはようございます。(笑) それから、カーテン引いて寝る感じ。小池さんは昼間、結構忙しいでしよ。

小池：全部、自分で。パソコン使つて、仕事のつてきたな、つて思つていたら、ピンポンつて、宅急便でしよ。それでハンコ持つて走つていたり。

桐野：もう、信じられない。  
小池：慣れると平気ですけど、でもだんだん年取つてくると、集中力がなくなつてくるから。私たち今一般的に言つたら更年期世代じゃない？ もつと悟つていたり、角が取れて丸くなつていたりするのかと思つていたら、逆に少女に戻つていくという感じで。

桐野：私もそう。だんだん子どもっぽくなつてきた気がして。  
小池：子どもっぽいつていうか、少女の持つている、変なピュアな感じ。

桐野：やつぱり叙情的で、ものの感じ方がみずみずしいよね。  
小池：そう、そう。もつとおとなになると、まーるく、あんまりとげを出さない、ピリピリしないように感じていくのかと思つたら、とんでもない。と

でもいい意味で新鮮に感じられる。

桐野：年を取るのも、ちよつと楽しみなところもありますよね。そして好きなこと書いていくつていうことで。

小池：何ものにもとらわれずに。ともかくお互い頑張りましよう。

桐野：頑張りましよう。  
司会：どうもありがとうございます。もつともつとお話を伺いたるところですが、時間になりました。今日はほんとにいろいろなお話、ありがとうございます。 (拍手)

小池真理子氏 (文・51年)  
桐野 夏生氏 (法・49年)

## 春の蹊成



桜並木

# 成蹊大学文学部 創立四十周年を 祝う会を終えて

文学部同窓会長 高山知也

昨年11月20日成蹊学園において「成蹊大学文学部創立40周年を祝う会」を盛会の内に終了する事が出来ました。ご協力下さった成蹊学園、体育館を快くご提供下さった成蹊小学校、そして多大なるご協力をいただいた成蹊会の職員の方々に改めて御礼申し上げます。



この会は文学部とその同窓会の共催ということから、中里文学部長先生より、懇親会だけでなく文学部らしい会にしたいという事となり、小生と同期同クラスで卒業後も連絡のある直木實作家の小池真理子さんに講演をという案が出ました。ですが小池さん自身小説家というお立場から講演に対して少々むなしさを感じているという事を聞き及んでおりました。小生もそうしたお気持は理解出来るのですが、なんとかお願いしたいと、ご連絡した所講演ではなく文壇で一番仲の良い同じ成蹊出身(法学部)で直木賞作家の桐野夏生さんとの気軽な対談ならのご返事でした。思いがけない展開に、ぜひということでご今回の運びとなったわけです。

この会は同じく文学部出身で元テレビ朝日アナウンサーの望月滋実さんが一部二部を通して明るい雰囲気を進めて下さいました。

第二部の懇親会は、岸理事長、栗田学長、瀧会長をはじめ教職員の方々やなつかしい先生方、そして小池さん桐野さんのご臨席を得て、約150名を超える参加者により大変楽しい交流の時を過ごす事が出来ました。又同窓の今井由美子さんのピアノ演奏により一層なごやかで暖かい会となりました。

又第一部第二部共に約半年をかけた自前の準備や当日の後かたづけを含めた作業のため文学部同窓会委員や大学院生の心合わせた協同作業を通して、より一層お互いの絆が深まった事も、こうした会を催す大きな意義の一つであると思いました。そして、この様な文学部のお祝いの会が成蹊学園の益々の発展と共に、50年100年と出来ます事を心より祈念致します。

(文・51年)

## 表紙絵の言葉

### 赤レンガの想い

今昔を問わず、成蹊に通った経験のある人にとって、最も共通した想い出は、あの本館赤レンガの壁面ではないでしょうか。多くの人々がそれぞれに青春の一時を、マントに黒ずんだ白線の破帽、高下駄の姿と、蛇腹いりの制服姿に、あるいはスーツに固めた姿と時代の変遷とともに変わっている自らの姿と重ねて思い出しているのではないのでしょうか。入学時は旧制7年制高校、卒業は新制の大学を経た私にとっても何時までも特に印象にのこる一角です。

小山忠男(政経・31年)



# 世界の中の日本、アジアの中の日本 —日本の外交の課題—

成蹊大学名誉教授

廣野良吉

1929年11月29日  
東京大学経済学部  
教授（於ニラス  
政治経済学  
委員キョー  
ト）で行われた  
講演の抄録  
本稿は、成蹊大学  
名誉教授の廣野  
良吉氏による  
講演の抄録です。

本日、大勢の皆さん方の前でお話を  
する機会を与えていただきまして、大  
変感謝いたしております。

もともと経済が専門の私が、今日の  
テーマであります「日本の外交政策」  
についてお話をすることを、奇異に感じ  
られる方がおられるかもしれません。  
実は、国の外交を支える大きな役割を  
果たしているのは、ほかならぬ経済な



成蹊会

んです。しかも私は過去四十五年間、

世界中を飛び回っているいろいろな大学で  
教えたり、国際機関で働いたり、また  
日本の外交の仕事にも携わるなど世界  
の動向を見詰めてまいりました。そう  
した観点から、今日はあくまでも個人  
的な見解ですが、日本外交について述  
べることにいたします。

外交を語る上で世界は今、どのよう  
な動きをしているか、歴史を振り返り、  
こんにちに至る潮流を知ることが大切  
なことです。私はこの流れを五つの波  
としてとらえております。

第一の波は、一九九〇年のソビエト  
の崩壊です。これにより米ソの冷戦体  
制が終結しましたが、世界中に与えた  
衝撃は計り知れぬものがありました。

第二の波は、超大国としてのアメリ  
カの変化です。私が戦後、アメリカへ  
留学したのはちょうど朝鮮戦争が終わ  
るところでしたけれど、当時のアメリカ  
は、まさに世界の超大国としてふさわ  
しい、言ってみれば寛大な気持ちを持  
って世界の国々と接していたように思  
います。ところが、現在のアメリカは

超大国でありながらかつての寛大さを  
失い、すべての国を競争相手と考える  
ようになってしまいました。もちろん  
軍事力、経済力、政治力のいずれをと  
っても超大国に変わりありませんが、  
考え方そのものはかなり小国化したと  
思います。

第三の波は日本自身です。第二次世  
界大戦直後、あの戦禍から立ち上がっ  
た日本は驚くような発展を遂げました。  
日本人が一生懸命努力した結果ですが、  
世界から見るとこの日本の復興は驚異  
的な変化でした。特に六〇年代の日本  
の高度成長に続く七〇年代の安定的な  
成長、八〇年代のバブル景気、やがて  
訪れる九〇年代のバブル崩壊。激動日  
本を注視する世界の目には、いずれも  
大きな波と映ったに違いありません。

第四の波はEUの誕生です。EU自  
身は決して一つにまとまってすべてが  
うまくいっている連合体ではありません  
んが、少なくともアメリカを意識して  
合体し、アメリカとは違った道を選ん  
だこの大きな変化も、見逃せません。

最後の第五の波は、何といたっても途  
上国の大きな変化です。中でも最近、  
BRICSという言葉がよく使われま  
す。ブラジル、ロシアは途上国と言っ  
ては失礼ですけれども、インド、中国  
に加えて南アフリカなど、途上国の中  
には第二次世界大戦直後、植民地から

独立国として立派に成長している国が  
たくさんあります。こういう国々がこ  
こまで成長するとは誰も思わなかった。  
今やこれらの途上国が、世界のGDP  
の二二%を占めるに至りました。

この五つの波の中で、いわゆる経済  
大国化した日本は世界、あるいはアジ  
アの中で、一体どのような外交方針を  
持って進んでいくのか、今いろいろな  
国々が注目しています。もちろんわれ  
われ日本国民にとって、小泉総理が率  
いる現内閣が、日本をどういう方向へ  
持っていかうとしているのが最大の  
関心事です。

日本の戦後外交の基本的目標は、世  
界の平和と繁栄を願う、そのために日  
本が何らかの形で貢献していくという  
ことでした。その目標達成のための外  
交政策として、日本は三つの柱を掲げ  
ました。一つは日米安全保障協定を軸  
とした、日米同盟です。二つ目が、国  
連中心の外交。三つ目は、アジアの中  
で名譽ある地位の確保でした。これら  
の課題達成のために、一九四五年から  
おおよそ一九七〇年くらいまで日本は  
国連その他の国際機関に加盟し、諸外  
国との連携努力を重ねてきました。

ところが、一九七〇年代になると衝  
撃的な出来事が連続して起こってしま  
した。一九七一年のニクソンショック  
が始まりです。いわゆる固定相場制が



ら変動相場制となり、国際金融体制はがらりと変化を遂げた。さらに七三・七四年、七九・八〇年には原油価格の急激な引き上げというエネルギー危機が起きました。一九八五年には「プラザ合意」による大幅な円の切り上げがあり、これまた非常に大きなショックを日本に与えました。

七〇年代から八〇年代にかけ、連続して日本を襲ったショックは実はすべて外から与えられたものです。ところが九〇年代にはバブル崩壊があり、十数年かけてようやくバブル崩壊からある程度立ち直り始めたのもつかの間、二〇〇〇年代に入るや小泉ショックという国内要因による衝撃が続きます。小泉総理が掲げた「改革」政策は、まさにショックと言っているような中身でした。こうした国内外を取り巻く状況の中で、わが国としてもこれまでの三つの軸による外交方針を転換せざるを得なくなりました。

日米の安全保障協定に基づく日米同盟、この方針は今も変わりありません。しかし、かつての国連中心外交は、これはもう完全になくなったと言っていると思います。もちろん国連そのものは存在するし、国連の場で日本の立場を主張、改革していくことは重要ですから、国連外交は今後も続けられていきますが、過去、国連に抱いていた日

本の理想主義的な考え方はもはや失われ、国連外交即現実的なパワーポリティックスであるという考え方がはっきり出てきました。今回、日本は安全保障理事会の常任理事国になろうと画策して失敗に終わったわけですから、これなどはパワーポリティックスの典型と言っているでしょう。

アジアの中で何らかの地位を確保したいという考え方、これは達成しました。一九七〇年代の初めになると、国によつては反日感情もありましたけれども、少なくとも日本はアジアの中の確固たる地位は確保しました。アジアの平和と繁栄に日本が貢献できる環境ができたということです。アジアのさまざまな国と一緒にあって、平和と繁栄を何とかして築き上げようと努力することが、重要な外交の機軸となり、現在では東アジア共同体の形成という動きさえ出てきています。

このような状況の中で、最近の大きな関心事は、アジアこそ非常に発展しましたが、大変残念なことにはほとんどのアフリカ諸国は一九六〇年代に独立したものの、その後の国の発展はうまくいっていないということです。われわれはアジアの一員ですけれども、同時にアジアの経験ができるだけアフリカにもうまく伝えていくために、世界の多くの国々と一緒に、これまで

TICAD (Tokyo International Conference on African Development) という「アフリカ開発東京国際会議」を過去三回開いてきました。アジアだけでなくアフリカも視野に入れてきたというわけです。

もう一つ外交上の大きな変化は環境外交の重視です。わが国自身一九五〇年代、六〇年代と高度成長を遂げる中で環境破壊を繰り返してきました。大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等です。日本ばかりかヨーロッパもアメリカも特に第二次大戦後環境破壊をしてきました。ところが今や多くの途上国が、環境汚染をする時代になってきました。

私は中国へしょっちゅう行っていますが、中国の環境汚染はひどいものです。酸性雨によって森林破壊が起きるなど汚染の影響は日本としても見過ごすことはできません。もはや環境破壊は単に一国内だけの問題ではなく、地球全体の問題として重要な課題になってきました。軍事大国化と決別したわが国が地球環境問題の解決を、外交の機軸に据えることは当然のことです。

こういう変化の中で、私たちが考えなければならぬ課題が三つあります。第一に、わが国はたしかに経済の面では一等国として発展を遂げました。しかし経済大国になればなるほど政治との絡みが出てきます。国内政治しか

り、国際政治もわかりです。ところがわが国は、アジアの中で、また世界の中で一体どのような政治大国になろうとしているのかというビジョン・戦略がみえてきません。これが第一の課題です。

第二の課題は、外からの脅威に対してわれわれがどう対応していくのかということです。外からの脅威というのは、かつては軍事的な脅威でした。米ソの冷戦体制下では、日米安全保障協定でわが国には多くの米軍の基地が置かれました。日本は軍事大国にならないという政府の基本方針の下で、日米間に一種の分担方式ができたわけです。日米同盟の継続という点では両国間に共通認識があり、あまり大きな問題はありません。

ところが問題は、テロリズムなど新しい脅威にどう対応するかということです。これから真剣に考えていかなければならない課題だと思います。テロリズムはいつどこで何が起こるか分からない中で、当然、防衛体制が必要で、ところが一九四五年以降、わが国は平和の中で生きてきました。その中でよく言われているように、平和ほけしてしまいました。新しい脅威であるテロリズムに対して、国内外で具体的にどう対応していくかという国民的合意ができていません。

第三の課題は、環境とも密接に関係しますが、石油、天然ガス等のいわゆるエネルギー問題です。これについて一体日本はどういう方針を持っているのかと言うと、これも本当に困った状況です。現在、中央アジアあるいは中近東、アフリカ、中南米地域で石油や天然ガスの権益を持っているのは欧米諸国のメジャーです。少なくとも世界の石油資源開発権益の六〇%ぐらいは欧米石油メジャーが握っています。日本も商社を中心に、これまで世界各地でエネルギー開発に取り組んできましたが、わが国のエネルギー需要は、極く一部を除いては海外からの輸入に依存しています。

巨大な輸入国でありながら、石油と天然ガスなどの技術開発は、必ずしも十分に行ってきませんでした。ほとんど欧米のメジャーに依存する状況で、日本は大変出遅れました。わが国は膨大なエネルギーを消費している国です。今までのように、欧米の石油メジャーに依存するやり方で果たしていいのかどうか。エネルギー問題について、一層真剣に考えなければならぬということは何人も認めていると思います。こうした三つの課題について、これからまじめに考えないと大変なことになると思います。あらゆる先進国がそれぞれ世界戦略を持ち、その中で自国

の国益をどう守っていくかを考えている中で、日本は、その点まだまだ真剣にこれらの問題について取り組んでいるとは言えないからです。アメリカが右を向くから日本も右を向くということではなくて、わが国自身も自分たちの国益をしつかり考え、さらに地球益を考えて、どういう方向に行くべきかを考えなければいけないと思います。

以上、三つの外交上の課題について触れてきましたが、課題達成には強力な政治的決意が必要です。小泉総理は九月で辞めると言っていますので、与党の中でさえ何か真剣味が足りないという印象があります。総理は国内改革をこれまで予想以上に一生懸命やってきましたが、外交方針では、日米同盟国際協調以外に何も見えてきません。

その反面、例えば中国は存じのよう一九九〇年代の後半から、ASEAN諸国に対する働きかけを積極的に行って、二〇〇二年にはASEAN諸国と包括的な経済連携を果たし、既に農産物自由化の前倒しをしています。また道路、鉄道等の建設などの面でも中国は連携を強めています。

このような隣国の動きに対して日本は、対途上国、対アジア外交では長い間、国内の農業保護政策もあって、単にODA増額と青年交流で対処すると

いう安易な姿勢をとってきたといつて過言ではないでしょう。一九六〇年代、七〇年代、八〇年代の初めごろまではそれでよかつたかもしれませんが、八〇年代以降はもっと多面的な方法でASEAN諸国をはじめ途上国と向き合っていくことが急務となりました。そういう意味では、日本は相当出遅れたという感じを持っています。わが国の政治的決意のなさにより、ASEAN諸国は日本への期待を低減し、アメリカ、EU、中国、さらに最近ではインドなどと多極化した外交を展開しています。日本は、二国間外交ではある程度インシヤティブをとれる国ですが、多国間外交になると、ODA外交以外では本当に下手な国です。長年にわたって多国間外交を推進できる外交官や専門家を育ててこなかったし、また、多国間外交では英語等外国語を上手に話せればいらいぐらいに考え、非常に矮小化した格好でしか多国間外交をとらえてこなかったといつてよいでしょう。

特にアジア諸国でよく言われていることですが、日本はこれから二国間だけで問題を処理するのではなく、アジアの国々と一緒に政策立案や実施を考えてほしいということですが、さらに個々の国々のことよりも、地域・世界全体の利益をどう図っていくのかとい

うことが重要であると言っています。日本は残念ながら、対アジア外交では行き当たりばつたりで、お粗末な外交を続けていると言つてよいでしょう。

これまで述べてきましたように、今、日本は三つの大きな課題を抱えているわけです。それらに対してどう対処するのか、国民レベルもそうですけれども、特に政治のレベルにおいて毅然とした政治的決意がないと、なかなか前に踏み出すことができません。国内改革問題に傾注するが故に、外交問題はおろそかにされつつ放して、外務省自身もかなり縮じたところがあつて、しっかりとした外交方針を持ってない状況に陥つてしまつているといわざるを得ません。

小泉総理自ら総理としての政治的決意を持つて、国内問題同様に対外問題にも熱心に取り組んでほしいというのが私の大きな期待です。わが国が政治的大国としてどのような哲学、ビジョンを持つていくのか、テロリズムやエネルギー問題に対してどういう基本方針を持つて対処していくのかなど、きちんとした世界戦略を持つ必要があります。このことこそが、何といつてもわが国にとつての大きな課題と考えております。

## 私と成蹊

小学校同窓会長

相川一成

平成17年12月6日  
成蹊小学校同窓会  
（於ニュー・トラ・ステラ）  
の講演を抄録した  
ものである。  
本稿は、平成17年12月6日  
成蹊小学校同窓会  
（於ニュー・トラ・ステラ）  
の講演を抄録した  
ものである。

小学校部会の講演ともなりまして、さて講師は誰にお願いしたらいいか、卒業生の数も増えて層が厚くなってきましたので、お話いただくテーマはどうするかなど、準備に難儀しました。私は、むしろその時代時代の小学校、成蹊の思い出などを語ってもらってはどうかと幹事会に諮りましたところ、「第一回はおまえが講演しろ」ということで、今回お話させていただく羽目になりました。

私は、終戦直後の昭和二十一年四月成蹊小学校へ入学しました。物資も足りなく、いわゆる食糧難時代のころで、脱脂粉乳の給食を私は残さず食べておりました。生徒もガリガリでかわいそうな時代ではありましたが、しかし私

## 成蹊会 法人 成蹊



はそんなに苦しい時代だったという印象を持っていただけではありません。弟と妹三人そろって小学校へ通いましたが、サラリーマンだったおやじが、よく頑張つて通わせてくれたという感謝の思いが、今も強く残っています。

入学直後は復員された先生方が重服姿で授業をされ、怖かった思い出が強いのですが、当時は一クラス四十八名で男子ばかりの学級でした。六年間クラス替えもありませんでしたので、学友とは今でも非常に仲良くしております。

当然のことですが、勉強のことよりは遊びの思い出が多い。本当によく遊ばせてくれたと思っております。毎年の「夏の学校」、私の時代はほとんど「波左間」でした。赤フンを締めて、昼はカレーライス、その後、昼寝してふと見ると干してある赤フンがひらひら風に揺れていたのが印象的でした。

放課後は「水雷艦長」という、帽子を後ろにしたり横にしたりして、学校じゅうを走り回ったり、四百メートルグラウンドの北側にある松林にもぐり込み、スキヤ木や木の枝を使って家を建てたり、松の皮で矢じりをつくって投げっこをする毎日でした。家庭科の時間には、電球に穴のあいた靴下を入れ

まして貼ガツパをする。今の靴下は丈夫ですからこんなことはないのですが、当時は、すぐ穴があく靴下を直すために針を持たされ、ボタンやホック掛けもやりました。

小学校の下級生のころ、初めて学校で映画を観に連れていってもらったことも忘れられません。映画は「鐘の鳴る丘」で、墨で顔を真っ黒にした靴磨きの少年が、丘の上の建物に集まって明るく生きていくといったような筋だったかと思っておりますが、非常に悲しく、印象的な映画でした。

ほかの学校の友達によく言われたことは、「成蹊の連中は仲間の下の名前までよく覚えてる」ということです。六・三・三、さらに四と、十二年とか十六年も友達と一緒にいれば当然下の名前も覚えてしまいますけれど、ほかの学校の友人には不思議に見えるのも、仲がいい成蹊の良い一面かと思っております。

私、高校、大学の七年間、馬術部におりました。当時の成蹊はとても強く、先輩には影山祐三さん、後輩には松平正樹君という二人のオリンピック選手もおり、まさに全盛時代でした。そんな中で大学の三年のとき、昭和三十一年十二月に行われました全日本学生馬術選手権、いわゆるインカレで私は優勝したのです。

この大会には成蹊から二名出場いたしまして、今、山田徳兵衛という名前の人形問屋の「吉徳」の社長をやっております山田忠男君が二日目まではトップに立っております。三日目、彼は調子の悪い馬を引いてしまい、私が

逆転優勝という展開になりました。実は私の父も馬術をやっております、旧制の成蹊から東京商大へ行っておりますけれども、後にメルボルンや東京オリンピックの馬術の監督も務めたばかりでした。父もかつてこの大会で優勝しており、「親子二代の優勝」などと報道もされました。父は二十五年前に亡くなりましたけれども、おやじの名前の入ったカップを再び家へ持って帰るといふ、私には唯一の親孝行となりました。

当時の馬術部では先輩から、「成蹊はお坊ちゃん学校なんて決して言わないよう、精進しよう」と厳しく教えられておりました。おかげで社会に出ましても出身校を聞かれるたびに、「おまえ、成蹊らしくないなあ」と言われるのが楽しみといえますか、誇りにもしておりました。三年生で優勝し、四年で連覇を狙ったのですが、馬小屋から出火、六頭のうち五頭が焼け死ぬ悲しい出来事がありました。結局、出場は辞退ということになり、私の馬術人生も終わりを告げたわけです。

現在、大学の馬術部はなかなかいい成績を上げられないのですが、高校は全国大会に出場しております。また、高校のラグビー部が三十一年ぶりに全国大会に出場しました。「後輩の続き来ることを思へ」、これが創立者・中村春二先生の教えの一つでございました。現役が元気なことをいつも願っております。ありがとうございました。（小・27年）

# 成蹊小学校の近況について

小学校教諭

岡崎忠彦

日会一ト録し  
6月17日成蹊小  
12月17日成蹊小  
17年12月17日成蹊小  
成蹊小ニ於テラ  
平成小ニ於テラ  
はの成蹊小ニ於テラ  
編催員会一ヨリ  
本開委キ行も

成蹊小学校の近況について、校長としてお話をするのは、これが最後になるかもしれません。今年私は校長を拝命して、二期六年目に当たります。原則として六年で校長を退くことになっておりますので、来年は校長としてではなく、一教員としてより深く子供達と接することができるかなと今、楽しみにしているところです。

## 成蹊会



子供と接する楽しみとについても、今の世の中は子供たちを育てる面で、やりにくい状況になっております。池田小学校の事件以来、さまざまな事件が各地でありました。私も教員が四小のバス停、女子大通りのところまで子供たちを引率するなど特に低学年の子供たちに関しては、教員がフォローするようにしています。そこまでしなければいけない世の中になったとは何とも悲しいことですが、私、いつも保護者の方に新一年のときにお願いをしているのは、皆さんに成蹊のお父さん、お母さんになってほしい、自分の子供だけを見ないで、成蹊の子みんなを見てほしいということです。だから悪いところがあつたら遠慮なくしかつてほしい、いいところは大いに褒めるなど、みんなで成蹊の子供たちを見守ってくださいという形でお願いをしています。

一方、子供たちによく言っているのは、人を見たら危ない人だと思ふようなことはやめてくれと。人間はみんな

悪い人じゃない、大部分の人はいい人なんだ。ところが、何人かの心ない人のために、人すべてが疑われるような形になっている。みんなは人を信じてほしい。もし何か危険な目に遭つたら、大きな声で叫んで周りの大人に助けを求めてほしいと。人が信じられなくなると教育はしたくない。人が信じられない思いで子供たちが大人になつたとしたら、十年後、二十年後、三十年後の日本の世の中は一体どうなつていくのか。今以上に大変な世の中になつてしまふのではないかと思います。

私はこの間の学校説明会の資料の中で、「成蹊小学校は変わっています」という表現をしました。やがて何年か後には「変わりました」という表現になるわけです。その変わつてきている内容について少し申し上げます。

まず今年の春の一年生から「二十八人学級」を実現いたしました。もともと少教教育の基盤があつた成蹊学園ですが、戦後は金銭的なこともあり、三十人以上の学級でないやつていけな時代が続きました。ここに来てようやく少教教育に戻ることになった上、二十八人の一年生の学級は男女同数となりました。人としての心を育てることが大事であつて、男子、女子の性別の問題ではないという判断から男女同

数としたのです。さらに四クラス制にした結果、北組が誕生し、東西南北組と自然な形になりました。戦後、南組ができて以来の、成蹊小学校の歴史の一大変革でもあります。また今年から国際学級を四年生から採るようにしたのも変わった点です。いずれは一般学級の中に国際学級の子供たちが所属、その子に応じた授業をやつていきたいと考えています。

もう一つ大きな変化は、小学校の再開発の動きです。正門を入れて左側の一号館、昔の理化館跡に大学の情報図書館が二〇〇八年八月に完成予定でつられていきます。ここができれば大学が使用しているトンネル山の棟が移ることになり、そうすると小学校は全部仮設に入れるため、現在の本館と理化館の建物をつぶし、新しい小学校の建物が完成することになります。今トンネル山のグラウンド横にプレハブ校舎が三棟建っています。二つは大学が使い、一つは小学校が使っています。四学級をつくつたり、少人数教育を実施するに当たつて、教室が足りなくなつたことによるものです。こうして建物を再開するに当たり、カエルが住み着いている池の保存など自然環境そのものを破壊しないようにということ、今、頭を悩ませています。

先ほど相川会長から「夏の学校」の思い出が話されましたが、今はかなり様変わりしております。一年生が二泊三日、二年生が三泊四日、三年生が四泊五日という形で箱根寮に行っています。一年生は二泊三日なので中一日しかないですが、乗風台で遊ばせることにしています。私は担任の先生方に、東京から遊び道具を持っていかせないでほしい、あの大自然があるのだから、その中で子供たちを思いっきり遊ばせてくださいとお願いしています。

二年生は海賊船に乗るのを楽しみにしております。ロープウェイで駒ヶ岳まで行く。たまたまケールカーがもうなくなるという年には、あえてケールカーのところまで歩いて行って、子供たちを乗せたりもいたしました。三年生は最後の箱根ということで、金時山に登るのを一つのメインにしています。箱根寮の前に漁業組合の養魚場がありまして、そこで地引き網をさせてもらったりしています。

四年生は、「波左間」がなくなってしまうので、現在は三浦半島の和田長浜に行き、神奈川県施設を使って、磯の観察やシーカヤック、あるいはいかだ乗り、テント張りなどをやっているかです。五年生は福島県の裏磐梯に行っています。そこである一日、子

供たちを三、四人ずつ農家に預けて、「一日農業体験」をしています。ただ、農家の方々は子供たちがかわいくて仕方がないですね。孫みたいなので、だから、あんまり仕事させてくれないんです。(笑) それでは農業体験にならないんです。もっと仕事をさせてくれということを感じていて、六年生は岩井の海岸で遠泳です。赤ブンこそなくなりました。『夏の学校』の多面的な活動を、成蹊小学校は今なお残しているということ

です。あと運動会では、砂袋を頭に乗つけて走る「おっと危ない」とか、長いピエロの帽子をかぶってはしごの間を抜けていくような競技は今でもやっています。違うのは、女子の騎馬戦があるということではないでしょうか。(笑) 昔、女子の騎馬戦を始めたころ、ある先生から女子があんなみだらな格好をしてやるのはどうかという話がありました。今ではすっかり定着してしまいました。まあ、それが成蹊の一つの売りなのかな、土のグラウンドがある強さなのかなと思います。

文化祭では六年生が「ピース」という題で平和の問題を取り上げたりしています。武蔵野中央公園はかつて中島飛行機の工場があった所で、かなりの

爆弾が落とされました。そこに六年生が行って調べたことからこの劇がスタートしたので、中国の少女と日本の少女との悲しい物語を通じて、私たちがとって平和は大切なんだという訴えに私は感動いたしました。

今、武蔵野にはほとんど収穫される麦はなくなりました。麦畑で残っているのは成蹊小学校の畑だけではないかと思えます。六年生は自分たちで種まきから麦踏みをやったり、観察をしたりして栽培し、やがて収穫した小麦粉でクッキーとかお好み焼きなどもつくったりしております。ほかの学年の子供たちはいろいろな野菜を作るなど栽培活動に愛着を持って打ち込んでいます。

先ごろ甲南小学校と成蹊小学校の「教員相互交換授業に関する覚書」に調印しました。一年に一人ずつ交換するという道をつくったという段階です。私も私立小学校というのは、「井の中の蛙大海を知らず」ではないけれど、自分たちの学校のことしか知らないんです。外に行つて学んでくる、ほかの水を味わってくるということは、若い先生にとっては必要なことだと思います。

また中国の清華大学附属小学校の子供たちの野球部がまわりまして、私ど

もと野球の試合をするなど、国際交流も行っています。

十二月三日には創立九十周年の記念式典を行いました。一つの節目が終わったかなというふうに思っています。今、九十一年目を歩んでおります。これも、旧職員の方々だけではなく、ここにいらつしやる卒業生の方々、そして学園関係者の方々が私たちを叱咤激励してくださっている、そのおかげではないかと思えます。

最後に、今年の試験も終わりました。今年はこの十年で一番志願者が多かったです。倍率で言えば、特に男子は八・九、九倍近い倍率です。女子が七・二倍。全体で八倍でした。実質倍率は、当日欠席したりなんかして六・三倍ぐらいでしたけど、それでも七人受けて一人やつと入れるぐらいですから、狭き門といえれば狭き門です。

私どもは多くの方々の涙を背に受けて、合格した方々と良い学校をつくっていかうということで、この間、第一回目の保護者会もありました。二回目でもそのことを重々お話をして、みんなで成蹊の子供を育てていくようにしていきたいと思えます。どうぞ今後とも、成蹊小学校のほうもしつかり見守っていただければと思います。



# 日本のエネルギー戦略と 原子力都市計画法

成蹊大学名誉教授

黒沼稔

平成18年3月5日  
平沼教授のゼミ  
は、催婚(於大学)で行  
稿開・金会(ル)で行  
本日寿・窓ホー(ル)で行  
同階ホー(ル)で行  
演の抄録です。

## 【Ⅰ 日本のエネルギー事情】

最新版の『エネルギー白書』によつて、需給構造を概観してみます。

まず「最終エネルギー消費」を対GNP比で見ると、2003年には産業部門が48%、民生部門が28%、運輸部門が24%で、消費量は産業部門が1973年以降ほとんど変わっていないのに対し、民生部門・運輸部門は大幅に増大しており、特に運輸部門の省エネが大きな課題となっております。

次にエネルギー供給は、1990年と2030年の参考予測(レファレン



ス)の比較では、「一次エネルギー供給構成」を見ると、石油が53%から38%への減少、石炭が17%と横這い、天然ガス(10%から18%)と原子力(10%から15%)は比重が大きくなつてい

ます。供給を「発電電力構成」で見ると、原子力が27%から38%、LNG(液化天然ガス)が22%から30%、石炭が10%から16%へと増大しているのに対し、石油等は29%から5%、水力は12%から9%へと減少する見込みとなっております。

供給面の数字はややこしいのですが要するに、全般的には依然として石油への依存度が高く、発電については原子力への依存度が高い(2030年にいずれも38%)と云うことができます。

## 【Ⅱ 日本のエネルギー戦略】

まず需要(消費)の面では、すべての部門にわたる徹底的な「省エネ」が必要であります。日本では、昭和54年6月制定のいわゆる『省エネ法』(エ

ネルギーの使用の合理化に関する法律)があり、本文99カ条にわたり詳細な規定がなされておりますが、これらの趣旨を徹底的に実行することが、第一に必要なことであります。

供給については、①エネルギー自給率の可及的拡大、②新エネルギー開発の大幅な促進とエネルギー資源の思い切った多様化、③原子力と化石燃料の比重の可及的縮小を、「基本的戦略目標」として挙げることができます。

これに関しては、平成14年6月制定の『エネルギー政策基本法』がありその第12条に基いて『エネルギー基本計画』が策定されております。

ここでは、安全対策を前提として、原子力は「準国産エネルギー」(ウランの産出国が偏つておらず、かつ核燃料のサイクル利用が可能のため)として、電力分野で「基幹電源」とされています。ただし、この場合の安全対策は、事前には技術的対策云々と言うほかは、事故発生後の防災対策にとどまっています。つまり、周辺地域の事前安全対策などは、完全に視野の外に置かれております。

先述の『エネルギー基本計画』では(A)多様なエネルギーの開発・導入・利用と(B)石油の安定供給の確保等、の二つに大別し、前者については①にも②

にも原子力、③新エネルギー、④ガス体エネルギー、⑤石炭、⑥水力と地熱を挙げております。

余りにも雑然としているので、やや体系的に整理してみると、(A)原子力、(B)化石燃料(石油・石炭)と天然ガス、(C)非化石エネルギー(風力・太陽熱・廃棄物・バイオマス・地熱・水力・燃料電池等)となりましょうが、総花的で『重点的戦略』などは全く見当たらないのが実情です。

## 【Ⅲ 原子力開発は推進すべきか】

原子力発電所は俄かに全廃することができない以上「消極的肯定」、ただし「地域の事前安全対策」が欠如している現状では、この点についての何らかの措置が早急に採られなければならない、ということになります。

ここで二つの大きな問題を提起したい。①第1には、日本の原子力政策の根本的な見直し、具体的には「プルサーマル計画」の断念、②第2には、従来の原発を全廃しない限り危険は依然として存続するので、早急に「原子力都市計画法」を制定すべきだ、ということでありませう。以上は、原子力利用の「縮小廃止」を前提としています。「プルサーマル計画」とは、「ウランとプルトニウムの混合酸化物(MO

X) 燃料を通常原発(軽水炉)で燃やす計画」です。言いかえれば、普通の原発でウランの核燃料を燃やすと使用済みの核燃料ができるが、これからプルトニウムを取り出して繰り返し燃やして、「原子力エネルギーの循環再利用」を図るといふことです。

プルトニウムは恐るべき放射能を持ち、この世の中でこれ以上毒性の強いものはない、同じ量で、青酸カリの100億倍、サリンの1000万倍も危険だ、と言われております。

結論を簡単に言ってしまうならば、『プルサーマル計画』の実施は、危険をますます増大させ、しかも電気料金も高くなると言う、国民にとって有害無益なことでありませう。プルサーマル計画に固執する理由は、プルトニウムが核兵器に転用されやすいため、原発の使用済み核燃料を再処理して出て来るプルトニウムを溜め込んでおくことに、世界の批判が集まるから消費しなければならぬ、と言うことだけではありません。

先にコストについて申せば、MOX燃料は従来使用している燃料よりも製造費が高くなる。1995年版の『原子力白書』でも「MOX燃料は、成型加工費等により、従来のウラン燃料に比べれば費用が増加する」と明記して

いるが、このコストは結局電気料金に上乘せられることを意味します。

安全性にかかわるプルサーマルの技術的問題としては、①原子炉内の核分裂反応を制御する制御棒(自動車のブレーキと同じ)の効が悪くなることと、②核燃料の融点と熱電動度が低下する(より低い温度で燃料棒が溶け出す)、と言う問題があります。

もう一つ大きな問題として、MOX燃料を原子炉で燃やした後の処理・処分の問題があります。プルトニウムを燃やすと、放射能が非常に強く、半減期(放射能の強さが半分になるまでの期間)が数万年、数十万年などと極端に長い元素が発生します。従来でも、原発の使用済み核燃料の再処理に伴って発生する高レベルの放射性廃棄物の処理・処分が大きな課題となつていますが、プルサーマル計画を実施すればこの問題がさらに深刻になります。

「核燃料サイクル」による「資源の有効利用」の掛け声はよいが、MOX燃料の再処理は困難な問題が多く、燃えないプルトニウムが増えて来る、再処理の過程で使用する薬剤が強い放射能のために変質する、爆発事故や臨界事故(ウランの量が多くなり過ぎ、次々に核分裂を起こして、放射能を撒き散らす状態になること)の危険が増す等

の諸点も指摘されております。

#### 【Ⅳ 原子力都市計画法の問題】

1999年9月30日に茨城県東海村で起きた臨界事故は、原子力関連施設の周辺の安全問題に大きな課題を提起しました。しかも、その後採られた周辺地域の安全対策は、決して十分とは言えません。そこで原子力周辺地帯の整備に関する『原子力都市計画法』の制定を、改めて強く求めたいのであります。

この問題は別に新しいものではなくすでに1959年に、当時の科学技術庁は『原子力都市計画法要綱』を作つておりました。この要綱によれば、立法目的は「原子力施設周辺地帯の整備に関する総合的な計画を策定し、その実施を推進することにより、原子力利用を促進し、公共の安全を確保するとともに、当該地域の総合的・効率的利用を促進すること」とありました。内容は、①内閣総理大臣が原子力施設周辺地帯を指定する、②周辺地帯の整備計画を作成する、③周辺地帯の一部を緑地帯として指定し得ることとする、④総理府の付属機関として原子力施設周辺地帯整備審議会を設け内閣総理大臣の諮問に依りて意見を述べ、などを主な柱としていました。

③の緑地帯に関連して、当時の科学技術庁長官の中曽根康弘氏は、雑誌『都市問題』の1960年1月「原子力と都市」特集号で、次のように述べています。

「万一のために原子力災害補償体制を整備しているが、災害補償は事後の対策であり、事前にできるだけの対策を講じておくことが望ましい。そこで周辺地帯の一部を緑地帯として指定し、建築物の新増築を禁止することができるようになることも考慮されなければならぬ」。当時の原子力都市計画法構想は、結局日の目を見なかつたのですが、40数年後の今日でも現実に様々な原子力施設が散在し、すぐ近くにまで人家が存在する状況を見れば、今からでも遅くはない。かつての要綱を顧みて、新たな事情も考慮に入れた「原子力都市計画法」の制定が必要だと考えます。

この法律には、少なくとも次の事項を盛り込むことが必要であります。①原子力関連施設の無秩序とも言える散発的立地を禁じ、原発などの原子力施設の隣に固めて立地しなければならぬこと、②原子力施設の周囲全域にわたって一定の幅で分離する緑地帯を設け、住宅その他の建築を全面的に禁止すること、③緑地帯のさらに外側の一

定範囲の地域を「原子力防災地域」とし、考えられるあらゆる防災施策を講ずること、④以上の全地域を含めて「原子力都市計画区域」として総合的に整備すること、⑤原子力都市計画の策定に当たっては、地元自治体住民の意見を最大限に尊重し、これを保障するため住民参加の「原子力都市計画市民会議」を設けること、であります。

このうち②の緑地帯と③の原子力防災地域は、それぞれの幅をどのくらいにするかが問題となるが、米国では1954年当時、すでに原子炉の「排除距離」の思想があったことは、注目に値するものと思えます。

### 【付 原子力エネルギーの行方】

これはひとりで申せば、混沌として先行き不透明ということでありませう。関連する最近の二つのニュースを次に紹介したいと思います。

第1は日本のニュース。様々なトラブル続きで長い間凍結されていた「ブルサール計画」が、昨年9月国（経産省）の許可を受け、今年2月九州電力玄界原発電所が地元の佐賀県と玄界町の承認を得て、2010年度実施を目指している、と言うこと。

第2は米国のニュース。米国のエネルギー省が、使用済み核燃料の地中埋

設方式を、プルトニウムを取り出さず他の成分と混じったまま、商業用に再処理する方針に転換、今年2月6日にこのための新たな研究開発費2億5千万ドル（約290億円）を2007年度予算案に盛り込んだと発表した、と言うことです。

いずれも、先の見通しは全く立っていない点で、共通しております。（完）

### 略歴

- 大正15年2月12日 京城に生まれる
- 昭和17年3月 京城公立中学校（旧制）4年修了
- 昭和20年8月 陸軍少尉
- 昭和23年3月 東京大学法学部卒業
- 昭和23年6月 総理庁事務官
- 昭和23年12月 人事院事務官
- 昭和27年4月 勲東京市政調査会研究員
- 昭和38年4月 同・主任研究員
- 昭和42年4月 成蹊大学政治経済学部助教授
- 昭和42年9月 同・教授
- 昭和43年4月 成蹊大学法学部教授
- 平成3年4月 成蹊大学名誉教授
- 日本行政学会・日本都市学会ほか各種学会理事を歴任
- 国・自治体の各種審議会委員、専門委員等を歴任
- 著書・訳書・論文等著作多数

## 学習まんが『大正自由教育の旗手 中村春二』が発行されました。



### 中村春二

成蹊学園史料館では、二〇一二年の学園創立100周年を目前に『成蹊学園100年史』の編纂を行っております。現在は史料の発掘、詳細年表の作成などの段階ですが、あわせて創立者中村春二先生の検証作業を重点的に行っております。

その一貫として、昨年は(株)伊國屋書店専務の高井昌史氏（法一回）の協力を得て、DVD『大正自由教育の旗手 中村春二』を(株)伊國屋書店学問と情熱シリーズ第三十二巻として発行し、さらに当初よりの編纂計画にあった小・中学校生対象の学習まんがを、さる二月の中村春二先生の命日「枯林忌」にあわせて(株)小学館より発行いたしました。

この学習まんが発行に際しては、(株)小学館社長の相賀昌宏氏（法四回）の全面的なご協力を得ました。

在校生になじみやすい学習まんがの形式を採用し、春二先生のお人柄に触れ、より身近な存在として春二先生を捉えることを作成の意図とし、さらに教育に捧げた生涯を通じ、「人間は、いかに生きるべきか」を問いかけています。

DVD、学習まんがともに学園史料館は監修として参画いたしました。シナリオ制作、検収作業には史料館オブザーバーの上田祥士氏（高校二十三回）の献身的なご努力がありました。後輩へ春二先生の生涯を伝える事業が、同窓生の力によって成果となり心より感謝する次第です。在校生だけではなく卒業生の方々も十分に読み応えのある作品となっております。ぜひ一読ください。

成蹊学園史料館

お求めは 全国紀伊國屋書店 もしくは 成蹊学園ブックセンター  
 (〇四二二一三六〇三六〇) までお願いします。

販売価格 一、二六〇円（税込）  
 ブックセンターでは一〇%引きとなります。

# 県民性と県鳥性

峯岸典雄

本稿は、平成18年3月17日開催の成蹊高等学校(旧制)同窓会委員会(於ニュー・トーキョー・ステラ)で行われた講演を抄録したものです。



社団法人 成蹊会

今日はスライドを混じえまして、鳥についてお話をしたいと思います。私が鳥の勉強を始めましたのは、三菱商事に現役でおりました五十代半ばのことでした。もともと趣味でスタンプしたので、勤務していたころの人間関係をうまく生かし、そこそわが国でも一流の鳥の先生方の元に入りさせていただきながら、独学で鳥の知識を身に付けました。特に私は野鳥

## 県民性と県鳥性



タイトル(ゴジュウカライラスト入り)

私は一九九〇年から二〇〇一年にかけて、日本全国のゴルフ場二十三カ所にある巣箱を延べ三万三千二百八十四個調べて歩きました。一年間に調査し

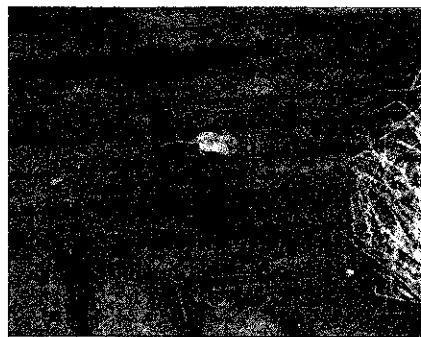
の巣箱を専門に研究していたのですが、私のように広範囲の大量調査をしたのは、どうやら世界に私一人しかいないということも知りました。スライドのタイトルにゴジュウカラのイラストを使い、自分のロゴにしていますが、今、お話しいたしましたように私が鳥の勉強を始めたのは五十過ぎてからのことでしたし、統計の勉強を始めたり、車の免許を取ったのもすべて「五十から」ということで「ゴジュウカラ」を自分のロゴにした次第です。



調査中の峯岸

た巣箱の数は約三千個にも上ります。巣箱は木に取り付けて一年間放置しておくと、木が傷みますし、何よりも巣箱の中に何か物が入っていると鳥は使ってくれません。そこで木から巣箱を降ろして一カ所に集め、一個一個調べたわけですよ。今日お話しする巣箱は家庭でも使う三十ミリ穴という、穴が三センチしかないもので、一個の巣箱のチェック箇所は、八十八に上るチェックポイントがあります。どういう種類の鳥が入ったか、どういう使い方がされたかなどコード番号を決めて記録していきます。私はそのチェックポイントをばつと見た瞬間、その巣箱がどういう状況にあったか即座に分かります。調査数が多い為、誰もが知りえない発見が多く「そんな馬鹿なこと」と大学の先生方に言われることが多いのですが、「確かに前の場合にはデータが非常に多いから、それも否定はできない

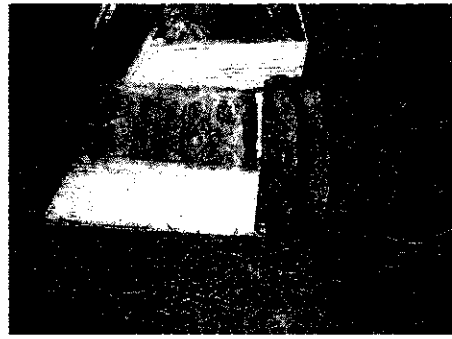
これは三センチ穴の巣箱にスズメバチが入り、中いっぱい巣をつくらせたもののそれでは足りずに、底板を食い破ってここまで巣をつくってしまった。スズメバチがいたときは、全体を茶色の斑の皮で包まれているのですが、秋になりますとオオスズメバチが暴れ出し、キイロスズメバチの巣を襲って外壁を壊し、中のサナギなど全部食べた



天然記念物 ヤマネ

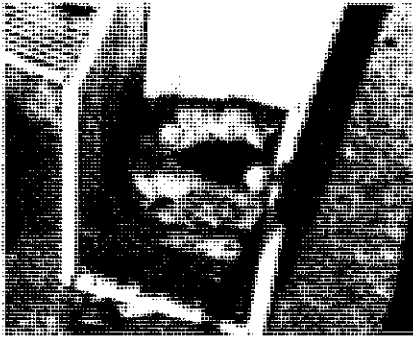
いな」と言っていたいておられますように、コンピュータに保存されている九年分の三十ミリ穴巣箱の解析データだけでも、九十万ページに及ぶほどです。いくつか、巣箱を利用する珍しい生物の写真をお見せしたいと思います。これは、天然記念物のヤマネです。軽井沢の私の家で偶然撮影できました。夜行性ですから、プロでもなかなか写真は撮れない。ましてアマチュアで、これだけ日中はつきり撮れたのは奇跡に近いことです。体長七センチくらいのニホンヤマネは、天然記念物に指定されています。

跡なんです。十二ミリ厚の底板を食い破ったという、これもあまり見られない光景です。



巣箱の底板を食い破り、巣を拡大したスズメバチの巣

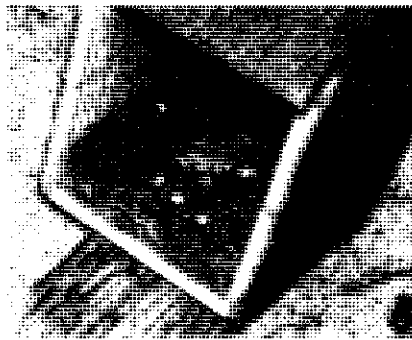
私が巣箱の調査を始めてすぐに気が付いたことですが、昔から県民性について、何県人はケチだとか、何県人は腹黒いとか言われていますが、確かにけちだと言われる県に行くと、巣箱も粗末なものが多いし、逆に豊かな県に行きますと、立派な巣があります。



立派な巣

群馬県の調査に行ったときのことです

す。新幹線の駅にゴルフ場の支配人が迎えに来てくれ、ゴルフ場に向かう車中で、いろいろ馬鹿話をしているとき、「あなた何県の出身？」と支配人に聞くと、「私は生まれも育ちも群馬県ですが、県民性は、雑駁の一言ですよ」と。その支配人にも立ち会ってらって調査して出てきたのが、この巣なんです。確かに雑駁な巣です。群馬県人は雑駁だという話をした直後に、雑駁な巣が出てきたものですから、支配人と私は腹を抱えて大笑い。周りにいた作業員は、何がおかしいのかさっぱり分からないので、キョトンとしていました。



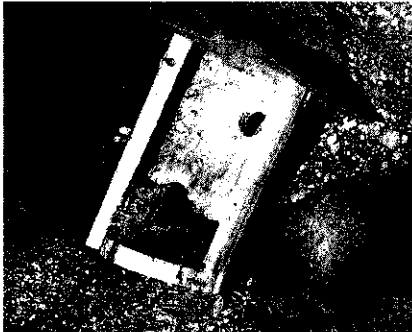
ザツバクな巣

よくよく考えてみますと、人間も鳥も同じ生物です。人間が豊かに暮らせるという事は、それだけ環境もいいわけです。そういうところは巣材も豊富ですから、立派な巣をつくる。ところがけちだと言われているところは、節約しなければならぬ環境にありますから、その県民性に合わせて鳥もやはりけちになったということでしょう

か。

もっと面白いのは、巣を見ておきますと、そのゴルフ場の支配人とか巣箱の管理者の性格が如実に出ていのが分かることです。非常に奇麗な巣をつくっているところは、支配人や管理者は几帳面な人が多い。これに反して鳥がよく入り、使っているんだけど巣が汚ないとか、荒れているところを調べてみると、支配人は表づらこそいいけれど、実は鳥が大嫌い。部下が巣箱の世話をするのを嫌がっているというののはつきり見て取れます。巣箱を見ただけで、それを管理している人の人間性も分かるのです。

ところが一九九五年になると、必ずしも巣の作り方と県民性が関係あるとも言えなくなりました。日本全国一斉に、カラスが巣箱を壊し出した「カラス一揆」が発生したのです。これは軽井沢の大変せいたくシジュウカラ用の巣箱で、間伐材をくり抜き厚さは四センチもあるのですが、一撃の下にカラスに叩き割られました。



叩き割られた巣箱

巣箱の基本的な取り付け方なんです。森の縁に付けなければいけません。森の中に付けたら、鳥は使ってくれないのです。電柱のように枝のない木、前が開けて何にもないところ、人や車が頻繁に通るところが理想的な場所です。なぜ車や人の通るところがいいかというと、人間が行き来するところは外敵がやって来ない。それを鳥は知っていて、そういう場所の巣箱には非常に入りやすいんです。

カラスにやられ出したものですから、私は考えまして、枝を伝って侵入してくる蛇には目をつぶることにして、取りあえずカラスだけは来られないようにと、大枝の下に巣箱を付けました。

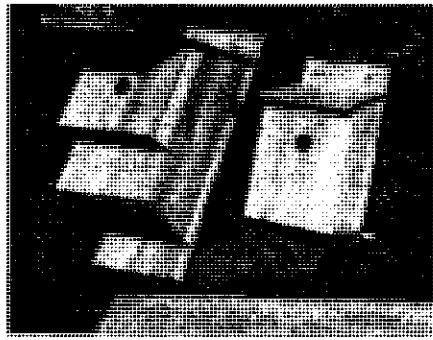


カラス除け設置

またカラスの骨格寸法を測り、巣箱の屋根の上からくちばしを入れようとしても穴まで届かないように、三十七センチ四方の大屋根の巣箱をつくりました。その後、実験の結果、屋根の前だ



け長ければ大丈夫と判明したので、新型の巣箱を考案しました。これがその「MINE III型」と呼ばれるものです。ところが、カラスは来なくなつたけれども、今度はケラ（キツツキ）の対策に追われました。ケラは尻尾で体を支えて垂直に止まりますから、屋根がいくら長くても、前の壁に止まって壊せるわけです。そこで考えたのが、ケラが止まっても尻尾で支えることが出来ないように、巣箱の前面を出っ張らせ、その下部を凹ませる形でした。右側は普通の巣箱で、左側の「MINE VI型」がそれです。



左側がMINE-VI型 右側が普通の巣箱

日本中を歩いてみますと、どこへ行ってもごみはビニール袋に入れて出されています。それではカラスに餌をやっているのと同じなんです。世界の家庭のごみ事情を調べたところ、大体が車のついた堅固な入れ物に入っています。これはカナダのバンクーバーで見たとごみ容器で、ご覧のとおりかなり堅固なものです。



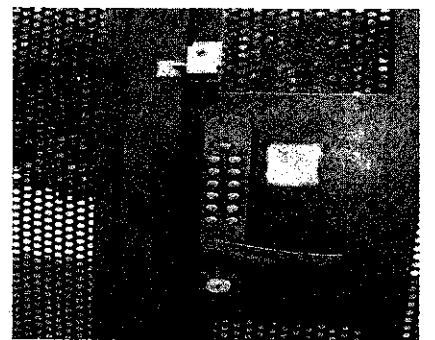
バンクーバーのごみ容器

しかも日本と大きく違うのが、戸別回収をしているということです。ごみの分別が外国ではあまりやられていないのは、土地が広くて埋めるところがあるからです。また夜間に集めず、日中集めるのが多いのは、入れ物がしつかりしているからなんです。先進国に行きますと、ドイツとかシドニーあたりのごみ収集は十四日に一回ですから月に二回ぐらいしか集めにこない。シドニーなどは、ふたが閉まっていなくて回収されないから一回残されたら大変、みんな一生懸命ごみ対策に取り組むというのも分かるというものです。

一方、後進国の中には結構ひどいところがあり、適当に川や道路に投げ捨てる。道路に投げ捨てたのを、市役所の作業員が来てどこかへ持っていき積み上げておく。それを牛や野良犬が食べるまでそのままにしておく。ある町では、家の塀に穴があいていて、そこから道路へ出すだけだという国もありました。ごみをあさるのはカラスばかりでは

ありません。軽井沢ではクマが夜中にごみ集積所を開けてごみを持っていくのは毎晩のことです。そこで鉄板を厚くし、大きな鍵を付けるなど改良しました。こうしたごみ処理問題はいろいろ知恵を出し合っていかなくてはなりません。が、「峯岸さんに設計などを一任するから、ごみ集積所をつくってくだれないか」という依頼が舞い込みました。学内の建物の殆どを新しくしている立教大学からの話だったので、総長がキャンパスの中だけいくら奇麗にしても周辺が汚くては駄目だ。住民のために理想的なごみ集積所を造ろうと言いつ出したのです。

そこでつくったのがこのごみ集積所です。カラスを防ぐのはごみに近寄らせなければいい、近寄って来ても、ごみの入った入れ物を壊されなければいいという簡単なこと。それよりも問題は、人間のほうです。まず塀を三メートルの高さにしまして、不法投棄しようとしてもこれでは登れない。さらに集積所を利用する住民は、テンキーを操作してごみを捨てられるようにしました。ところが、ワンルームマンションの若いこすつからいのが、暗証番号を知っていますから、回収日でない日にこっそり捨てるわけです。そこで、メイン錠を付けて私が管理しています。回収日でない日はこを閉めていますから、いくらテンキーをやっても開かないわけです。ということで、ゴミ問題は、カラス、カラスと言われますけれども、カラスではなくて、問題は人間のほうなんです。



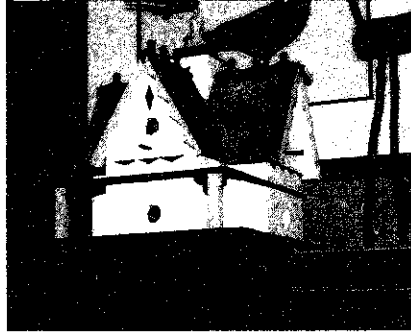
ごみ集積所のテンキー

鳥の寿命についてよく聞かれるんですが、シジュウカラの平均生存年数は一年八カ月と言われています。なぜこんなに短いかというと、食物連鎖の中間に位置していますから、食物連鎖の上位にいるものに食われてしまう。飢え死にしたり、病気や事故死するものもいるので低い生存率になってしまふ。そのシジュウカラが一年に食べる虫は長さ三センチのイモムシに換算して十二万五千匹だそうです。

人間が駆除すると一匹当たり四十円かかります。空中散布なんかやったらとても四十円では済まない。仮に四十円で計算しますと、シジュウカラ一羽が食べる虫の量を金額に換算すると年間五百万円に上ります。つがいとなると一千万円、子供がもし十羽できたら大変な額になります。シジュウカラをはじめ、鳥はかなりの量の虫を駆除して人間に貢献していることがお分かりいただけると思います。

この巣箱はバンクーバーから北へ二百キロぐらい行ったところの、スキー

で有名なワイスラーのホテル・シャトーワイスラーのメイン食堂の中に飾られているインテリア巣箱です。食堂の暖炉の上に飾られた巣箱ですが、これは鳥は使ってくれません。なぜなら、出入り口がこつち向き、こつち向き、向こう向き、向こう向きと四方を向いているからです。鳥には縄張り争いがありますから、一つの巣箱で一個以上の穴があつたら使ってくれない。完全に装飾用なんです。



ホテルの主食堂の暖炉の上に飾られた巣箱  
二階建てで8世帯用

巣箱で一番高いのは骨董的価値のあるもので五、六百万円というのがあります。骨董的な価値のあるものでも、巣箱は木の箱ですから、どうしても朽ちてなくなってしまうので、後世に残らない。だから長年残ったものはどうしても値段が高い。ヨーロッパ、特にベルギーの辺りで、昔盛んに使われていたのは、巣箱ではなくて「菓壺」でした。今は鳥の保護のために巣箱を付けていますが、昔は鳥が人間のたんばく源、つまり食糧源だったため、鳥捕獲用菓壺が用いられたのです。ヨーロッパ

ツパは菓壺が主体で、アメリカは巣箱が中心です。ヨーロッパには菓壺の彫刻、文獻などが随分残っています。アメリカの原住民のこの種の記録は何もなく、よく分からないのが実情です。その他よくある質問は「鳥は色が分かるのか」というのがあります。色は識別できます。鳥は波長の長い色を好むということで、網膜の細胞の中に「油球」というのがあり、その油球の色が鳥の種類によって違うんです。油球が赤いと、その赤いフィルタで強調されるので、赤い木の実のところによく集まる。ヒヨドリとかキジバトは油球が赤です。鳥はメスに結婚相手の選択権があるので、オスはメスの興味をひこうと奇麗な毛色で着飾るようになります。地球上の鳥は大体九千種類に上りますが、メスのほうが奇麗という鳥はせいぜい二種類ぐらいで、あとは全部オスが奇麗です。ちなみに、日本にいる鳥は約五百五十五種類です。その鳥がこの十六年間、減り続けています。人間の自然破壊があまりにも激しいからなのです。人間の考えていることはすべて、人間至上主義なんです。この考え方を改めない限り、地球の末路というか、人類の末路もそう遠くないのではないかと思います。子や孫の時代になつてから地球温暖化の影響や、今や六十五億人を超えた人口増加による食糧戦争が起こるだろうとも言われているからです。

鳥インフルエンザとか、エイズ、西ナイル熱などいろいろな病気がはやってきてますが、これは人間が増え過ぎ

のために、人間を淘汰するために新しい病原菌が今、どんどん出てきている自然現象ではないかとも思います。地球の自然の劣化が、急速に進んでしまふことは看過できません。生物を守るということは、その生物だけのためではなくて、生態系の関係から結局、「自分たち人間を守る」ということでもあることを、ぜひご理解いただきたいと思う次第です。ご清聴ありがとうございました。

(旧高・23年中退)

略歴

1928年(昭和3年)9月15日生まれ

東京高等師範学校付属中学校卒業

昭和20年4月 成蹊高等学校(旧制)文科

甲類 入学

昭和23年3月 成蹊高等学校(旧制)中途

退学

三菱商事株式会社入社。同社定年退社より、日本全国の22のゴルフ場に設置された野鳥の巣箱3000個の調査を1年間行い、その延べ調査数は33,284個になり世界記録である。調査地は山形県、佐渡島から九州阿蘇山麓にまで及んだ。前例のない調査とデータであるので論文も多数発表している。

現在は、定点、定時期、定時刻、の野鳥の払曉の合唱録音を、軽井沢で16年間続けしており、目下、その生態の変化を取り纏め中。このような生態記録は世界に例がなく、その研究成果に期待が寄せられている。(今夏公表の見込み)

その他、巣箱の中の鳥の巣の写真も数千枚程撮影保有しており、これも公表を期待されている。

春の成蹊



成蹊のしだれ桜

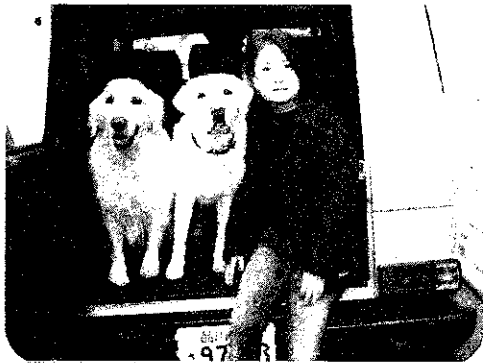


グラウンド

# 人蹊成働く

## 犬と仕事をする私

板橋 啓子



さくらちゃん（ホワイト・テリア犬）  
「ドッグフードのオーデイションで最終  
選考の2頭に残れたけど私に決まるか心  
配。」

ボウちゃん（フレンチ・ブルドッグ犬）  
「うちのママったら私がキムタクと撮影  
の時、一緒に行くってうるさくて困っ  
ちゃったわ。」

1999年1月、私はジャパン・ドッグ  
エイジェンシーを立ち上げました。仕事  
はファッション誌、テレビCM、広告の

撮影現場に躰の行き届いた犬を連れて行  
き、撮影に協力して作品を作ります。30  
年前に柳井ゼミで広告論を勉強したもの  
の、まさかこの様な仕事をするとは自分  
でも驚きです。弊社では様々な媒体を通  
じてお行儀の良い犬を紹介しています。  
正しい躰をしているオーナー（犬の飼い  
主）が増える事によって、犬への社会的  
認識が高まり、犬と人間の住み良い暮ら  
しが実現すると考えています。

訓練学校を卒業している犬をモデルと  
して派遣しますが、まずは犬を飼ってい  
らっしゃるお宅に面接に行きます。イン  
ターホンを鳴らしたら吠えるか、家の中  
ではどんな生活をしているか？次に犬だ  
けを外に連れ出して歩いてみます。訓練  
のよくてきている犬は私達の目を見て指  
示を待ち、勝手な行動はしません。もし  
て仕事の内容に合った犬を撮影の現場に  
オーナーからお預かりして連れて行きま  
す。

偶然にも世の中がペットブームになり  
ました。JKC（ジャパンケンネルクラ  
ブ）の犬登録数は1995年の36万頭が  
2005年に55万4千頭に増えました。  
少子化の影響か、子供の代わりに犬を飼  
う夫婦や、パートナーとして犬を飼う独  
身者が増えていきます。ドッグフード、犬  
関連商品は多種多様、高級志向になりま  
した。犬と一緒に住める住宅、犬と乗れ  
る車と、犬を囲む環境が日々進歩してい  
る様子は仕事を通して感じています。

1980年環境省が定めた「動物の保  
護及び管理に関する法律」は2000年



ぜをひきやすいこの季節、  
を便わす、いつでも清潔に。

シムプレックス  
アレセント

花王  
ペットケア

（犬用）

「保護」から「愛護」へ改められました。  
基本原則に動物が命あるものである事、  
人と動物の共生に配慮する事が加えられ  
たのです。子供は犬から「命の大切さ」  
を学んだり、努力しないと意思が通じな  
い事を肌で感じます。また医療の現場で  
も高齢者や障害者はセラピードッグとの  
触れ合いから心の安らぎを受けていま  
す。

しかしこのブームによる乱交配で体の  
弱い子犬が産まれたり、売り手が知識の  
少ない買い手に誤った犬種を案内して、  
その結果飼いきれなくなる場合もありま  
す。自分の生活にはどの犬が向いている  
か、今後10年以上の付き合いをするパ  
ートナーとして自分がリーダーシップをと  
れるか、よく見極めて犬を購入する事が  
不可欠です。自分で訓練する事が難しけ  
ればプロに指導してもらい、自分の犬に

何を食べさせたら良いか、またどの病  
院が良いか（これが最も難しいのです  
が）、判断しなければなりません。

犬と共有できる空間が増える一方、忘  
れてならない事は犬が嫌いな方もいる事  
です。そこで問われる事はオーナーのマ  
ナーです。モデル犬の公募はしておりま  
せんが、自薦で入って来る犬はオーナー  
が自信を持っています。オーナーが自分  
の犬に仕事をさせたいと思ひ、躰に励ま  
れ、正しく管理している事は、大変喜ば  
しいです。人間を信頼してついて来る犬  
達と共に、これをただのブームで終わら  
せることなく犬との共存社会の向上に貢  
献できる様に今後も活動を続けたいと思  
います。

ジャパン・ドッグ・エイジェンシー  
（文・48年）

# 随想

成蹊会誌用箋

## ハツカダイコンに思うこと

おぎの ひろゆき  
荻野 宏幸

昭和九年（一九三五）の尋常科一年生は男子二〇名、女子一〇名ほどの二クラスで、私の担任は滑川先生、一方は大内先生だった。男子には一名つつ約一坪の畠が与えられて週一回の農作

業があった。はじめての収穫は甘日大根、初夏の青空に採りたての真紅の珠玉をかざして見惚れたものだった。やがて支那事変、父が主計小尉で召集され、お母さんを頼むと申し渡されて、食糧難を乗り切るのに習い覚えた農作業が家庭菜園でたいへん役に立った。

農は、いのちのみなもと、動物は光合成ができないから、植物を食べるか、植物で育つ動物を食べて生きる。光合成の精緻な仕組みは驚くばかりで、先端の工業技術もこれと

比べるとまことに幼ない。遺伝子の働きには数億年の途方もない時間が積みあげた原子・分子・自然の営みの底知れなさが詰まっている。神わざを想定したい気持は判るが、やはり人間も自然の一端と思われられるのだ。

今の工業化社会の血脈、石油や天然ガスも太古の光合成の集積。太陽電池や風力発電も太陽の利用だが、陸と淡水と海で音もなく進む光合成の超能力と比べたら九牛の一毛にも当たらない。核分裂が太陽に頼らない熱源だが、厳しく封じこめないと遺伝子も環境もだめにする死の妙薬である。

この国は、地理と歴史の身のほどを忘れて「脱亜入欧」を言いつのり、アングロサクソンが主導の植民地収奪の泥沼にのめりこみ、大敗北の愚を満喫した。その後は安易に工業化に入れこみ、製品輸出にこだわって食料の六割を海外に仰ぐ不始末を招いたが、アメリカもドイツもしたたかな食糧輸出国で、フランスは植物生産だけではないが170%を自給する大農業生産国、気の利いた国は緑の成果を大切にしている。農林水産こそ独立と安全の基台だから、やがて温暖化で海の水位が上り、海辺の街の多くが沈み、降雨域の変化で南北アメリカ大陸の大方が砂漠になる

らしい。この列島も雪深い北辺が住みよくなる。タクラマカンやゴビは緑地に変るのだろうか。これは「見えざる神の手」など頼るべきではないものに頼って人口の制御を忘れ、欲望をあぶり功利にふける片輪の思想の報いである。今の先進社会は、遠からず後発の諸大陸に工業の大半を握られるだろう。

そのとき列島は休耕の田舎や乱開発のゴルフ場を工業化難民（工作の自動化が進むほどに高失業率が常態となる）や海に追われた環境難民に開墾してもらう。加えて、少子化で人口を今の半分強に安定させ、地方分権の道州制で過密と過疎とを中和できたら、難民の悲劇は避けられるのではないか。そして自然の再生産能力が許容する範囲に工業の規模を抑制して、余力は非効率が大原則の文化、美の練磨、スポーツに注ぎこむ。量の経済など見限り、質への転換を決断、通勤地獄やリストラから子孫たちを解放して、晴耕雨読、自然と共生の東洋の自由をとり戻す。穀物の「穂」を太陽の恵みの「農林水産」と読みかえた「農草原の瑞穂の国」を建て直すのだ。

競争原理のけもの道など尻目にかけ、適材適所の選択原理と共生原理の二本柱で「足るを知る者は富めり」（老子）



のまことの知恵の道に第二の鎖国も厭  
わず磨きをかけると(情報、先端知識  
は衛星を経由で大丈夫)、グローバリ  
ゼーションに疲れ果てた世界を救うこ  
とになりそうである。

全校の生徒と教員が集まる小さな講  
堂の朝礼で、心力歌の通奏低音を包む

ように机上の梵鐘を響かせた故浅野校  
長の温顔が目につかぶ……緑の奇蹟や  
レーザーを含む光通信は物質界に生動  
する「アニミズム」を浮彫にしたが、  
それを音にあらわす武満徹の感性と洞  
察はすばらしい。

(旧高・24年)

**日本人ビジネスマン50人のアメリカ国歌合唱**  
——伝統あるヤンキー「スタジアム」でのハイモーター——  
……………市橋 栄一

アメリカ国歌の合唱は大成功でした。

ヤンキー球団は野球場にお迎えした二

ユーヨーク・メンズ・クアイアの皆

さんすべてに敬意を表します。皆さん

の合唱がとても良かったと、試合終了

後、私の元にどれだけ多くの方たちが

やって来たのか、お伝えできないほど

です。大きな、大きなヒットでした。

スタインブレナー氏、そしてオーナー

席で観戦した方々も皆さんの歌を熱い

思いを込め称えていました。今日、両

チームに所属した日本人の選手に対す

ると同様、私どもが日本という国家に

対してあたたかな思いを抱いたという

ことは、とても意味深いことであつた

と考えます。皆さんの素晴らしい合唱

を、ありがとうございます。

ミセス・レビン

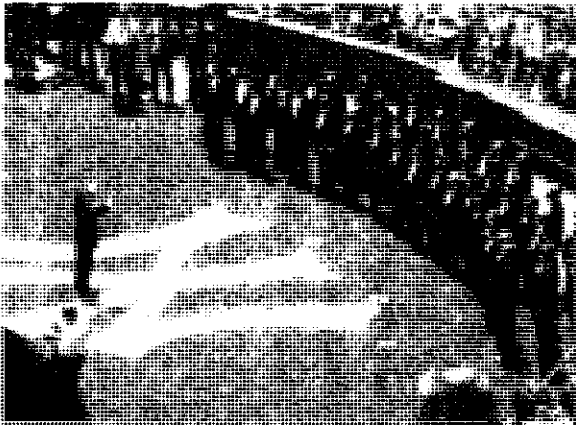
これは、即日、Eメールでヤンキー  
球団社長夫人から、私たち男声合唱団  
に届けられたメッセージです。200  
4年5月16日(日) 快晴。私は、バッ  
ク・ネットを背にして、ホーム・プレ  
ートの手前、白く輝くニューヨーク・  
ヤンキースのロゴ(NY)が描かれた  
芝生の上に整列していました。ヤンキ  
ー・スタジアムの名物男性アナウンサー  
の声が流れてきました。「ようこそ、  
合唱団の皆さん。この球場にお集まり  
の皆さんにニューヨーク・メンズ・ク  
アイアを紹介いたします。彼らは指

揮者・関雅巳氏の元、50人のNY在住  
の日本人ビジネスマンで構成されてい  
ます。そして、今、私たちの国歌を合  
唱します。」と。関さんの両手が振り  
下ろされました。そして、80秒後、ア  
ナウンサーが「SU-BARRASH-I-I」  
「SU-BARRASH-I-I」と、絶賛する  
声が球場に響き渡っていました。  
退場です。スタンドで、立ち上がり拍  
手を下さる方々の前を、三塁側のファ  
ール・ライン沿いに、ベンチ前から左  
翼フェンス、そしてベープ・ルース、  
ルー・ゲーリック、ジョー・デイマジ  
オの記念碑が並ぶモニュメント・パー  
クに向かつてゆっくりと歩いてゆきま  
した。

「このスタジアムがほかと違う点と言  
うのなら、やはり『伝統』でしょうか。」  
と、7年近く前に、ジェネラル・マネ  
ジャーのブライアン・キャッシュマン  
氏からお聞きしたことがあります。ヤ  
ンキースの本拠地が現在のブロンクス  
に移つたのは1923年。ベープ・ル  
ースが建てた家と呼ばれ、ポール・パ  
ーク(II球場)を「スタジアム」と呼  
んだのも、選手たちに背番号を付ける  
案を採用したのもヤンキースが初めて  
です。1929年、三番バッターだつ  
たルースが背番号3、ゲーリックが四

番で背番号4になつたのだといひます。  
野球場で初めてのトリプル・デッキ  
(三階層観客席)も話題を呼びました。  
私がヤンキー・スタジアムに初めて出  
掛けた1983年、地下鉄の駅から地  
上に出、当日券を求め、球場の外壁に  
沿って一周してから入場したことを思  
い出します。その夜のゲームで一目惚  
れをし、1995年10月1日まで追  
続けることになってしまったドン・マ  
ッティングリー(背番号23は永久欠番  
です)との出会いもありました。

私は、マンハッタンの中心ロックスフ  
エラー・センターに紀伊國屋書店閉店  
(1981年12月)のため渡米し、一  
時帰国を挟み昨年12月末に帰国する迄





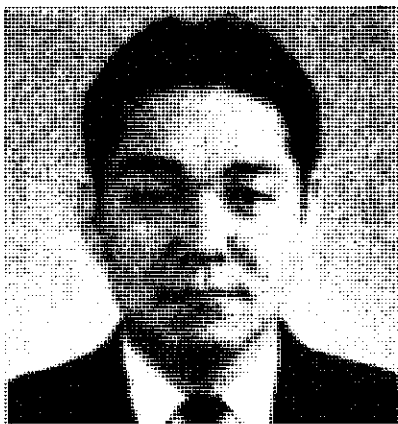
の間、日米間に生じた経済摩擦、日本のバブル経済崩壊によるNYCにおける日本のプレゼンスそのものの低下、9・11以降ヒステリー状態となり閉じられた愛国主義に囚われてしまったアメリカをも体験することになりました。そうした歴史のうねりの中で、私たち

## 最近のペット事情

.....  
伊藤 浩

紀伊國屋書店（法・51年）

昭和61年に大学を卒業してから今年の3月で早20年となります。桜の花が咲いているのを見ると成蹊大学構内の桜並木を思い出す今日この頃です。  
私自身はといえば現在は東京都台東区上野駅の前で行政書士事務所を運営しております（今年でちょうど開業し



がヤンキー・スタジアムに集った野球ファン（＝庶民）とアメリカ国歌を共有したことにより、スタンドから降り注がれたあたたかな拍手の波は、アメリカ人の心が奏でた共生へのハーモニーだったように思えてなりません。

て10年となります。お陰様でスタッフも8名となり苦しいながらも何とかやりくりをして現在に至っております。さて、今回のお題のペット事情ということですが、ペットブームと言われることから随分と月日がたちます。私の事務所自身が「ペット法務専門」を看板に掲げていることもあり（昨年2冊の書籍を出版させていただきました。「ペットビジネス開業ガイド」「あなたのペットトラブルQ&A」(両著ともに角川文芸出版刊)、ペットがおかれている状況は気になるところです。

### 最近のペット事情

さて、動物法務専門事務所を標榜し

ている私の事務所では受ける事件で最近気がつくことをいくつか書かせていただきますと

① ペットの財産化

② ペットの家族化（コンパニオンアニマルともいう）

③ 飼い主の高齢化

④ ペット関連ビジネスの興隆

⑤ 飼主の飼養責任

ということがあげられます。

以前であれば他人からもらってきた、あるいは拾ってきたペットがシヨップで高価で取引されるようになり、またペット自身の位置も単なるペットから家族の一員となり（特にお年寄りの一人暮らしにとつてはかけがえのない家族です。「コンパニオン・アニマル」ともいいます）、なにかことがあつたときに深刻なトラブルとなります。（損害賠償額の高騰であり、慰謝料の発生であつたりです。）また、これに関連して安易にペット関連業を開業することによるお客との思いもしいトラブルの発生ということもありません。

また、飼主の方も飼い方も知らないまま安易にペットを購入するということがありそれによって周囲が迷惑を被るといふ事態を引き起こしていること

もありません。

さらに、今までは考えもつかなかったペットに遺産を残すという相談も受けるようになってきました。（ペット後見といえます。）

### 今年平成18年は激震の年

今年（平成18年）は激震の年となりました。それは、(1) 5年ぶりの動物愛護法の改正によって「動物取扱業（ペット等を販売、保管等する業）」が届出から登録（実質許可）制に変わりペットシヨップ等の業者は準備を迫られている(2) 4月1日の改正保険業法の施行により無認可共済（ペット保険等が多い）が(1) 保険業の免許取得(2) 少額短期保険事業者(3) 廃業のいずれかの選択を迫られている(3) 危険動物・特定外来生物が一律法令の規制を受ける、の3点です。

今まで余り話題になつてこなかった動物に関する法務の分野ですがますます注目していかねばならない分野の一つといえましょう。

伊藤法行政書士事務所（法・61年）

# 成蹊高校ラグビー部 花園観戦記

ちばひではる  
千葉英治

## 東京大会

平成17年11月19日メインスタンドの影がかり始めた秩父宮ラグビー場に、ノーサイドの笛が響く。成蹊高校ラグビー部が全国高等学校ラグビーフットボール大会東京代表として、花園行き

の切符を手に入れた瞬間だ。実に4度目31年振りの出場である。

この荣誉ある東京大会優勝を勝ち得た選手の多くは中学生の時にも東日本大会で3位という成績を収め、中学時代から注目されてきたチームである。また私の成蹊小学校時代からの二人の大親友の甥っ子達が出場しているという

こともあり、中学の頃より節目節目で観戦してきた個人的にも思い入れのあるチームである。しかしここまでタフに成長するとは想像していなかった。

というの、成蹊高校は過去3回花園に出場しているが、その後31年間全くチャンスが無かった訳ではない。5、6年に一度花園を期待される代が現れるのだが、ある年は決勝戦のプレッ

## 開会式

平成17年12月27日午前10時花園ラグビー場第一グラウンドにて開会式が始まる。生駒おろしが吹きすさぶ花園ラグビー場に成蹊高校の赤黒のジャージが行進する。自分を含め何人の成蹊高校ラグーマンがこの姿を夢見て高校時代を過ごしてきたであろうか。行進する

を目指した20数年前の自分達の姿が重なり、胸に熱いものを感じた。

## 1回戦

成蹊の第1回戦は開会式が終了した後第二グラウンドにて行われた。対戦相手は昨年度全国大会準優勝の強豪天理高校である。天理は実に58回目の出場であるが、過去85回の全国大会の中で通算勝利数95勝と秋田工業高校の125勝に次いで2番目という数字からも出場回数が多いというだけでなく、いかに強いチームかということがうかがえる。

第二グラウンドは第一に比べ観客席の規模は小さいとはいえ、溢れんばかりの応援で大変な状態になっていた。学園を中心に、成蹊会、成蹊ラグビー部が協力し一丸となつてこの日を迎えたこともあり、グラウンドは中学生、高校生、大学生に父兄、教職員からラグビー部以外のOB、多くの他校ラグビー部OB会の方々とゴール裏も全て埋め

尽くされていた。当初地元天理の大応援団に圧倒されるのではないかという心配は、グラウンドに来て瞬時に消えた。

(前半)  
さあキックオフだ。今大会フォーワード平均身長No1の天理がFWを中心に

縦に攻めて来るのに対し、成蹊はバックスの間隔を広くとり、グラウンド一杯にボールを運ぶ展開ラグビーを身上とする。前半風上を取った成蹊は優位に試合を運ぶ。成蹊FWは天理のお株をとるモール、ラックでも随所に好プレーを見せる。バックスも身上の展開ラグビーで天理ディフェンスを翻弄するも、さすが強豪天理。簡単には点を取らせない。強烈なプレッシャーで成蹊バックスのミスを誘う。一進一退の攻防が続く24分、天理のラックの波状攻撃から右中間に先制トライを許す。ゴールも成功し0-7で前半終了。

## (後半)

風下になった成蹊だが、徐々に本来の展開ラグビーの威力を発揮し始める。右に左に振られる天理FWは徐々に疲れを見せ始め、逆に成蹊FWは随所で敵ボールを奪う。

と、その時バス11台で応援に駆けつけてくれた成蹊高校生、中学生達で埋められたバックスタンドから大声援が始まった。気づいてみると、それまで成蹊は大応援団を従えてきたにも拘らず花園という舞台を知らないこともあり、応援の方法がよくわからず、ゲリラ的に時折大きな声をあげて声援する程度で一丸となつて応援することがな



筆者左

い。一方の天理は花園慣れしていることもあり、関西独特の節回しで一丸となった応援をしている。その静かな応援を変えたのはまたあの頼もしい連中達だった。東京都決勝戦でも肩を組んで校歌を歌いバックスタンドを盛り上げてくれた高校生達だ。それを皮切りに大学ラグビー部の試合にいつも足を運んでくださったというサッカー部の名物OBの掛け声に合わせて、大応援の輪が広がる。たちまちメインスタンドまで伝わる。身震いする程の大声援。成蹊応援団が一つになった瞬間だ。

19分SO矢部の左オーブンキックに東京都決勝で逆転トライをしたWTB

金本が反応し、大きく弾んだボールをキャッチ、そのまま中央まで持ち込みトライ。キャプテン三雲のゴールも決まり7-7の同点。23分にはSH池田から金本、そして後半の途中から投入された気合の一年生WTB三浦が右タッチライン際を走りぬけ逆転トライ。12-7。バックスタンドの大応援団前での逆転トライに大声援は止まない。難しい右隅からのゴールは惜しくもはずれ成蹊5点のリード。死に物狂いの天理はFW、BK一体の猛攻撃を仕掛けてくる。28分、天理の大型ロックが遂に成蹊ゴールを割った。難しい位置からのゴールを外し12-12。そしてノースサイド。一瞬の溜息から成蹊の健闘を称える拍手の渦と変わった。

同点の場合トライ数の上回るチームが勝ちとなるが、今回はトライ数も同じことから非情にも抽選となり結果は天理が二回戦へと進み成蹊高校ラグビー部の花園は幕を閉じた。

これから

しかし今回の花園出場は成蹊ラグビィ、いや成蹊学園史に残るものと信じて疑わない。抽選の後、選手達が「負けていない」と言っていたように、彼等は強豪天理に堂々と勝負をしかけ、



松林

## 成蹊の初夏

内容的には勝っていたといっても過言でないゲームであった。そして何よりその選手達の活躍に対し成蹊の応援が一つになれた事、これが最大の収穫であったように思える。多くの関係者が遠い花園まで駆けつけ、そして一つになって母校の応援に酔いしれる喜びは一生忘れがたいものとなった。ラグビー部以外でもいくつかの部の活躍が聞こえてくる昨今、益々精進しあちらこちらで成蹊を応援する声が響き渡る日が来る事を切に願う。

最後になりましたが、この度の花園出場に関し、関係各方面の方々から多大なご支援をいただきましたことを、ラグビー部OBとして厚く御礼申し上げます。

成蹊ラグビー倶楽部理事(経・61年)

平成十六年度(秋) 褒章受章者

(敬称略)

藍綬褒章

岡田 昌之(高 29年) 元情報サービス産業協会副会長

(本会調べに漏れがある場合には、お知らせ頂ければ幸いに存じます)

# 書 壮心やまず上條信山 生誕百年記念展

現代日本の書に、教育・芸術・国際交流等多方面において心血をそそぎ、89歳で亡くなるまで活力を与え続けた文化功労者故上條信山（旧職員）先生は、今年かぞえて生誕百年にあたります。これを記念して松本市美術館で大回顧展が開催されることになりました。

本展では、館内三会場を使い、上條信山の書と人に迫ります。松本市美術館収蔵品をはじめ各地で所蔵されている作品92点、揮毫碑拓本28点、先師（張廉卿・宮嶋詠士）作品17点と関連資料が展示されます。

第一会場（企画展示室）では、生涯にわたる代表作を一堂に集め、その業績を振り返ります。第二会場（常設展示室B・C）では、信州に生き続ける書や石碑拓本等の展示を行い、併せて体験型ワークショップコーナーが設けられます。また、第三会場（上條信山記念展示室）は、人として、教育者として抱き続けた“思い”に焦点を当てた展示となります。（松本市美術館開催企画案より）

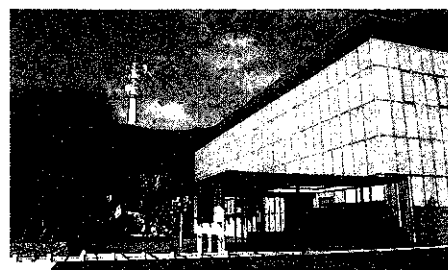
会員の皆様には是非足をお運びいただき、成蹊のよき時代の上條信山先生を偲んでいただくことができれば、望外の幸せでございます。多くの皆様方のご来観を心よりお待ちしております。



会 期 平成18年7月15日(土)～9月24日(日)  
開館時間：午前9時～午後5時（入場は4時30分まで）  
休館日：7月18日(火)・24日(月)・9月11日(月)・19日(火)

会 場 松本市美術館  
観覧料 大人 1,000円 70歳以上・大学高校生 600円  
中学生以下、障害者手帳携帯者とその付添者1名まで無料

主 催 松本市美術館  
共 催 書象会・信濃教育会・読売新聞社・信濃毎日新聞社  
協 賛 謙慎書道会



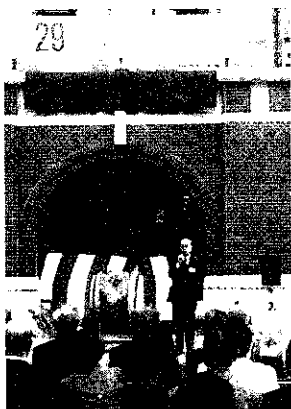
## ●ここに謹んで哀悼の意を表します●

野田 彰(特別会員) 平成17年12月31日	岡田 全(旧高6) 平成17年11月20日
河辺 立子(特別会員) 平成18年1月10日	十河 淑子(小) 15 平成17年11月26日
長 玲子(小) 28 平成5年12月3日	豊村 太三(政経10) 平成17年11月30日
小林奈保美(文) 8 平成12年1月9日	石川 六郎(旧高19) 平成17年12月14日
田野 貴峰(経) 27 平成13年2月27日	尾崎 仁(高) 16 平成17年12月14日
萩谷 松江(女) 18 平成15年4月4日	船木 厚志(法) 29 平成17年12月14日
鈴木 輝彦(フ) 8 平成15年5月4日	佐藤 眞彦(高) 4 平成18年1月11日
加賀山純生(政経4) 平成16年7月22日	相馬 徳蔵(旧高21) 平成18年1月12日
田中 良子(女) 26 平成16年12月29日	石坂 二郎(旧高21) 平成18年1月29日
福原 元宏(政経8) 平成17年1月4日	倉片 仁(旧高22) 平成18年2月4日
佐藤 和雄(経) 1 平成17年6月8日	吉田 稔(法) 6 平成18年2月19日
大條景一郎(フ) 1 平成17年6月29日	松浦 俊介(旧高20) 平成18年2月27日
滝口 明穂(高) 3 平成17年7月1日	宮本 保孝(旧高23) 平成18年2月27日
松田 友子(女) 15 平成17年7月12日	宮本 正之(旧高19) 平成18年3月1日
若菜 一郎(フ) 6 平成17年7月16日	豊岡 弘昌(政経14) 平成18年3月7日
藤田 憲男(法) 7 平成17年8月24日	北原 義浩(高) 5 平成18年3月8日
山崎 昭司(高) 1 平成17年8月31日	桃山 忠久(高) 2 平成18年3月9日
石井 奈々(文) 2 平成17年9月11日	兼松 学(旧高5) 平成18年3月11日
柴田三三男(旧高6) 平成17年9月15日	吉田 明男(文) 36 平成18年3月19日
塚本 倫子(女) 9 平成17年10月6日	中村 秀子(小) 43
本田 義郎(旧高16) 平成17年11月4日	間崎 弥生(小) 43
田島 實(政経9) 平成17年11月6日	山下 研(小) 43
黒田交三郎(旧高5) 平成17年11月8日	木幡 武彦(中) 7
島田 健一(旧高16) 平成17年11月16日	山田 昌徳(政経2)
藤森 明子(経) 7 平成17年11月16日	古川 興伸(政経17)

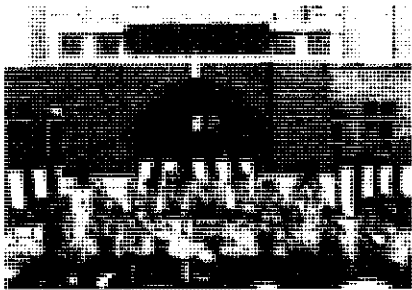
## 物故会員

(平成17年11月14日～平成18年4月6日迄にご連絡のあった方を掲載いたしました。)  
ご逝去の年月日が不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。

# 第29回 成蹊桜祭



岸曉学園理事長挨拶



オープニングで小学生の和太鼓

今年も4月第一日曜日にあたる4月2日に第29回成蹊桜祭が開催されました。3月25日に開花宣言が発表となり前日の準備日はほぼ満開で正にお花見日和の好天気でしたが、当日の天気予報はあいにく曇りのち雨の予報でしたので雨天の場合の対応も考慮してのスタートとなりました。

桜はすでに満開で開催時間前から続々と来場者が増え始める中、11時からはお馴染みの小学校和太鼓クラブ部の部員17名での演奏が始まり桜祭の開催となりました。

今年の司会はNHK「首都圏ネットワーク」レポーターで「おはよう日本」などに出演している文学部英米文学科卒の牛窪万里子さんと牛窪さんのアシスタントを務める多摩ケイブル「スタジオ21」TODAY「キャスター」で2004年度ミス日本の「ミス海の日」にも選ばれた菊田佳苗さんのおふたりでした。

可愛いと評判の和太鼓演奏に続き、野村桜祭委員会委員長の開会の挨拶があり、更に岸曉成蹊学園理事長からご挨拶並びに中村春二先生の「建学の日」についての説明がありました。

中村春二先生のご命日にあたる2月21日「枯林忌」に成蹊学園が監修した学習漫画「中村春二く大正自由教育の旗手」(小学館)が刊行され紀伊國屋書店にて発売開始になり、中村先生の教育にかける姿が私塾「成蹊園」並びに「成蹊実務学校」設立の過程を通じて描かれていて、成蹊教育の源流を知ることのできる内容になっています。

この本は紀伊國屋書店のブースでもDVDなどと一緒に販売され注目を集めていました。

その後、この4月から成蹊学園の専務理事として新たに就任された橋本竹夫氏よりご挨拶があり、さらに新理工学部部長の廣田明彦氏、新小学校長の金納善明氏が紹介され、4月からの成蹊の顔となる方々のご出席になりました。

次に旧制高等学校有志の方々による若々しく勇ましい歌声での寮歌・運動部部歌が披露され、続いては成蹊大学管弦楽団の現役有志も加わって桜祭の為に編成された総勢90名にも及ぶOBオーケ

ストラ・コーラスがクラシックの名曲「美しく青きドナウ」と成蹊出身者が作曲した曲々、そして校歌といずれも親しみのある曲を美しい歌声を息もピッタリで披露してくれました。成蹊ウィンドオーケストラOB・OGバンドは「ハリウッドメロデー」「情熱大陸」など美しい音色を聴かせてくださり、OB・OGの参加に続いては現役の体育会応援指導部チアリーダーが華やかで元気のいい演技を披露してくれました。さらに続く競技ダンス部はドキドキするような美しいドレス姿で華麗ながらも正確なダンスで観客のため息を誘っていました。

一時過ぎには卒業生で女優でもある長山藍子さんにお越しいただいてステージで成蹊の思い出話などをしていただきました。桜祭には何回もいらしたことがある長山さんですがステージでお話をさせていただくのは今回が初めてということ、ステージでのトークの後は来場者からの記念撮影依頼に気軽に応じてくださっていました。

お昼を過ぎると同窓会への出席者も集まり始め来場者は益々増え会場は大変賑やかになってきて、メロンパンや焼きそばなど予約をしないと購入できないブースも出てくるなど、どこもお客様の対応で大忙しの様子でした。

今年成蹊会設立70年に当たる年なので成蹊会のブースではネクタイなど成蹊オリジナルグッズの販売に加え、6月18日の総会後に行われるパーティー出席の申込みをして会費を払ってくださった方には成蹊会70周年を記念したオリジナルTシャツの配付をしました。成蹊会の文字と桃をデザインした上質なTシャツでロイヤルブルーとピンクの2色で各サイズ用意されましたが、最後にはなくなってしまうサイズが出てくるほど人気がありました。

また今年から成蹊中学広報として入試要項の案内ブースが出店しましたが、直接先生に質問ができるいい機会となったようで成蹊中学への入学を希望している親子連れが大勢訪れて注目を集めていました。



いつも人気の乗馬体験



ソーラーカーは行列待



桜の下でダーツ



チアリーダーの熱演



競技ダンス部  
華麗なデモンストレーション



お茶会にも多勢の参加者



桜と仲間と懐かしさ

美味しいお茶を戴けると評判の茶道部野点、人気の乗馬サービス、パワーアップしたソーラーカー、子供達に大人気のエアートランポリンにも大勢のお客様が集まり中には長い列ができて整理券を配るブースもありました。また、戌年ということでパンダとキリンに犬が加わった着ぐるみも、風船の無料配布と並んで子供達の人気を集めていました。

1号館の建設で枝垂れ桜が移植されたのでアイメイト協会主催の首導犬の体験歩行が桜の木を眺めながら行うことができました。大勢の方が順番待ちをして体験歩行をしたことよって首導犬に対する理解と関心を深めることが出来たと思います。さらに今年には盲導犬候補の仔犬も参加してその人懐っこい可愛らしい仕草からも会場の人気を集めていました。

午後からは雨の場合を考慮してステージを学生会館に移動しての開催となったのですが、6年前に設立して舞台演奏は今回が初という軽音楽部OB会（成蹊シンテージャーズ）の演奏、コンパルサウンドズOBバンドによるカウントベイシー、グレンミラーのナンバーの演奏、小学校の同級生で結成されているベンチャーズバンドOBが演奏するさくらさくらなど懐かしい曲や聴きなれた人気の曲を堪能することが出来ました。

例年ですと閉会時間になる3時頃に、これから

自民党の安倍晋三内閣官房長官が来場するというアナウンスがあったため、今年の桜祭は3時過ぎで殆どのブースで完売御礼の報告が出ても帰宅する方が少なく大勢の方が桜を眺めるなどして構内に残っていました。

心配していた雨も降らずに4時頃になったところで、小学校から大学までを成蹊で過ごした安倍晋三内閣官房長官が来場されました。桜祭委員会委員長のお父様は成蹊小学校の元校長で安倍氏の恩師でもある関係上で今回の来場となったようです。

学生会館では司会の牛窪さんとステージに立っている安倍氏を携帯のカメラで撮影しようと大勢の人が集まりタレントさながらの大人気でした。さらにトラスコンガールデンへ場所を移してから安倍氏の最前線に集まったのは小学生でしたが、自身が着ていたのと同じ制服を着て「安倍さん、安倍さん」といいながら握手や質問攻めにする選挙権を得るのには10年以上必要な小学生に対しても丁寧に対応してくださる姿に人柄の良さを感じました。

小学校の入学式では正門から続く桜並木の下を在校生に迎えられるながら小学校の校舎へ向かって歩きますが、安倍氏も満開の桜並木を見てご自分の小学校時代を思い出したのでしょうかお茶を飲みながらリラックスしたひと時のように感じました。

時折雨を感じるものの傘の必要がなく無事に第29回桜祭は閉会を迎えました。

桜募金に協力してくださった方々、桜祭開催に当たりご協力くださいました学園関係の方々をはじめとした皆様、さらに土砂降りの中で後片付けをしてくださった学生の皆様にご場をお借りして心より感謝と御礼申し上げます。

水本桂子（文・57年）



活躍する着ぐるみ



小学生と楽しげな安倍官房長官



途中雨天で会場変更も  
コンパルOBの熱の入った演奏



# 学校・年次会

## いさお会

去る10月22日に政経学部佐藤功教授の憲法ゼミナール同窓会である『いさお会』が創立50周年記念祝賀会を新宿の厚生年金会館で開催した。

祝賀会は1期生の江木さんの冒頭挨拶、成蹊会齋藤常務理事のご挨拶及び学園の近況報告、4期生の藤原さんの乾杯の音頭により開宴され、海外在住の会員（11期松永さん・在シドニー）も遠路はるばる参加し、会員約50名出席の下、終宴まで和やかな祝宴が続いた。

憲法ゼミナールは、ゼミが誕生した昭和24年から先生が成蹊大学を退職された昭和41年まで、17年次約180名のゼミ生が学

び、『いさお会』は、佐藤功先生を囲む師弟会として昭和30年に発足し今日に至る。創立以降実に半世紀に渡り、先生及び門下生並びに先輩及び後輩間の交流が続いており、これまで先生の法学博士祝、叙勲、受賞、文化功労者表彰、憲法施行50周年記念、古希から米寿までの長寿祝い等に託つて先生を囲む数々の会合を重ねて来た。

佐藤先生は現在なおご存命で一昨年の米寿、本年の卒寿もお元気で迎えられたが、今夏から急にご老衰の度合が深まり、当会へのご出席も数年前が最後となり、又、会員の平均年齢もこの40年間若返る事もなく毎年確実に一歳ずつ加齢し、平均年齢も70才近くに達してきた。

この様な経年状況下、当会もどこか切りの良い時点でけじめをつけざるを得なくなり、丁度本年が創立50周年の節目に当たる事から今回の周年記念祝賀会



を以て残念ながら公式会合に終符を打つこととなった。

しかし乍ら『いさお会』そのものは未だ体力を温存しており、年次によってはゼミの同期会もあり、又、新聞会OB会と統合した合同ゴルフコンペも定期的で開催され分科会活動は極めて活発である。

佐藤ゼミが早い時期に消滅し、又、僅か2年間のゼミ生活にも拘らず延々と50年間『いさお会』の活動を継続出来たのは佐藤先生のご人徳とゼミ生一同の成蹊の伝統たる連帯感及び結束力の賜物である。

会としての公式会合は終焉したが、明年以降春の成蹊校祭時に集合場所と時刻を決め、母校名物の花見がてら任意に集ま

て校祭及び人生の黄昏時まで未だなく恩師、先輩、後輩、同輩の更なる絆を深めて行きたいと思ふ。

城戸崎靖（政経・31年）

## 一蹊会

高校第一回卒業生の集いである「一蹊会」が、平成十七年十月二十九日(土)午後一時から三時まで、草野和雄・竹内正両君のお世話で、J.R.新宿東口の「なだ万寶館」で十名が参加して開かれました。

最初に話題になったのは新制高校第二学年に編入された六十名が五十七年を経た今日どのようになつたのかということでした。当時は戦後期の混乱という背景もあつて、途中で教室を去る人がありましたので、話題の対象になるのは五十五名ですが、幹事と参加者の報告を参考にし、生存者を確認できる仲間はいくつあるかということになりました。つまり生存率が六十七%という少ない集団になつてしま



たということですが。戦中・戦後の厳しい食料事情が影響したのでしょうか？

そんな状況下ですから、ここ毎年開かれていた会合の出席者は八割方向じ顔ぶれです。しかし、今年は真雅国君が卒業以来始めて信州から出てきて参加をしてくれました。お互いの近況を順番に披露したのですが、参加されない仲間の報告もあつて二時間という時間があつという間に過ぎてしまいました。最後の話題の中で、母校がその後どのように変化したのか一度訪れて見たいという希望がありましたので、機会を見つけて企画することを申し合わせました。

井川舜喬（高・25年）

# 高校卒業50周年



昭和31年高校第7回卒業生は卒業50周年を迎えるにあたり、平成17年11月27日に記念合同同窓会を大学10号館12階ホールで開催、卒業生212名（物故者26名）の内64名が出席しました。

また、来賓として内田信夫、土方敏夫、平田博則、横手長治、吉崎恵次の当時の先生方、学園より岸曉理事長、谷正紀中学・

高等学校長にご出席いただきました。

当日は12時30分に開会、幹事代表菅原彦一君の開会の辞に引き続き、岸曉理事長、谷正紀校長、瀧秀彦成蹊会会長（同期）からお祝辞をいただき、本林徹君の乾杯の首領でパーティーに移りました。

合同の同窓会は何十年振りのことで、顔と名前が一致しない人も結構おり、「アレ誰だっけ」という会話もあちこちで起こる状況でしたが、時間とともに5年前にタイムスリップ。古稀を目前にした面々の集まりとは思えぬ和気藹々というより昔の教室の賑やかさで、約2時間の会話はあっという間に終わりを迎え、記念写真を撮り、校歌を歌って閉会しました。

料理は大量に余り酒が足りなくなる結果で、幹事団は話が弾み盛り上がった会と自画自賛。年を越して幹事メンバーは慰労会でもう一度盛り上がり、会費の残額約13万円を学園創立100周年記念事業募金と成蹊会に寄付することを決め卒業50周年記念の同窓会を締めくくりました。

三浦 健（高・31年）

# 中学校昭和38年卒業3年E組クラス会

師走に入った昨年の12月3日（土）午後3時から吉祥寺第一ホテル「ローズの間」において、昭和38年3月成蹊中学校卒業の3年E組栗原雄一先生担任のクラス会が開催されました。当日は栗原先生もお元氣な姿で出席頂き、総勢23名の出席者（先生の他男性17名、女性5名）を数え大変盛会となりました。

冒頭、栗原先生から中学卒業後約40余年振りに開催されたクラス会の懐かしさと喜びの言葉を頂戴し、続いて今回の開催幹事の一役を担った田代和美さん（旧姓田中）のご発声による乾杯が行なわれた後、懐かしい仲間らの歓談に入りました。

約40年振りに再会した面々の中には、自己紹介をしてもらわなければ名前が判明しない人、昔も今もほとんど変わらない人、先生よりも老けて見える人？様々で、時間の経つのも忘れて中学時代の思い出話に花が咲き

井上宏一（中・38年）



ました。

会場には、卒業当時にクラス全員で作成した文集「南極生活」（ペンギンに因んで）や、「卒業アルバム」が用意され、懐かしそうに見入ったり、自分で書いた稚拙な文章に眉をひそめるなど人それぞれ。席上、出席者が当時の名簿順に順次近況報告を行い、瞬く間に2時間の予定時間を経過。最後は当日大阪から駆けつけた堀口庄平さんの「中締め」で無事一次会を終え、引き続き同ホテルのバーで行なわれた二次会に移り、夜が更けるのも忘れて一夕を楽しみく過しました。

# 小学校昭和34年卒業生同窓会

2月4日土曜日午後5時から、昭和34年に成蹊小学校を卒業した仲間同士が、遡曆を目前にしての同窓会を成蹊大学10号館12階ホールにて開催致しました。総勢約130名のうち50名の方々が参加されました。野田先生、村上先生、それに何人かのクラスメートを失ったことは大変残念なことではありますが、お元氣な大西先生をお迎えして、我がが約半世紀ぶりに再会し、昔話や近況を話し合う中で、自分達をとても幸せに感じることが出来ました。

予定していた時間はあっという間にすぎ、またの再会を約束してお別れとなりました。

お招きしてこの会に最後までお付き合いいただいた成蹊会事務局長の高橋章建様から後日、「小学校の先生と児童の精神的結びつきの強さに、成蹊教育の大切さを実感させられた大変楽しい会でした」との嬉しいお言



葉をいただくことも出来ました。詳しくは成蹊会ホームページへの掲載記事をご覧ください。

丘山 洋(小・34年)

## 大学卒業10周年

平成18年3月4日(土)成蹊大学10号館12階ホールにて、大学卒業10周年記念同窓会が開催されました。今年で2回目というこの企画は、学園が私たち卒



業生をホームカミングとして迎えてくれるもので、開催の費用はすべて学園が負担してくださいという素晴らしい会です。

当日は天候にも恵まれ、卒業生と学園関係者を含めまして152名ものみなさんに参加していただき盛大な会となりました。

今回の司会は工学部卒の吉田尚之さんでした。法学部卒の代表幹事片山崇さんの開会の挨拶に始まり、成蹊学園理事長の岸曉様、成蹊会会長の瀧秀彦様にご挨拶をいただき、成蹊学園広報課長の伊藤昌弘様から学園の近況についてご紹介がありました。

成蹊大学長の栗田恵輔様の乾杯で豪華な食事を食べながらの歓談が始まりました。歓談中は私たちが在学した90年代前半のヒット曲が流れ、入学式のスナックがスライドで表示され、当時の記憶がよみがえり、仲間たちとの会話がさらに盛り上がりました。

また小さな子供の姿もあり、子持ちママ幹事発案の乳児休憩室は大盛況でした。

最後は工学部卒の秋本大輔さんに閉会の言葉をお願いし、集合写真を撮ってお開きになったのですが、次はまた10年後ではなく、もっと同窓会をやりたいという有志まで集まりました。

これもすべて成蹊会のおかげですが、実際のところは年会費の集まりが悪いと聞きました。今後のホームカミング同窓会の存続および成蹊会の発展のために、みなさんへの年会費納入を呼びかけて、以上報告とさせていただきます。

篠宮克己(工・平8年)

## 黒沼稔先生の傘寿と金婚の祝賀会

3月5日(日)成蹊大学10号館12階ホールにて「黒沼稔先生の傘寿と金婚の祝賀会」が先生

と奥様をお招きして開催されました。黒沼先生は昭和42年から平成3年まで政治経済学部・法学部教授(現在は名誉教授)として研究・教育にご活躍しました。地方自治論、都市問題のゼミを担当し約300人の学生が熱心な指導を受けました。当日は約50人のゼミ卒業生が出席し、第一部の「日本のエネルギー戦略と原子力都市計画法」のご講演では学生時代を思い出し名講義に聞き入りました。

第二部の「懇親会」では先生と奥様に花束・記念品を贈呈後、代表幹事高井昌史(昭和45年卒)がご挨拶、鶴岡市から上京した松田修一さん(昭和44年卒)の乾杯で会がスタートしました。先生と奥様を囲み学生時代の授業・ゼミ合宿そして体育会の学生が多く何にかと先生に

ご面倒をおかけした事等思い出話で大いに盛り上がりました。約3時間が過ぎ全員で記念撮影・校歌斉唱、最後に成蹊中高教頭の両角雄功さん(昭和51年卒)の中締で散会しました。この会の準備、開催に高橋龍一さん(昭和50年卒)はじめ幹事の皆様に大変お世話になりました。ご苦勞様でした。追記・黒沼先生は退任後俳句を勉強し数々の賞を受賞しています。出席者全員が金婚記念句集「薫風」を戴きました。退任後の著作として学術書「現代日本の地方自治」「国民大衆のための法律入門」「自治と人権」

## 黒沼稔先生の傘寿と金婚をお祝いする会





# 昭和27年卒 成蹊小学校6年 南組クラス会 (づいさぎ会)

本クラス会は毎年春に開催されておりますが、今年左記要領で恩師である山形先生の御臨席を得て楽しい一時を過ごしま

等、趣味関係書「音楽の鑑賞上・下」「私の趣味―その遍歴」等数多くあります。生涯「現役で勉強」素晴らしい人生・良き恩師にお会いできて幸せです。

高井昌史(法・45年)

日時：平成18年3月25日(日)  
12時から15時  
場所：吉祥寺東急イン3階宴会場

当日は暖かい日和に恵まれ先生を含め18人の出席を得ました。最初の先生の挨拶は、自分は現在84歳になるが自分の経験に鑑み、奥さんを労わり仲良く笑いのある家庭を築いて行く事が、66歳とそろそろ老人の域に入る皆さんにとって日々の生活をする上で最も大事になりますとの趣旨でありました。併せて先生から御自分で書かれた「三冊の日記」の紹介がありました。これは昭和19年から20年に亘り先生の軍隊生活の中で書かれた3冊の日記をベースに200ページに亘る貴重な本で、出席者一同に謹呈されました。その後出席者各自から近況並びに各々の家庭事情の披瀝があり各自自分の家庭の円満を強調しておりました。先生を含め出席者一同談笑の中で3時間が瞬く間に経過しました。

稲葉 隆(小・27年)

## 小学校同窓会



今年も桜満開の4月2日、成蹊学園内で春の小学校同窓会が開催されました。昨年春の同窓会は校祭に合わせ小学校の施設を借りて開催しているもので今年も、昭和10年代卒業から現役の大学生まで幅広い年代層の卒業生50数名が小学校の体育館二階にあるブレイルームに集まり、小学校の先生方のお話を聞きながら楽しいひと時を過ごしました。

当日は3月末に校長を交代されたばかりの岡崎先生からご挨拶を頂き、また新校長の金納先生からは、今後の小学校の運営についてのお話と教頭先生を始



め各主務の先生方のご紹介がありました。参加者からの小学校の現況に関する質問に金納校長が巧みに各担当の先生方の答弁を引き出され、恰も金納新内閣のお披露目の格好となり、さらに女優の長山藍子さん(小・29年)の飛び入り参加もあり、大いに盛り上がりました。

懇談の後、体育館内の収納されている観客席が迫り出してくる設備や地下の水深が変えられるプール等、充実した小学校の施設を見学してお開きとなりました。

秋には例年通り、ニユートーキョーでの同窓会を予定しております。また春の同窓会は今後も校祭の時に小学校の施設内で開催することによって更に参加層を

広げ、成蹊小学校同窓会を従前以上に盛り上げていきたいと思っておりますので皆様方のご参加を引き続きよろしくお願致します。

永井素夫(小・41年)

## 船越学級クラス会



校祭当日。午前中は花曇り、それからは下り坂模様であった。けれど本館の周りには、オーケストラの演奏やコーラスが流れ、満開の桜の下、若さ溢れる現役のエスコートを受け、大勢のOB、OGやその御家族等に囲まれ、明るく賑やかな光景が広がっていた。

今年はどうな方と会えるかなと思いつきながら学生会館302号室へ向う。会場が畳の為、あちこちに車座が生まれ、形式が一切無く、今ではお陰様で唯一「どなたでも参加出来るクラス会」であることに感謝したい。三三五五メンバーが集う。「級長」と誰からも親しまれている柳本君を始め、出席回数皆勤に近い梅田、遠藤、近藤



土谷（塚本）、橋本、中村（真柄）、三城各君（実は、他にも大勢の方が正勤賞もの）に加わり、今回は何と瀬田君が高校卒業以来初めて顔を見せてくれた。45年ぶりである。又、久しぶりに大江君もメンバーに加わる。

御高齢の為、皆がお身体を心配していた船越先生からは次の様なメッセージが届く。「昨年、は寝たり起きたりしていたが、今年は徐々に良くなって来ています。来年は出ます。」この一

言が伝わると一同驚嘆の声が上がり、先生御自身の力強さを感じパツと明るくなった。いつもながらに各々が座った場で周りの友と話が弾んだ頃、三人の先輩方（高5回）から御挨拶を頂く。城戸毅様は現在、吉野寺から岐阜県迄通い、聖徳学園の経済情報科長として歴史等の教授をされておられるが、あと一年で勤務が完了する予定との事。

今、どのの大学でも経営が厳しい時代になって話を話して下さる。寺田明様は、平田博則先生や土方敏夫先生の近況等を伝えて下さる。本城邦彦様は、成蹊の教育精神がこの様な時代にも元気に息づいている喜びを語っておられた。

我らのクラスでは、田村君が3年に亘る関西勤務を終え、東京に戻ったこと、田島君が日本医師会の常任理事の役を無事務めたことの報告が有った。毎年の会の落書等通信を名簿に纏めてくれている木野君からは、三宅榛名さんが近年、フェリス女学院大学の教授に成られたこと。そして病気の為欠席している友への心配を返信の便りから紹介が有る。

この会も年々少しづつではあ

るが、自然と新しいメンバーが増えて来ることが魅力に成っている。当日は斉藤富彦君がウクレレ持参で二次会以降も共に楽しんでいった。高岸君は「桜前線」についてミニレクチャーをされ、小川（松本）君の熱心な質問も飛び出し、一同多めに参考となる。相川君も高校卒業45周年同窓会の呼びかけをされ、根岸君も顔を見せてくれた。すっかり常連となった倉橋君は学生時代と変ら無い丸顔で場を和ませてくれる。野村君はいつもの如く元気に登場。

人が集うということは互いに何かを持ち寄ることではないだろうか。その時々話と共に、それはその人らしい笑顔であったり、友への思いやりであったり……何はともあれこの日一番の土産といえは、年々歳々年をとって行く昨今、「健康の大切さ」をお互い自覚し合ったことの様に思えました。

今回は延30名の方が集う事が出来、記念の集合写真を今年も平野君に写して頂き、一同流れ解散となった。

嶋田辰昭（高・36年）

## 昭和26年入学者の集い

今年も学園内の桜が満開で、昨年と同じ会場・北1号館までの道は素晴らしい桜吹雪だった。予め案内状に記載しておいた車椅子で参加する友を歓迎する為の対策も、朝晩降雨の天気予報の為か空振りになってしまった。開演時間になり名簿作成の藤



原尚よりこの1年間は住所変更以外の修正は無いとの説明があり、次にゴルフ幹事広瀬治一郎よりコンペの参加者予想数、その他の新企画が提示されていた。曇天が続く午後に入って、受付・会計を引き受けてくれた岩崎健三も続々到着する友を懸命に捌いていた。加藤聡や案内状作成の市瀬睦も手伝って、撮影を指揮する平井博の集合写真が完了する頃は、アルコールも廻って賑やかになり、食卓上の山本圭介提供の美酒をめぐる飲んべえ連中で沸いていた。

工藤久一郎の旭日双光章受章の話や園田信行が小西清平の要請で執筆した「小西摂津守行長回想帖」の資料調査のため中国まで出向いた縁で、日本・アカシヤ文化大使」として今春北京の集いに参列するとの話題等で楽しかった。

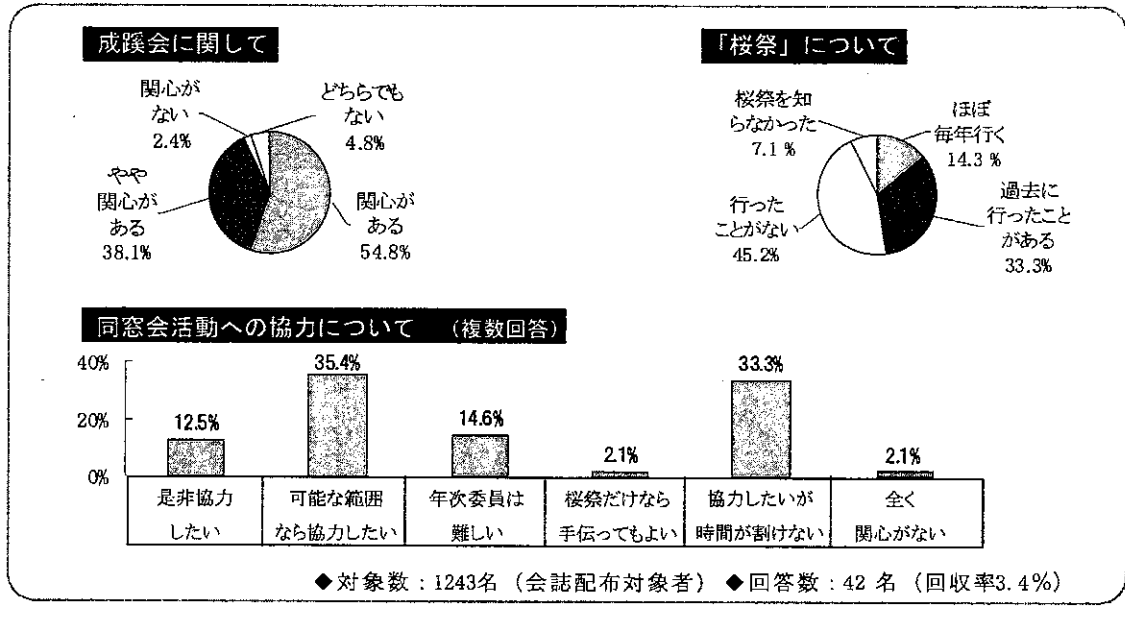
来年度の桜祭には昭和26年当時の成蹊大学新聞拡大版ばかりではなく、27年、30年も掲示してはどうかとの提案が事務局下川汪尚宛に寄せられていた。

工藤久一郎（政経・30年）

☆☆☆ 経済学部同窓会アンケート結果のご報告 ☆☆☆

経済学部同窓会では同窓会活動のより一層の活性化を模索する一貫として、昨年末、同学部卒業生に向けたアンケート調査を実施しました。成蹊会や桜祭に対する関心や、同窓会活動についての参加意向など簡単なアンケート用紙を成蹊会誌に同封してFAXで返信してもらう方法で実施しました。

協力率自体は5%以下と少ない集計数ではありましたが、卒業生の声を直接聞くという点では注目すべき取り組みでした。調査内容の一部ですが結果を報告します。ご回答いただきました皆様へのご協力に感謝いたします。



男声合唱のグリークラブOBは約2百名。OB会の恒例行事と言えば、4月第一日曜日の成蹊桜祭にOB総会を、そして秋には箱根寮で「ハモる会」を開催しています。しかし、多忙なOBには時間的制約があり、なかなか参加出来ないこともありました。OB会発足20周年記念を機に今回初めて気軽に参加出来る親睦会を開催。開催日時は17年7月9日(土)午後2時から、場所は眺望抜群の成蹊大学10号館12階ホール。当日はOB31名が参加しました。

グリーは永年の間、オペレッタでは第一人者の故荒木宏明先生にご指導を仰いでいました。

グリークラブOB会  
20周年記念 親睦会

体育会・文化会・OB会  
趣味のつどい



親睦会には故荒木先生の奥様にご高齢にも拘わらず遠路はるばるご参加頂き、OB全員が大感激。歓談では、昭和30年代前半卒業のOBからグリー草創期の様々なエピソードの披露があり、初めて知った若手OB達は感動。



また一方、卒業後30年以上経って初めて母校に戻ってきたOBは大学の施設が随分様変わりをしていることに大変驚いていました。

和やかな雰囲気の中、男声合唱の愛唱歌をハモったりして初回の親睦会は大いに盛り上がり、お開きの予定時刻5時を大幅にオーバー。この親睦会は今後とも継続的に開催したいと考えております。回を重ねる度に、と更に多くのグリーOBにも今回と同様の喜びを分かち合いたいと思います。

米倉豊比古(経・48年)

## ハモル会

グリークラブとは男声合唱団のこと。歌う曲は基本的に無伴奏。我がグリークラブOB会は17年10月、成蹊学園箱根寮で恒例の『ハモる会』を行いました。参加メンバーはOB21名と美しき親衛隊2名。

10月15日(土)の午後3時に集合、精付いた音感を駆使しながら音



合わせ。曲は日本人の心に残るポピュラー曲。編曲は、「グリーに精通したOBならではの」の初代学生指揮者・齋藤太明氏による彩り豊かなオリジナル。老眼鏡を使わなければ楽譜が読めなくなつて歳を感じたOBも大勢。事前に楽譜を送付し自主トレした筈だが完成度は今一歩か。6時からの宴会では食事が一段落した頃、誰彼となく愛唱歌を口ずさみ、自然に珠玉のハーモニーが奏でられ、次から次へとリクエスト。グリーの醍醐味を久々に満喫しつつ夜10時頃まで歌い尽くしました。

OB会は現役学生を支援すると言う重要な役割を担いますが、残念乍ら、グリークラブは約10年前に廃部。こうしたなか、OB会の抱える問題や今後の在り方について議論に熱が入り、夜中の2時頃まで大ディベート。翌16日(日)は朝食後漸次解散しましたが、家路につく車の運転中に睡眠不足で眠くなり、途中のサービスエリアで仮眠を取ったOBもいたとか。

今回『ハモる会』には初参加のOBが数名。このなかには北海道や長野や大阪からも。一度参加すれば『ハモる会』の楽しさが味わえます。来年は、より多くのOBの参加を切望しています。

米倉豊比古(経・48年)

## 英語会OB総会

昨年11月19日(土)、我が成蹊大学「第2回英語会OB総会」が饗宴開催で賑う大学構内(第2学生食堂)で開催され、全国津々浦々より約50名ほどの



実に創部50年以上、また700余名の卒業生を輩出し、文系の部活としては最大規模を誇り今日に至っております。

今後益々の発展と卒業生のご活躍、ご健勝を祈念し、来る次回の本総会開催(本年)に向け心を引き締める所存です。

三浦 隆(法・49年)

## 準硬式野球部OB総会

先輩後輩、老若男女が集結し、3時間弱余りの短い時間ではありましたが、一昨年の第1回総会に違わず大いに盛り上がり、次回の再会を約束し成功裏に執り行われましたこと本誌を借りてご報告致します。今回特記すべきは自称「グランドシニア」(昭和20年代後半から30年代前半卒業)の方々がまだまだ達者で多数参加して戴き、大いに盛り上がったことは幹事または後輩一同大変喜ばしく勇気付けられた次第です。

我が成蹊大学英語会は長年の歴史、文化また伝統に支えられ

今年も2月18日(土)に毎年恒例となつているOB総会が開催されました。現役の野球部活動に資金援助しながら、OB同志の交流と親睦を深める目的で活動している我が準硬式野球部OB会が、1年間の活動報告、会計報告を出席OB諸兄に承認して貰い、次年度の執行幹事の改選と活動予定および予算案を発表する場でありましたが、それは同時に、久しぶりにお会い出来た先輩が随分と老けたなあと思ったり、音信が不通だった後輩がヒョッコリと姿を現すなどがあったりして毎年さま



さまざまな出会いがある場でもあります。

久しぶりに会った先輩には近況を報告してアドバイスを戴いたり、後輩からは色々な方面での相談を受けたりしながら、当時の若い頃に戻っている自分に気が付き、冷や汗をかいたりします。

また、現役部員から現在のリーグ戦の対戦校や試合内容などを詳しく聞いて、自分達の現役時代を思い出しながら叱咤激励アドバイスをしたりすることも

楽しみの1つであります。

今年も新宿の会場に、厳寒の中にも拘らず約30名のOBに出席していただき、物故者への黙祷の後、高井会長の挨拶により開宴されました。

年々逝去されるOBが多くなり、自分よりも若いOBが亡くなったりすると他人事ではない切迫感が湧いて来、また定年やリストラなどの厳しい職場環境や、健康に関する話題などで少し暗い気持ちになったりもしますが、宴たけなわになるにつれ、青春時代の思い出話が活発になり、時間のたつのも忘れるほどの楽しさに浸ることが出来ました。

参加するたびに思うのですが、OB総会は1年間の精神的な疲れを癒してくれる休息所であり、また1年間頑張らせてくれるスタート地点でもあります。人情・友情・家族愛が薄れてゆくこの時代のなかで、損得ぬきで付き合える野球仲間OB達は評価のしようがない財産だと思います。

出口重夫 (経・48年)

## 成蹊ラグビークラブ ブ歓迎・祝勝会

平成18年3月12日、学園の大学10号館12階ホールにおいて、成蹊ラグビー部の、現役選手、OB、先生、父母の会の方々、合計で200名をこえるメンバーが集まり行われた。

これは、この春の卒業生の歓送会と併せて、昨シーズン、大学チームが、関東大学対抗戦Bグループにおいて、7戦全勝の成績で、3年連続の栄冠を勝ちえたこと、又、高校チームが、東京都大会で優勝、長年の念願であった近鉄・花園での全国大会に31年ぶり、4度目の出場を果たしたことを祝つての催しである。

高島信之ラグビークラブ会長(旧高20回)より、昨シーズンの夫々のチームの活躍ぶりに賞讃と卒業生への祝いの言葉が述べられた。

平成18年のシーズンから大学チームの監督となった池田智氏(高33回)より、昨シーズン、

同チームが善戦、Bグループでは優勝したが、悲願のAグループのランクアップは同グループ8位の青山学院との入替戦で、29・24の1トライ差で敗れ、果せなかつたこと、又、新たなシーズンに向つての抱負などが述べられた。

高校チームの監督である土屋嘉彦先生より、同チームが花園の全国高校大会に出場し、前年度優勝の名門・天理高校と対戦し、日頃の練習の成果を発揮し健闘、成蹊らしい展開ラグビーで、12・12のスコアで引分ける成績を収めた。しかし2回戦への進出は抽選の結果、残念乍ら果せなかつた旨の報告があつた。

渡辺一郎先生(前高校チーム監督)のご発声で一同乾杯、交流懇談の場となつた。

昨シーズン迄活躍し、卒業して行くメンバーに、18年度大学チーム大友敬志主将(経4年)を始め、在校生側より、記念品の贈呈があり、これに対し、卒業する選手夫々から、監督、コーチ、父母への感謝の言葉が述べられた。

OBの石坂信也氏(経21回)より卒業生に向けて、自らの人生経験から、常にチャレンジす



る精神を以て、現状に満足することなく、夫々、目標を立てて進んで欲しいとの激励の挨拶があつた。

父母の会の代表から関係者への感謝の挨拶のあと、17年度大学チーム主将山口晋平君のリードで参会者一同で部歌を合唱し盛会のうちに終了した。

原 一郎 (政経・28年)

「同窓のつどい」  
「寄稿ください」

五百字(写真付の場合)  
八百字(写真無しの場合)  
締切 いつでも結構です。

# 業界・企業のつどい

## 三菱東京UFJ 銀行成蹊会

と増えており、卒業校も小・中・高・旧高・大学とバラエティに富んだ会員構成となりました。今回は、平成18年度入行予定者7名、旧UFJ銀行出身者の13名も含め60名が出席しました。

去る3月15日水曜日、有楽町のニュートキョー数寄屋橋本店9階にある「L.A・STEEL L.A」において、東京三菱銀行とUFJ銀行が本年1月1日に合併して初めての三菱東京UFJ銀行成蹊会が開催されました。本会は、新人歓迎会も兼ねて旧東京三菱銀行では毎年一回行われておりましたが、今回からは合併した旧UFJ銀行の成蹊出身者の72名に加え、会員数は総勢337名の大所帯となりました。この会の歴史は古く、実務学校のOBが在職中に発足して以来、銀行の合併に伴い入行時の銀行も旧三菱銀行、旧東京銀行、旧三和銀行、旧東海銀行

当日は、木谷浅草橋支社長(大54年)の司会で始まり、この会の会長である岸相談役(旧高23年)からのご挨拶、井上特別顧問(旧高17年)より乾杯のご発声を頂いた後、新人を囲みながら、お互いの近況を語り合うなど和やかなひとときとなりました。続いて当行OBである成蹊会理事吉野氏(大34年)から、成蹊会設立70周年記念パーティーへの参加呼びかけ、更には米倉氏(大48年)から成蹊学園創立100周年記念事業への募金状況について説明があり、当日の参加者全員にインターネットでの募金受付パンフレット案内を配



布しました。尚、当銀行成蹊会もその趣旨に沿って、昨年に引き続き当日会費の一部を100周年記念事業の募金に充当させて頂きました。その後、入行予定者と旧UFJ銀行出身者からの自己紹介へと歓談の輪が広がり、最後に全員で恒例の校歌を斉唱してお開きとなりました。来年は、さらに多くの参加者で益々盛会に開催したいと思っております。

丹治正道(経・59年)

# 地域のつどい

## ニューヨーク 成蹊会

2006年1月12日木曜日定例のニューヨーク地区成蹊会がマンハッタンの日本食レストランで開催されました。総勢18名が出席、夜遅くまで話が弾み和やかな雰囲気でした。前回の会同様、小学校から大学までのご卒業の方と年齢層が幅広く、今回もニューヨーク滞在中も1年か

ら50年間の経験もさまざま、米国滞在の経験談も豊富でした。また、今年も前回同様ニューヨークで活躍する女性の卒業生が過半数を占めました。ニューヨークが長い先輩ではギンズ・細野・喜久子(高昭36)、堀内四郎(高昭41)、村瀬悟(高昭49)が参加し、前回に

引き続き、秋山史人(法政治平2)幹事、市川秀幸(経済平2)、今井葉子(文平1)、小野寺邦夫(高昭59)幹事、菰田久美子(文昭56)、佐宗イクミ(法平15)、杉原鉄馬(工平4)、関根正裕(法平8)、端倉裕美(旧姓小村)(文昭60)、浜田美穂(経営昭53)、本位田拓(高平2)、山本貴子(法平12)幹事)も無事参加。その他、山辺亜紀子(経済平8)、和賀井亜紀(経営平3)ら初参加の成蹊卒業生もありました。

近年、ニューヨークが目立つ傾向として、日本食のファッション化が挙げられ、一人5〜6万円のすし屋、料理の鉄人の森本氏が1月開いた巨大高級レストランもあり、西洋・日本のフュージョン料理屋、会席料理屋、焼き鳥屋、炬燵や日本酒150種類もある居酒屋が夜中遅くまでアメリカ人の若いカップルや金融マンでひしめいています。



日本料理であるかも知れぬ奇妙な混合の料理も多い反面、築地直送のお魚、お惣菜や手製の豆腐、手打ちそばなども人気が高くなっています。

そして、野球で活躍のヤンキーズとメッツの両松井選手のおかげで日本人野球ファンも多くニューヨークを訪れています。ウォール街でも日本の景気回復を反映して日本に対する投資熱も高まり、ビジネス・日常生活でも日本の存在は強いと言えると思います。

ニューヨークやその周辺に「駐在、ご留学、ご出張、ご旅行」野球観光の折はぜひ成蹊会の幹

事にお気軽にご連絡ください。

秋山史人 (tsac0001@)

bloomberg.net 法政治平(2)

小野寺邦夫 (onodera@)

encomj.com/ 高昭(S)

山本貴子 (tyamanoto@)

jinolanlaw.com 法平(2)

村瀬 悟 (高・49年)

## ロンドン成蹊会

今年日本同様英国もことのほか厳冬で、2月24日も零下まで気温が下がったロンドンで今年初めての成蹊会が12名の参加を得て開催されました。会場はリージェントストリート近くの「馳走」という日本食レストランの個室で日本食に舌鼓を打ちながら、成蹊付近の懐かしい話をしていくと、ここが海外であることを忘れてしまいました。

在英歴20年以上の方もいらっしゃれば、研修・留学で1年程度の方、職種も年齢も様々で普段は得られないような海外で必要な生活情報の交換やサッカープレミアムリーグ、トリノオリ



ンピックの裏話など、あつという間の3時間で次回秋の再会を誓って散会しました。

藤田徹朗 (法・57年)

## オーストラリア クイーンズランド 成蹊会

第21回QLD成蹊会を2006年1月18日(水)18時にゴールドコースト市内のチェンマイ・タイン・レストラン(クラウン・タワーホテル内)で半年振りに開催いたしました。

出席者は新年会には、北海道日高から毎回参加の下河辺俊行(S40政経) 夫妻、Junko Van Doranさん(旧姓高橋淳子) S54文学部英米文学科)、リタイアメントの杉浦重男さん(S39政経)の奥様、幹事役の素子Donoghueさん(S44政経)は、開催1時間前に急に会議が入り欠席となりました。

今回は元州立グリフィス交換留学生の中からMs. Ashley Brook(アッシュリー・ブルック)さんが出席してくれました。前回、出席の舛谷紗織さん(大学院博士課程で社会文化論専攻、井上太一さん(日本では英米文学、こちらではビジネス専攻)のお二人は、卒業されて1月初めに、日本に帰国されました。2月末からまた新年度の留学生が来豪されると思います。

今回、出席いただいた、アッシュリーさんは1999年3月から2000年2月末まで成蹊大学に留学されました。オーストラリアに帰国後、2002年8月から2005年8月までの3年間、国際交流JETTプログラムで再び日本に行かれました。1年間は、島根県、隠岐の島の

中央公民館で一般、小中学生に英語を教え、あとの2年間は島根県庁で翻訳、通訳業務そして異文化・国際交流イベント企画等を行ったそうです。成蹊会に参加したあと日本語で書いた絵葉書を頂きましたのでご紹介いたします。漢字、仮名など全て原文通りです。

「ご無沙汰しております。お変わりありませんか。下河辺さんがおられたときお天気に恵まれてなによりです。西島さんから下河辺夫妻のうわさはかねがね聞いていましたが素敵なお夫婦との出会いを表現できて嬉しく思います。成蹊会では美味しいものを食べたり、異文化の話をしたり、国際理解を図ることもでき、大変楽しく有意義な時間となりました。誘っていただ



き、本当にありがたうございました。I hope to see you both again soon, Ashley」

アッシュリーさんは現在、市内のマリオットホテルで流暢な日本語を使って受付の仕事に就いています。何かの因縁でしょうか、下河辺夫妻の定宿です。

なお当会では学園（小中高校）の卒業生に限らず広くご家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。今年のゴールドコーストの夏（日本の冬）は気温も高く厳しい毎日です。皆様もゴールドコーストに来られるときには「遠慮なく」一報下さい。

e-mail: samnishi@hohmail.com  
Tel/Fax: 07-55717808  
Mobile: 0418763717

西嶋 勇（政経・40年）

## 北海道支部 枯林忌の集い

北海道支部主催の枯林忌の集いを、2月21日(火)札幌プリンスホテルにて、本部より齋藤常務

理事をお迎えし、総勢22名にて開催いたしました。当日は、日本テレビ放映「おもいっきりテレビ」の中で中村春二先生が紹介されるという大変な幸運に恵まれ、テレビ局出身の小林会長（S32政経6期）が録画してくださったビデオを、宴の冒頭に視聴しました。学園の成り立ち、いままで見たことのない貴重な写真をはじめとする記録の数々、そして何より学園の精神を改めて教えられたことで出席者一同感慨に浸ることができました。今後は、毎年宴の冒頭でこのビデオを流し、先生を偲ぶと共に学園の精神をしっかり確認していくことが決定されました。

また、学園創立100周年記念事業募金に対し、出席者皆さんのカンパと昨年秋に行われた朋友会（成城、学習院、武蔵、成蹊）による合同OB会、のゴルフコンペでの優勝賞金を寄付することが決定され、目録が小林会長より齋藤常務理事に手渡されました。宴の後半からは、恒例の出席者による近況報告が行われましたが、ビデオのお陰で諸先輩の皆さんから学園生活のさまざまなエピソードが紹介され出席者それぞれの学生時代



「枯林忌の集い」  
成蹊会北海道支部 平成18年2月21日開催

を懐かしむことができました。

そんな大変和気藹々とした中、

混声合唱出身の村木先輩（S46工6期）と矢部さん（S57文14期）のリードで校歌斉唱が行われ、最後に、島津先輩（S36政経10期）のメロディの挨拶で春と秋に行われる朋友会ゴルフコンペの連覇と年末に行われる朋友会大忘年会の幹事校としての責任をしっかりと果たすことを確認し散会しました。このあと若手（年齢制限はありません）は、ススキノに繰り出し、すっかり深酒になったことを報告いたします。最後になりましたが、ここ数年、道外転勤による会員数の減少に歯止めがかかりません。他の支部で北海道へ転勤等の会員情報がありませんでしたら、北海道支

部事務局まで一報いただければ幸いです。

大岩 勝（工・57年）

## 秋田成蹊会

去る11月18日(金)シャインプラザ平安閣にて平成17年度の秋田成蹊会が開催されました。

成蹊会本部より、灘会長のご出席をいただき、総勢25名により盛大に行われました。当日は、旧制理乙の大先輩から平成の卒業生までの幅広い年齢の会員が集い、参加者の中にはそのご子



息が現在大学在学中という方もおられました。

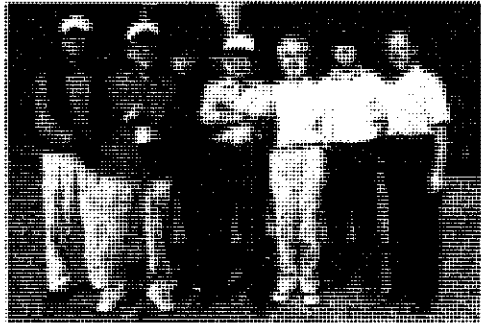
長谷川善四郎会長（政経38年）の挨拶に始まり、出席者一人一人が自己紹介、学生時代の思い出等をお話し、近況報告を行いました。なごやかな雰囲気の中で、旧交を温め、全員で校歌を斉唱して会を終えました。

秋田成蹊会は毎年10月から11月に開かれております。次回、より多くの出席があるよう皆様是非ご出席ください。

石川真人（文・59年）

## 千葉支部有志による ゴルフコンペ

平成17年11月9日(火)千葉支部有志7名による第1回ゴルフコンペが新袖ヶ浦CCにて開催された。安田敬一支部長（政経2）、深沢勝彦副支部長（政経7）、柏靖博幹事（政経13）と西克二（政経17）の政経グループが1組目、2組目は高石尚人（政経6）能条昭雄（法學13）と片山正樹幹事（工経4）の組み合わせでスタ



トした。  
 当日はまさに成蹊日和(安田支部長曰く)、風一つ無い絶好の秋晴れにめぐまれた。千葉支部では、年に一回総会(別称七夕の集い)を行っており多くの参加を頂いていることは周知のところであるが、更に一層の会員同志の親睦を図るために、昨年度から千葉市さくらタウンウオーキング企画(安田支部長が千葉市観光協会会長で主催)に参加、10名の会員と楽しい一時を過ごすことができた。今回さらに秋にも親睦をはかるイベントとして、総会にて提案のあったゴルフコンペを開催することにした。安田支部長のゴルフは、全くブレもなく常にフェアウェーのど真ん中、正にゴルフの王道。

道。深沢副支部長は大変にパワーフルな重い玉筋で果敢に攻めた。柏幹事はひょうひょうとして何のケレンミも感じられないゴルフ。西会員は非常にステディ安定感バツグン。高石会員は飛ばし屋でロングドライブを幾つも放ち、当日のベストグロス。能条会員は若さ溢れるスイングでこれから本格的にレッスンをうける決心をした発展途上中。片山も前日プロのレッスンを受け、それなりにナイスショットが打てた。丸一日大変楽しいプレーとお喋りの時間を過ごすことができた。記念すべき第一回の優勝の名誉は片山(46・51)が得た。ニアピン賞は能条会員が唯一獲得し笑顔を見せた。今後も秋季恒例の懇親企画として更に多くの会員の参加を期待しつつ来年度の開催を誓い合った。

閉話休題  
 コース移動中に安田支部長の人生観を伺うことができた。「私の来し方は正に成蹊の教育精神(桃李不言……)のよう経過として来ました。これからもこのように生きたいと思えます。」と成蹊マンの生き方に深く感動した。

片山正樹(工・44年)



2月10日18時半より第37回渋谷成蹊会を「青山ダイヤモンドホール」で開催致しました。  
 成蹊学園岸理理事長、成蹊会瀧会長を始め学園、成蹊会の幹部の方々や新入会員10名を迎え67名の参加者が有りました。  
 乾杯のご発声は参会者中の最長老にお願ひしておりますが、今回も昭和27年大学第一回卒の赤石先輩にお願ひし、昭和27年当時東横アパート屋上から山手線を越え向かいのビル間を「ゴンドラ」が運行されて居たという。今では知る人が殆んど無いお話しを、赤石先輩のみがお持ちして頂きながら伺いました。  
 ご挨拶は何時も初参加の方だけに懇談の時間を長く取るようにしております。初参加の方々も直ぐ会話の輪に溶け込めるのも、吉祥寺で学園生活を過ごした共通の楽しい想い出が有るからだと思えます。初参加と言



つても若い人だけでは無く、最高裁判事の尾崎先輩(S25年旧制23回)のような大先輩の方も居られるのが渋谷成蹊会の特長の一つです。  
 閉会に先立恒例の校歌はヨット部OBの丹羽君(政経S44年)に海で鍛えた喉でリードしてもらい何時もの様に1番2番3番を高唱し一次会は終了。二次会はそれぞれのグループ毎に表参道に散って行きました。



今回で3度目ですが、会費の内から一人1千円づつ「成蹊学園創立100周年記念事業」に寄付する事とし、会計6万8千円を寄付させて頂きました。  
 今年7月11日(火)に第38回の会を開催致します。新たに参加ご希望の方は渋谷成蹊会事務局(電話・FAX 03-3463-1559)までご連絡下さい。  
 池原正夫(政経・36年)

日時：平成17年11月26日(土)  
 午後6時より  
 会場：「えんとこ」  
 今回で9回目となる岐阜成蹊会、成蹊会から吉野副会長をお迎えして開催されました。肝心の幹事が開催時間を勝手に勘違いし遅参し、開会が遅れるというハプニングもありましたが、旧制高OBからこの4月に学窓を巣立つばかりの新人まで12名、年齢差55年以上あるとは思えない、なごやかな会となりました。





したが、ほとんどの参加者がまだ語り足りない二次会へと繰り出し、最近寂しくなった柳ヶ瀬の街の活性化にちよっぴりですが、寄与しました。

後藤総一郎（法・53年）

## 三重成蹊会

今回は、中勢地区担当にて平成17年11月19日(土)県庁所在地津市のホテル洞津会館にて開催されました。午後1時受付開始。参加予定者30名で事前にキャンセルが2名あり、講演会のみ参加が3名で総勢31名の参加となりました。

午後1時40分三重成蹊会開催。司会進行役(株)ホンダオート三重林口社長。

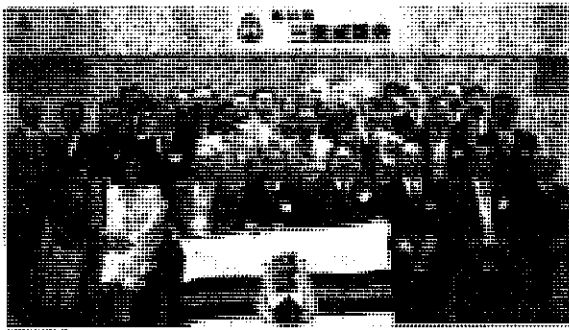
最初に成蹊会常務理事齋藤悠氏挨拶。最近の成蹊学園の状況等が話される。次に幹事役から会計報告と規約についての説明があり、その後今回初めての試みとして企画しました講演会、百五銀行専務取締役雲井純様（経済47年）からの「これからの

日本経済を考える」という講演を全員一同真剣に傾聴いたしました。

懇親会も和気藹々と会話も弾み、自己紹介の時の例年恒例となりました三重大学名誉教授梅林正直先生のタイ国「黄金の三角地帯（アヘン）に梅の実の栽培話」も益々熱を帯びてまいりました。

最後にCD伴奏にて校歌を斉唱して再会を約し午後6時に散会しました。

沢山の人の来てもらえるよう幹事役に、土曜日の午後早くからの開催とか、講演会も企画してもらったのに、参加者が少し少なくて残念でしたが、これか



らも三重成蹊会を盛り上げて行きたいと思えます。

追記、前日18日8人参加で久しぶりの成蹊会でのゴルフを楽しみました。

土性哲也（法・53年）

## 愛媛成蹊会

愛媛成蹊会第3回忘年会を、H17年11月26日(土)に伊予鉄会館にて、開催を致しました。この日は9名の方が出席をされました。今回は成蹊会本部より、齋藤常務理事がおいでになられました。愛媛成蹊会では初めての事でした。

齋藤常務理事から現在の成蹊学園案内や成蹊大学新聞・成蹊学園内の写真集等を閲覧させていただきました。学園内の風景や吉祥寺の町並みを見ると懐かしさがこみ上げてまいりました。洋食のフルコースを食事しながら、楽しく懇親会を過ごす事ができました。

転勤で愛媛にいます方、又は愛媛が地元で県外に転勤されている



る方で、愛媛成蹊会に参加しようと思う方がいましたら、是非ご参加下さい。

問い合わせ先  
松山市大可賀2-1-3-17  
TEL  
089-952-1111

担当 福崎太郎  
右記の方ご連絡下さい。宜しくお願いたします。

福崎太郎（法・平7年）

## 長崎成蹊会

去る平成17年11月26日（土）長崎市坂本屋にて21名の出席のもと長崎成蹊会17年度総会を開



催いたしました。開始直前には強い夕立があり少々心配しましたが皆様元気に坂本屋へお越しになりました。当日は成蹊会事務局長の高橋章建様を始め、鹿児島成蹊会からのご参加もいただき、長崎のみならず各地の活動を聞くことができ、とても有意義でありました。

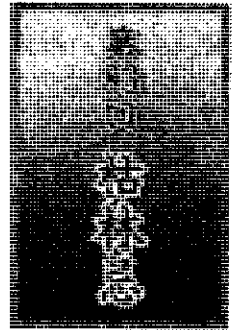
さて、坂本屋といえば長崎では有名な老舗料亭旅館であり会食前の「おひれ」(お吸い物)の説明から始まり、和、洋、中(和華蘭)織り交ぜた「しつぱく料理」を、楽しい会話とともにみな心行くまで堪能しました。高橋事務局長のご挨拶では、成蹊学園100周年に向けた小中高の充実。大学では図書館の充実等を図るとのこと。学生

においては、成蹊高校の31年振りの花園出場。大学ではアーチエリーや空手部の活躍が目覚しく、在校生も頑張っているのが卒業生も一層ご活躍をと応援のお言葉を頂きました。また「成蹊会設立七十周年記念に向け積極的に活動を行っており記念パーティーでは目標を600人、最大1000人」と壮大な計画も聞くことができました。

恒例の近況報告を兼ねた自己紹介では合いの手あり、笑いありで大いに盛り上がりました。個人的には、先輩方が「何学部何年卒の〜」とおっしゃった時に「産まれた年だ!」などと内心びつくりもしました。成蹊会の素晴らしい所は文系・理系卒に関係なく親睦があることだと思います。これも一重にワンキヤンパスの素晴らしさだと思います。

他地域成蹊会同様、長崎成蹊会も総会や四大学懇親会をはじめ活発に活動しています。長崎県に転勤された方、転居された方は非ご連絡ください。  
長崎県長崎市光町9-11  
Tel 090-8225-1763

松尾光一郎(工・平12)



中村先生のお墓では、中村温氏をはじめ中村家の方々が迎えられ、お参りの方と言葉を交わされるなど、和やかな墓参となりました。

枯林忌は、中村春二先生に直接薫陶を受けられました。池袋同窓会を始めとする諸先輩が、中村先生ご逝去の後、墓参と追悼を続けてこられ、今回で83回を迎えました。第60回枯林忌からは学園と成蹊会との共催となり、現在では中村先生とともに、物故された成蹊関係者を追悼する会として今日まで多くの方が参加されています。

当日は少し肌寒いながらも晴天に恵まれ、穏やかな日和の中で、参加者は各々墓参をしました。



その後追悼会場である三菱養和会集鴨スポーツセンター会議室に参集した参加者は、それぞれ親しい同窓と席を並べ、食事を取りながら旧交をあたためた後、追悼会が始まりました。

学園、大学、高校、中学校、小学校の各校関係者30名、同窓生54名が参集した会場では、岡田かおる学園総務課長の司会により追悼会が始まり、中村先生肉声の心力歌第一章が流れる中、全員で唱えました。はじめに岸曉学園理事長、瀧秀彦成蹊会会長の挨拶があり、続いて加藤節専務理事から学園の近況報告が行われました。その後、全員が物故者名簿を手に黙祷をし、物故者に追悼の意を捧げました。次いで出席同窓生から3名の方がお話をされました。同窓生仲間も知らない経歴を埋めるお



話、話がかぶらないように苦心されたお話、原稿にまとめたお話などそれぞれの個性溢れるお話に出席者一同聞き入りました。(河野啓子氏(女20)、柳井道夫氏(高校4)、本城邦彦氏(高校5)の3氏)

当日は出来たばかりの中村先生の業績を紹介する学習漫画「大正自由教育の旗手 中村春二」と、恒例の坂井屋謹製の「枯林忌饅頭」を全員が手にして散会しました。

# 再生、博多商人として

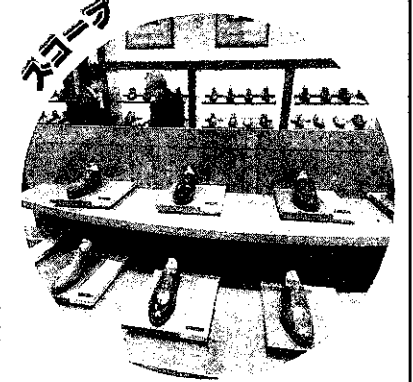
九州の百貨店を国営私的整理による再生を遂げ、支援していた伊勢丹の子会社として新たな一歩を踏み出した。昨年三月に開業した新本店も計画を上回る売り出し、大手までの地方百貨店再生のモデルケースとされる。伊勢丹自身の再生も、伊勢丹の子会社である岩田屋の再生も、再生のモデルケースとされる。

**化粧品・子供**  
売り場で勝負  
「新本店には計画的に、旧本店に比べれば減りませんが、販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。」

## トップの戦略

「新本店には計画的に、旧本店に比べれば減りませんが、販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。」

## 伊勢丹から流行読む



昨年オープンした新本店は東京の百貨店にも引けを取らない内装に（紳士靴売り場）

「新本店には計画的に、旧本店に比べれば減りませんが、販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。販路の拡大を図る。」

岩田屋社長

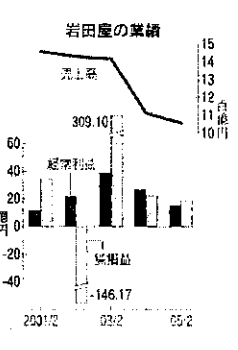
佐久間 美成さん



佐久間美成氏（政経・33年）

佐久間美成さん  
1935年（昭和10年）東京生まれ。58年（昭和33年）東洋紡績に入社。57年（昭和32年）東洋紡績の伊勢丹に転籍。62年（昭和37年）伊勢丹の岩田屋社長に就任。伊勢丹の再生に尽力。現在は伊勢丹の子会社である岩田屋の社長を務める。

### 業績データから 私的整理経て再挑戦



岩田屋の再生は、国営私的整理による再生を遂げた。再生のモデルケースとされる。伊勢丹の子会社である岩田屋の再生も、再生のモデルケースとされる。

日経MJ 2005年（平成17年）11月14日付より

## 楽咄ばなし

音楽界がなまじりヒートアップしてある。故クロイツァー豊子・元国立音楽大名誉教授の没後50年を記念し、種馬川大音楽院に「クロイツァー豊子メモリアル音楽サロン」が創設され、15日、お披露目のコンサートとハイティが開かれた。

自宅を引き継いだためのソフラン歌手、クロイツァー豊子さんが、豊子さんのレッスン室を改装して50人ほどがゆったり座れるサロンにしたもの。豊子さんが弾いていたスタインウェイをはじめ楽器、調度品はそのまゝ。戦前、ナチに追われて来日、豊子さんと結婚して永住した元ベルリン音大の主任教授、レオニード・クロイツァーの写真も数多く飾られ、日本のピアノ界に多大な影響を与えたこのヨーロッパの巨匠もまたしのばれるようになっていく。

15日は豊子さん門下の篠井孝子国立音大教授があいさつ、やはり門下の駒沢とみ子さん、大島優子さんがショパンを演奏、原さんモンテベルトなどを歌った。

「皆さんの伯母への熱い思いがうれし」と言葉をつまらせた原さんは「当面は、クロイツァー豊子ゆかりの方々にご活用いただければ」と話している。【梅津時比古】



故クロイツァー豊子

### メモリアルサロン創設

故 クロイツァー豊子氏 (小・3年)

毎日新聞夕刊 2006年 (平成18年) 1月18日付より

## 山本有三記念館 (東京都三鷹市) ④

### 文学館への旅



ある土曜日、「山本有三を流む会」のメンバーに、記念館に集まってもらった。

会が活動を始めたのは2000年春のこと。代表の布川純子さん(神奈川工科大非常勤講師)が経緯を教えてください。

記念館から企画展記録への執筆を頼まれた布川さんは、子供の時以来、久しぶりに山本作品を読んだ。社会的な主張がよく読み取れる文章だと思った。仲間

間と語り合い、理解を深められたら、と大塚院生や高校講師に声をかけ、会が発足した。記念館学芸員の品川洋子さんが大学の同級生だった縁もあった。

恩師の羽鳥徹哉さん(現在ほ成蹊大名誉教授)にも背中を押された。羽鳥さんは「若いうちには、ともしれば異常さを描いた文学者にひかれるものだが、大人になって、世間に入ると、いつまでも文学青年気取りでは通

用しない。山本有三さんのような社会性があるって、倫理的で、良識を持った文学者も大切なのでは」とアドバイスした。

文化人類学や宗教社会学を専攻した会員もいる。ドイツ文学の影響を受けた山本の小説は、これらの理論による分析も、当てはまりやすいらしい。意外な方向から光をあてられ、発見も多いと布川さんは語る。

### 再評価をめざして

ように話してくれた。

「小説を読んで、いろいろなことを考えさせられる。生きることの意義、社会とどうかわればいいのか、前向きに生きるとはどういうことか。会が彼の仕事を再評価するきっかけを作ることができたらうれしい」

最後に羽鳥さんに話を聞いた。川端康成研究で知られる羽鳥さんは、以前に比べて文学館の役割を重視するようになったという。「文化的な活動をしたいと思ってる方には、地域にも多いのではないだろうか。文学館がそんな方々の拠点になれば、すばらしい」

語り合う「山本有三を流む会」のメンバーたち。右から2人が布川純子さん



文・重里 徹也  
写真・荒牧万佐行

布川純子氏 (文・52年)

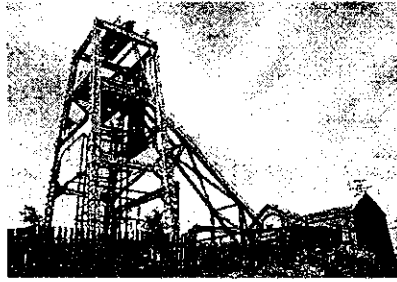
毎日新聞 2006年 (平成18年) 1月29日付より

熊谷博子氏(高・45年)

文化

一九九七年に閉山した国内最大の炭鉱、三池炭鉱の歴史を描いたドキュメンタリー映画「三池、終わらない炭鉱の物語」(四月一日公開)を監督した。元炭鉱労働者や家族など七十二人へのインタビューをもとに、記録映像を交えた作品だ。

三池炭鉱のあった福岡県大牟田市。閉山一年半後に、炭鉱の施設が残る宮原坑跡を訪れ、衝撃を受けた。秋晴れの空の下、荒涼とした地に残る鋼鉄製の構。地下に網の目のように掘



三池炭鉱の宮原坑跡に建つ構

私は思った。廃墟となった施設から、地面の下から、巨大なエネルギーを感じた。負の遺産どころではない。まさに宝物だ。それまでも戦争や麻薬をテーマにテレビや映画のドキュメンタリーを撮ってきたが、これほど即座に何かを撮りたいと思っただことはなかった。三池の歴史を網羅した

人も多い。戦後復興を牽引した一方で、戦前の囚人労働や強制連行、戦後の三池争議、炭塵爆発事故など、その生々しい歴史が成長期の影の部分とも言えるからだ。しかし、そこで必死に生きてきた無数の人々の姿はどうなるのだろうか。何より、炭鉱が残した人と物は、あまりに力強く、魅力的だった。

三池炭鉱のありつた福岡県大牟田市。閉山一年半後に、炭鉱の施設が残る宮原坑跡を訪れ、衝撃を受けた。秋晴れの空の下、荒涼とした地に残る鋼鉄製の構。地下に網の目のように掘

三池炭鉱に命をかけた

◇元労働者や家族にインタビュー、壮大な歴史を映画に◇

熊谷 博子



海面下六百メートルの採炭現場の話聞かせてくれた。気温三〇度、湿度九〇%の狭い坑内で天井が崩落するかもしれない恐怖と常に戦いながら臭い出たが、話してすっきりした。たえようもない臭

り進められた坑道から、労働者と石炭を上げ下げした昇降機だ。赤褐色の土の巻き上げ機室には坑内と通話した電話機。今にも電話が鳴り出し、昇降機が動き出してヘルメットの労働者たちが姿を現しそつと思えた。「声」を聞いた」と

映画作品が見当たらなかったことも私の背中を押した。同じ考えを持つ大牟田市の職員もおり、三年がかりの粘り強い交渉の結果、市が予算を確保し、三池炭鉱を映像で残す「こえの博物館」プロジェクトが始まった。

五年前から聞き取り関係者にインタビューを開始したのは二〇〇一年。元労働者の一人は有明海の海底に掘られた

いが忘れられないと言った。ねずみに弁当を食われた時はひたるか(ひもじい)で、仲間に食事を分けてもらったぞ。労働組合が分裂して争った六〇年の三池争議。これまで一方的に語られることが多かった。今回、会社側、両組合、主婦会などの人々が初めて公にする話を聞き、立場の違いはあれど生活の中で誰もがここまで命をかけて闘ったのかと、不思議な感動を覚えた。

六三年の炭塵爆発事故では四百五十八人が亡くなった。記憶障害などの後遺症に苦しむ人は多いが、外見からはそれと分からない。「一見して元気そうなのに」と偏見をもたれることが障害よりもつらい」と、撮影を拒んだ患者さんもいた。彼らの思遣いを映像にできればと考えた。話の内容に加え、彼らが今をどう生き、どういつ思いを抱えカメラの前にいるのか、と。

強制連行された朝鮮人の方が話の後、「嫌な思ひ出だが、話してすっきりした」といった時の表情。腫れた患者さんがいせいと息をしながら「少し休ませて」と言ったときのつらそうな顔のしわ。何気ない動作や仕草が彼らの人生、ひいては三池の歴史を物語る。

約二年間で撮った映像は百十時間。二十分から九十分の四種類に編集した。大牟田市内で初めて上映した時、会場は喝咽と涙であふれた。作品づくりは住民と行政との共同作業でもあった。炭鉱のあった北海道でも多くの共感を得ることができた。

しかし、東京での試写会は無反応に近かった。全国的には三池炭鉱を知人はすでに少ないことを実感した。さらに二年かけ、今度は自己資金で三池の壮大な歴史が分かるよう再編集した。たくましくも生き生きとした女性たちも登場する。それが今回の作品だ。

日本経済新聞 2006年(平成18年)2月21日付より

## 抄遊交

成蹊大学経 川島播磨重工業子会社の  
 済学部を卒業 デイゼルユナイテッド  
 して四十年が で常務を務めた神田昌典  
 たつが、今で 君と国立市商工会副会長  
 も財政学のゼ の喜連紘子さんのお二  
 ミの担当だった肥後和夫 人。仕事のストレスを持  
 教授を囲む集まりが続い ち込まない楽しいお酒が  
 ている。先生のお人柄の 中心で、瞬時に学生時代  
 故か、多彩な仲間 の気分に戻る。  
 が和気あいあいと 時には連れだって  
 まとまっている。 ゴルフを楽しんだ  
 肥後先生は酒が りもする。

## 恩師の教え

古川 紘 先生は先年奥様  
 を亡くされたが、  
 八十五歳の現在も  
 相変わらずお元気  
 で、好きな山登り  
 を楽しんでい  
 だろうが、お酒を飲んで 伺って驚いた。  
 紛らわせてはいけない これからも楽しい集ま  
 よ」と諭された。以来、 りが未永く続けられ、そ  
 つらいことがあっても酒 の輪の中心に先生がいつ  
 に頼って逃げたりせず までもお元気でいらっし  
 に、問題に立ち向かう姿 ゃることが、われわれの  
 勢を崩さずに来れたと感 願いである。(ふるかわ  
 謝している。 同窓会の幹事役は、石長)

古川紘一氏 (政経・40年)

日本経済新聞 2006年(平成18年)3月22日付より

三田敏雄氏 (工・44年)

日本経済新聞 2006年(平成18年)3月29日付より



入社から三十年以上、一貫して火力発電部門を歩み、三つの火力発電所長を経験した。「電気をつくる発電所は当社にとっての工場であり、現場を知ってい

る」と川口文夫社長は評価する。ただ電力業界の中核とされてきた企画・総務畑とは無縁だった。社長レースにはむしろ出遅れていた。候補として急浮上した背景には電力会社

中部電力次期社長 三田 敏雄氏(59)



を取り巻く環境の激変がある。自由化で電力会社が他の営業エリアに越境販売し、ガス会社もライバルになる時代。一従来のように調整型で据わりがよいトップではなく、自ら積極的に動くバイタリティーが必須」と説く川口社長の目に留まった。

実際、販売本部長に就任すると二十力以上の営業拠点を精力的に巡回。初めは緊張で口数少ない現場の話に乗せられ、不満や愚痴を漏らすようになった。その場で約束できない改善点を本社に持ち帰り、後日必ず答える。「ギアが不調だとF1ドライバーが言った時、素早く改善することが大事」とたとえる。

### 現場力引き出す親分肌

電力の副社長を務めた。三重県尾鷲市にある尾鷲三田火力発電所の「三田」は、発電所建設の功績で名が残ったとされる。一九六五年に実父が五十八歳で急逝した当時、高校生だった三田氏が仕事で薫陶を受けたことはなかったが、火力畑で足跡を残したあたりはやはり因縁だろうか。

(銀)



## 6人組バンド「GUNSHY」の「ボールの行方」 「マスターズ甲子園2005」テーマソングに決定

男女混成の6人組バンド「GUNSHY（ガンシャイ）」のファーストアルバム「oceanic deep」の収録曲「ボールの行方」が、阪神タイガース・星野S11が名誉会長を務める「マスターズ甲子園2005」（11月5、6日開催）のテーマソングに選ばれた。同楽曲は野球に青春をささげた、すべての球児たちへ贈る珠玉のバラード。ボーカルのSHIGEOは、かつて山梨学院大付高で、走攻守そろった1番打者として活躍した高校球児。かつて甲子園出場を目指した、あの夏の思い出を歌い上げる。また同アルバムは、タワーレコード



ウィークリーインディーズチャートで1位獲得を含む6週連続トップテン入りを果たすなど、注目を集めている。  
◆問い合わせ 03・3357・9915。  
ホームページhttp://gunshyweb.com/

# 気になった情報

中野成泰氏（高・平17年）

日刊スポーツ 2005年（平成17年）10月29日付より

## ●学園史料館に貴重な手持ち資料のご寄贈を

お手持ちの品（写真、教科書、教材、文集、賞状、各種ユニフォームなど）でご寄贈いただけるものがありましたら、ご連絡をお願いします。写真は複写の後お返しします。書き込みや汚損も歴史を物語る証しです。現存のままでご寄贈いただければと存じます。来る2012年に迎える学園創立100周年に向けて、今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

成蹊学園 学園史料館

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

（電話）0422-37-3517 （Fax）0422-37-3704

Eメール：koho@jim.seikei.ac.jp

### 予 告

#### ■千葉支部総会

・日時 平成18年7月1日（土）

午後3時～7時

（受付開始 午後2時30分）

・場所 千葉市商工会議所14階・第2ホール

（千葉中央ツインビル2号館）

千葉市中央区中央2-5-1

（JR千葉駅、京成千葉駅より徒歩11分）

・講演 講師 安田敬一様（成蹊会千葉支部

長 政経2回）千葉市観光協会会長

〈財〉千葉県青少年女性協会会長

〈財〉安田教育振興会理事長 他

・演題 「千葉はこれから……」（約60分）

・懇親会 レストラン・ピープル

午後5時30～7時 同ビル9階

・会費 10,000円

千葉支部創立55周年記念誌「配布

・事務局 電話043-2247-9541

FAX 043-2247-6947

#### ■高校卒業30周年同窓会

・日時 平成18年10月14日（土）

・場所 東京會館

#### ■高校卒業40周年同窓会

・日時 平成18年10月28日（土）

・場所 成蹊大学10号館12階ホール

#### ■工学部同窓会

今年も例年の通り十一月の櫻祭期間中の日曜日に、工学部同窓会の総会を開きます。お誘い合わせのうえにご参加いただきますようお願い申し上げます。

・日時 平成18年11月26日（日）

午後1時～3時

・場所 参考 櫻祭期間 24（金）～26（日）

・会費 2,000円

・場所 十四号館四階大会議室（予定）

・会費 2,000円

・日時 平成18年11月26日（日）

午後1時～3時

・場所 参考 櫻祭期間 24（金）～26（日）

・会費 2,000円

・場所 十四号館四階大会議室（予定）

・会費 2,000円

# 退職挨拶

## 南アフリカ共和国国立食糧研究所の思い出

理工学部 戸谷洋一郎

1980年3月31日早朝に私は初めての海外生活に不安を抱きながら、家内と二人の幼児を連れてヨハネスブルグ郊外のヤン・スマッツ国際空港に降り立った。南アフリカ大学のマニー・スプールストラ先生の出迎えを受けて、彼の自宅へ向かう道すがら目にしたコスモスの花に日本と同じ花が咲いているとホッと、これからの生活も何とかなるだろうと単純に思った。マニーさん宅での一休みもそこそこに、12年物の中古車を手に入れ、アパートを借り、1年間の生活に必要な所帯道具を買って我々の南ア生活が慌しく始まった。

二人の息子が入園したセント・ポール幼稚園に隣接する30万坪の食糧研究所は傳容を誇っていた。研究所では初めての日本人研究者が珍しいらしく、英語とアフリカーンズによる質問攻めに四苦八苦しながら、研究生活も次第に軌道に乗っていった。私が最初に手がけた研究はリン脂質の新たな微量定量法の開発であったが、3ヶ月の試行

錯誤の後に、論文がアメリカ油化学会誌に掲載される幸運に恵まれた。続いて、ひまわり油のバイオディーゼル燃料への変換に取り組み、地元紙に大々的に報道される好結果を得ることができた。

南アフリカでのこれらの経験がその後25年に及ぶ成蹊大学における研究と教育に大きな力になった。定年退職に当たって、貴重な機会を与えてくれた大学・学園に心からのお礼を申し上げます。

## 文学部と共に歩んだ私

文学部 大久保洋子

昭和四十年(1965年)の四月、文学部が開設され、北海道小樽成蹊高校から成蹊学園を我が家とすることになりました。当時、大学には政治経済学部と工学部があり男子学生が多かったのですが、新設の文学部には圧倒的に女子学生が多く、その理由もあって私が採用していただけたのかも知れません。

ともかくも一年次生だけの初年度は、オリエンテーションと親睦を兼ねて、

学部長(金子武蔵先生)と専任教員、

文学部担当の職員、学生全員が貸切バスに乗り込み、相模湖に出かけて楽しく過ごしたことを今でも思い出します。

吉祥寺駅周辺も成蹊学園・大学の施設・設備も近代的で賑やかになりました。でも、学生・教職員・OB・OGのこころの絆と自然を愛する気持ちは、変わっていないように思います。

成蹊学園の自然豊かな環境の中で、大学のそして文学部の改革と共にあった四十一年間を振り返ってみると、教育と管理・運営のハザマでひしひしと感ずるデイストレスも沢山あったはずなのに、それを喜びや希望を創出するエウストレスに転換できたから、それを可能にしてくれた全ての方々があったからだと思いがします。これからも、社会の変化を先取りしていく改善・改革が必要不可欠になってくると思われませんが、「ひとと自然が醸成する環境」を守り続け、いつまでもふるさと・我が家と思える学園・大学であって欲しいと願っています。4月からも、文学部の特別任用教授として、これまでと同様に福祉関連の指導を行うことになりました。バレーボール部の部長として課外活動支援も変わりなく行う予定です。もう少しの間は、皆様方のお知恵やお力を拝借させていただきたく、よろしくお願い致します。

## 退職によせて

中学・高校 石田明治

大学の健康学科が卒業した頃「健康」は、世の中で今程重い意味を持つていなかった。中学最初の担任の修学旅行が、大阪万博だったように、オリンピック後は、日本も右肩上がり、「体育」といえば「健康」より「スポーツ」と同義、そして、どうせやるならオリンピックや甲子園という時代だったと思う。成蹊の都会育ちで、すぐ骨を折るような生徒に接し、まず私が望んだのは、授業を通して、彼らがひとつでも好きなスポーツを見つけ、生涯楽しくそれを行う習慣を身につけてくれればということだった。以来三十九年、悪くなる一方の時代を反映してか今や健康や生涯スポーツがブームだ。一時的に熱狂するスポーツだけでなく、日常のなかのスポーツや健康が見直されるのはよい傾向だ。生徒の誰もが、若い時、身体で覚えたスポーツの楽しさを忘れずに、心身のバランスをとりつつ、ストレスの少ない人生を前向きに送ってくれたらというのが今の私の願いである。

# 早かった三十七年間

小学校 浜口一郎

私が、成蹊に來たのが、大学紛争真っ只中の、一九六九年でした。田舎から出て來た私にとって、それは、まさに驚きでした。

学生は、成蹊を西多摩の拠点にすべく、連日のごとく、シユプレヒコールやアジビラをまき、校舎を占拠し、はたまた、電信柱のような太い棒で、正門を突破すべく、体当たりを繰り返していました。その結果、正門はひしゃげ、ぶざまな姿になりました。そして、後に残ったのは、ゴミです。そのゴミを片付けたのは、成蹊の大学生です。先輩の先生方が言っていたのは、「やつぱり、信頼できるのは、成蹊の大学生だよ。」と言う一言でした。現在では、想像も付かないような事ですが、それが、私の思い出のひとつです。

もう一つの思い出は、あるとき、「ホイット・ストーン・ブリッジの計算は、どのようにやったらよいのですか。」という質問を、小学生がもって來たことです。私は、随分難しいことをやっているなと思いつつ、「こういう風にするといいんだよ。」と言って、説明しました。何年か経って、その質問をもって來た子に会いました。

その彼は、現在、家庭音響の研究をしていると言うことでした。その子どもにとつては、一生を左右する出来事だったのです。先生の一言が、その人の人生を決定してしまうこともあるのだと思いました。

後しばらくは、後輩の指導に、力を注ぎたいと思つています。そんな機会を与えられていることに、心より感謝し、学園の更なる発展をお祈りして、雑感の筆をおきます。

## 学生に感謝

職員 関根弘司

私、永い間庶務畑と管財畑の仕事をしていたので、学生との出会いがなかったのですが、平成11年6月念願叶い、財務部管財課から学生部学生生活課へ異動になり、学生との付き合いが始まりました。

この年、本学が当番校で、10月に開催される第50回四大学運動競技大会と第50回を記念し、常陸宮様ご臨席を仰ぎ行われる祝賀行事の準備に、就任早々から多忙を極めました。学生支援が私たちの仕事ですので、活動の主役である体育会本部担当役員と連絡を密にしながら大会が成功裡に終るよう学生には無理難題を押し付けた感がありました。それぞれの役割分担を確認

し合い、そのお陰で、無事務めを果すことができました。

また、大学行事に5月の学内陸上競技大会、6月のレガッタ大会、11月の大学祭(糧祭)もあり、各々本部担当役員の努力がなければ成果が得られない中、学生は皆明るく誠実に運営に携わり、責任を果してくれました。

平成15年6月企画運営部入試課へ異動するまでの4年間、たくさんのお学生に支えられ楽しく仕事ができましたこと、心から感謝申し上げます。

職員 涌井秀治

成蹊学園には1942年から工学部電気工学科大学助手としてお世話になり、その後2000年4月に学園の方へ転じ学園情報センターにおいて全学的なネットワーク環境の整備を掌ることとなりました。センターの最初のころは頓珍漢なことをやっていたのではないかと今でも冷や汗ものであります。ただ業務遂行の基本としていたのはユーザの利便性の向上です。ここでいうユーザとは成蹊で学ばれている学生、生徒、児童の皆さんであり、また教職員の方々であります。ユーザの方がいかに快適に負担なくIT環境を享受できるかをいつも念頭においてきました。

しかし各論に入りますといろいろと問題がありますので十分な成果を上げたとはいえませんが、少なくとも学園情報センターの意識にはそのようなポリシーが定着してきたのではないかと考えています。今後このポリシーの実を結ばせてさらに向上した成蹊学園の情報教育環境を構築されんことを期待しております。

最後に長い間お世話になりました皆様に感謝を申し上げ、成蹊学園の更なる発展を願って筆をおきます。



# 成蹊会学術教育助成事業 研究助成報告の要旨

## カウントデータモデルの応用研究

経済学部 藤岡 澄子

この研究の目的は、Count data models for panel dataの推定方法研究と日本の特許データ・企業レベルR&D（研究開発）支出額データを用いた応用分析を行うことである。ここでは日本企業の特許データを用いて、企業の研究開発の生産性を推計することを目的にしている。

平易に述べると、企業がR&Dにたくさんお金をつき込めばそれだけ新たな発明（特許）が増えるかどうかを調べた。また、新たな発明というのは長い時間を経て結果することも十分考えられる。企業の過去のR&D支出が時間を経るとどのような影響を与えるかも調べた。結果として、過去のR&D支出は現在の発明成果に有意に影響を与えることが分かった。

研究成果を8月にシンガポールで開催された国際学会で報告した。学会報告で興味深かったのは、質疑応答の時間に投げかけられた質問の大半が日本の特許制度についてであったことだ。国による特許制度の違いが、R&Dに対する企業のインセンティブに与える影響も異なるからである。

## 19世紀オーストリア演劇作品における社会的要因の考察

法学部 里村 和秋

ロック的な伝統を残すオーストリアにおいて、特に演劇は重要なジャンルであった。民衆劇などにおいてはイタリアのコメディア・デラルテの影響が強く、ウィーンでの民衆的な笑劇Pöseは、古く17世紀後半にまで遡る。当時は複雑な喜劇を演じるブルチネツラという人形芝居なども人気を博し、やがて18世紀に入るとケルンテン門

劇場で活躍したシュトラニツキという喜劇役者が新たな演劇分野を開拓し、彼はハンスヴルスト役で人気を集めたが、その役は、コメディア・デラルテのアルレッキーノのオーストリア版とも言われるべき道化役で、ザルツブルク生まれの精肉業者という設定で登場し、ウィーン人に笑われる田舎者という筋書きで定着した。この道化の役柄がイタリアからオーストリアに移入される際に、大食漢、即物的粗暴、目立ちたがり屋、臆病者というオーストリアの社会的、地域な性格が付与された。この伝統につながるのがジングシュピールの道化役で、例えばシカネーダーの生み出した『魔笛』のパパゲーノもこの系譜に連なる。こうした役柄は、他の都市のジングシュピールにはあまり見られないウィーンの社会構造を反映した特徴をもつ。

戯曲がそれまでの性格に加え、社会的な要素を強く意識するようになるのは、啓蒙専制君主のヨーゼフ二世の時代以降、特にウィーン体制下においてである。当時はゾンネンフェルスなどによる体制側の検閲も厳しく、社会的な問題を直接作品に

織り込むにはかなりの制限があった。例えばウィーン特有の『魔法劇』は、魔法、神、妖精などのモチーフが交錯する純粋な笑劇が展開された。その代表的な劇作家としてポイエルレ、ライムント、ネストロイの名を挙げられるが、この演劇の客層は、教養層も無教養層の区別はなく、また貴族までも含まれたが、主な支持層はウィーン方言を話す一般大衆であった。この一般大衆がウィーン体制下において置かれていた反動的な社会状況、また産業革命の進行に伴う社会構造の変化、あるいは1848年の3月の革命に伴う社会不安などが、戯曲の脚本あるいは上演スタイルに大きな影響を与えている。例えば多くのパロディ作品を書いたネストロイは、社会体制への風刺を特徴とするが、彼のパロディや風刺の戦略は、時代批判を行う場合、それを民主的ではないと正面から否定するのではなく、言語秩序の内部に潜り込んでその秩序を利用しながら、言語秩序を揺さぶることによって社会秩序を批判する政治的メッセージを発信するというものであった。魔法劇や改心劇という既存の演劇

ジャンルを踏襲しながら、その秩序のもと潜在的な構造を解析し、従来とは全く異なる価値観を提示して現実を批判する手法、その彼の戦略はウィーン体制下での最も有効なものであり、大衆の潜在的な社会的欲求を満たすものとなった。

19世紀のオーストリアの演劇においては、文学、哲学、心理学、美術、音楽などの多様な分野での学際的な相互関係を背景として、従来の古典的な演劇作品においては見られなかったテーマやモチーフが扱われるようになる。例えばアルトゥール・シニツラーは、当時の女性が置かれていた社会的状況を、フロイトの精神分析を思わせる精緻な心理分析を作品に導入しながら描き、またホフマンスタールは、エルンスト・マツハの感覚主義的な哲学を背景として耽美的な韻文劇を書きながらも、現実から遊離した作品世界と社会との融合を求め、発話や意志決定の生成過程を緻密に描くことによって戯曲をより洗練されたものに作り上げようとした。そして演劇においても印象主義的手法が優位になるが、しかし印象主義に内在する理性

への不信は、現実認識に対して強烈な変更を迫り、社会的な要素を理性によって拒絶や否定するという極端な方向に振れるのではなく、「妥協」(Ausgleich) というハブスブルクの社会的伝統を背景として、印象主義と美証的現実主義が相補的に奇妙に機能するという現象が生じることになった。

## 学習者コーパスを利用した生徒の使用語彙の分析と考察

中学・高校 菅野 豊

2005年度の授業目標は、『英語を苦手としている生徒たち』を対象としていたので、「音読を通して英文構造を理解させる。」ことでした。つまり音読をたくさんすることで、文字と音とを一致させ、英語独特の強弱のリズムを覚え、語と語のつながり(共時性)を知り、意味のまとまり(チャンク)を意識させ、一つの文がどのような意味を持つていくかを理解させることです。単語の認識ができないので英語が読めないのです。授業の中や家庭での課題を通して、示したモデルのように

なるまで何度も音読し、意味を理解した上でさらに音読や黙読をし、最終的には学習した文章の書き取り文構造が定着しているかどうかを確認しました。

その作品をコーパスとしてまとめ、よくある間違えや定着しない表現を分析しました。チャンクを認識するときに、英語は日本語とは大きく異なった文体系を作ります。そのチャンクの中

の語と語の連結やチャンク同士の意味的関連性がうまく定着しないことがわかりました。音声的には弱音になる、多くは機能語と言われる語の使い方でした。新しい章に入るときには必ず先に新出語彙を学習し、文中で特に覚えて欲しいと考える語彙の使い方(慣用語や表現法)などは、その文のみを繰り返し音読し暗誦させるなどして対応してきましたが、強音と強音の間に出てくる弱音は、英文のリズムを保つために語の本来の音よりルースになり、複数の弱音同士が連結して聞こえ、個々を認識することが難しくなります。

例えば上手に読めても、連結した一つの音と捉えてしまい、それを正確に表記するまでにはいたりませんでした。

コーパスを使用することで、担当生徒たちがより苦労している部分が浮き彫りにはなりましたが、提示や定着のさせ方をもっと工夫できたのではないかと思います。新年度はさらに工夫し、効果的な方法を探していこうと思います。成蹊会の学術教育研究助成金を頂けたことを大変感謝しています。

## 英語基本語彙集(成蹊中学高等学校対象)の作成

中学・高校 四方 雅之

英語基本語彙の選定は1930年代から盛んに行われてきた。H. E. Palmer, M. West, E. L. Thorndikeなどの業績が一般に有名である。ただし、いずれも現代の日本の中等学校の現状に適したものではない。まして、成蹊中学高等学校の現状に適した英語基本語彙集となると皆無の状態である。

本研究では、英語基本語彙集(成蹊中学高等学校対象)の作成を目的とした。方法としては、本研究で使用の教材類をコンピュータを用いテキスト化し、データベースを作った。さらに、

日本の英語教育に多大な影響を与えた語彙集(C. K. OgdenのBasic English (1929)の詞語およびA. S. Hornbyが中心となつて編んだThe I. R. E. T Standard English Vocabulary (The 1000-Word Radar) (1934)と比較検討しながら、語の取捨選択を行った。成蹊中学校の入門期、それも最も初期の段階では、H. E. Palmerのいう「文脈教授」に先立ち、「実演教授」を重視する必要がある。語の選定基準も、教室での実演に必要な語が選定された。一方、成蹊高等学校での上級学年になれば、文字言語による「文脈教授」が重要になる。語の選定基準もそれに従うことになり、その整理には手間取った。なお、今後の研究の課題としては以下のとおりとなる。

- (1) 「実物教授」に適する「語」と、「文脈教授」に適する「語」を分類すること。
- (2) それぞれの「語」を、目標とする「文型・文法事項」などの言語材料とともに整理し、指導法を明示すること。

## 音楽科教育におけるDTMの効果的な使用方法

中学・高校 高倉 守

1. DTM(デスクトップミュージック)活用の目的

DTMは、音符さえ入力すれば音が鳴るので、楽器ができなくても演奏した気分を味わうことができる。そのことは、創作の補助的な役割としても利用価値があると思う。さらに、印刷された楽譜を見るだけよりは、自分で入力することで音符や記号が分かってくるので、楽典の面においてもDTMを活用する価値は大きいと思われる。

また、生徒たちはコンピュータを個人或いは学校の授業で使ってきているが、音楽では初めてのようである。音楽嫌いな生徒にとつて、DTMが興味の入口になってくれるだろう。

2. DTMの活用方法
- ・和音の練習
- 8小節のメロディ(一部形式)とそれに合った和音を作り、DTMを入力する。
- ・アレンジ
- 既成の曲にアレンジを加えながらDTMを入力する。

### ・創作

コード、形式、いろいろな音階など、与えられた条件に基づいてメロディを創作する。

また、いろいろな音色を選んでみるなど、DTMの特長を生かした活動にする。

### 3. DTM活用後の生徒様子

音楽科でコンピュータを使用するのはほとんど初めてなので、興味深く使っている。高校での音楽は選択科目なので音楽が好きな生徒が集まっているのだが、さらに意欲が出てきているようだ。ただし、コンピュータに苦手意識がある生徒は、少し苦痛なようである。

### 4. DTM活用を通して

主旋律に対するコード付けから、ベース・ラインを工夫する面白さや可能性の追及まで、DTMの力を借りて実践することができた。作った曲をピアノなどで演奏しようとする、多大なる苦労と技術が必要になるのだが、DTMを活用することで、純粋に作曲・編曲の楽しさを味わわせることができた。ノートや黒板で学ぶよりも、コンピュータを活用する方が意欲的になり理解が早い。友達と比べて自信をなくす生徒もいるが、比べ

ること自体は意欲的になる良い材料となっている。

今後は、グループ或いは個人のデータを交換しながら一つの曲を創作する活動をさせたい。協力し合うことは、生徒同士のレベルの向上につながる。また、一人ひとりの責任感も出る。そして、最終的にはこのような活動からフィードバックして、個人で一つの曲を作る活動へと広げていきたい。

### 「映像と音声を用いたの文法・構文の指導」

中学・高校 丹澤 祥晃

私は言語習得において最も重要なものは映像と音声であると確信している。昨年度に引き続き上のテーマで研究および実践を続けた。今年度は仮定法表現に関して収集した教材を高校2年生の総合英語の授業で実践した。教材にはEric Claptonの名曲「Tears in Heaven」との歌にまつわる実話を用いた。副教材として映画「サイモン・バッチ」を使用、毎回5〜10分程度鑑賞し、その中で仮定法(Second Conditional)表現が

どのように使用されるかを学習した。この映画は「You would understand if you were me.」のようないわゆる英語のテキストに載っているような平凡なものから、小学生のせりふで「Could he touch your breast if he paid you?」など高校生でも楽しめるようなものまで仮定法表現が豊富である。我々はオーセンティシティにこだわることで時に難解な教材を使用してしまいがちであるが、比較的だれにでも親しめる映画などを使用することで、その問題は多少なりとも解決できるのではなからうか。今後も研究と実践を続けていく所存である。

### 福島県相馬地域の山上変成岩についての岩石学的研究

中学・高校 宮下 敦

筆者は、日本列島形成史を編むため、日本の変成岩類についての系統的な調査研究を行っている。今回の課題研究では、阿武隈東縁帯に分布する変成岩類のうち、最も高い変成度を示す山上変成岩類について、地質調

査と岩石学的な検討を行った。

この変成岩類は、従来から角閃石について300 Ma程度の年代が得られており、西南日本の古生代変成岩類との対比の上で重要であると考えられる。変成岩類の岩相分布については、地質調査総合センター(旧・通産省地質調査所)が、相馬中村図幅(柳沢ほか、1996)を発表しているが、系統的な変成岩の分析がなされていない。今回、改めて地質調査を行い、変成鉱物の組成について詳細な分析を行った結果、

①山上変成岩類は、角閃岩相高温部の高い温度条件を示す。

②緑色岩中の角閃石の組成はパ

ロフ閃石であり、泥質岩中のザ

クロ石のパイロロブ端成分は最

大17%、白雲母中のパラゴナイ

ト端成分は最大20%に達し、高

圧型変成岩類の特徴を示す。

③変成岩の分布は、径数km程

度で断層に境された5つ程度の

ユニットに分けられ、それぞれ

のユニットの変成度は少しずつ

異なっていることが分かった。

これらの成果は、2005年度

日本地質学会秋季大会でポスター発表した。

現在、日本列島の他の古生代

変成帯との対比を可能にするた

め、変成鉱物について、アルゴニーアルゴン法による放射年代を分析中である。また、砂質岩中のジルコンについて、顕微ラマン法による包有物の分析を、雲母についてルビジウム・ストロンチウム法による同位体年代測定の前準備を行っている。

柳沢幸夫・山元孝広・坂野靖行・田沢純一・吉岡敏和・久保和也・滝沢文教(1996) 相馬中村地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、地質調査所、144p。

### ライティング活動のプロセス研究(高校英語Iの教科書を利用して)

中学・高校 山戸 眞子

文部科学省が「英語が使える日本人の育成」の指針を出し、英語教育界からも発信型の英語学習を推進することが求められている。しかし高校生の教科書に出てくるライティング活動では、従来型の和文英訳がよく見られるが、自分の意見を述べたり、言葉をパラフレイズ(言い換え)して説明したり、まとめ

ったデイスコースを書かせる活動自体がまだ少ない。今年度は高校1年の「英語」の授業を担当し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の総合的な学習を指導することになった。その中で「話した」ことを「書く」、「聞いた」ことを「書く」、など4技能を関連づけて指導しながら、いろいろなパターンのライティングの試みをさせてもらった。ジャンルによるライティングの方法が異なるので、物語文ではサマリーを書く活動をし、説明文では、文の構成パターンのルール、トピックセンテンスや文のつながりの言葉などを説明しながらライティングさせてみた。またフィードバックの方法も、優秀な作品を紹介したり、お互いに書いたものを読みピアコレクション（相互添削）する活動を取り入れたりした。

今年度研究助成を頂き、宿泊のワークショップへ参加して第2言語習得理論を学習し、またライティングの実践研究会へ参加する機会を得ることができました。今年度実践した活動データは記録保存し、来年度以降さらに改善していきたいと思えます。研究をサポートして頂き、

成蹊会の研究助成には大変感謝しております。ありがとうございます。

### 「やさしい心」を育むための教育の追求

小学校 岡崎 忠彦

中村春二は四十七年の生涯の中で、自己の求め続ける道をどこまでも歩き続けたすばらしい教育者です。その先生の内面に少しでも触れ、心の中に内在している「やさしい心」を少しでも追求してみたいと思ったのです。

みちのべの しいの 一もとはかげなお まばらなれども しいのひと本

この歌に初めて出会ったとき強く心打たれました。歌の解釈（道端にあつた一本の椎の若木に心ひかれ、この椎の若木も、今は葉の陰に隠れるような小さな木だが、やがて大木となり、世のため人のために役立つことだろう。私のあずかっている子弟と同じようにすくすく育っていくだろう。先が楽しみだ。）のさらに奥に潜んでいる先生の「やさしい心」の内面に触れてみたいと思ったのです。先生は

この歌から「周りをしつかり見つめるよ。どんな小さな変化や事象をも見逃さない。心の力を育てていけよ！」そう私たちに語りかけているように思ったのです。生涯「人間教育」一人間の「内面的主体性」の陶冶を求め続けた春二の生き方。「志」半ばにして病に伏せ、自由にならない自分の体と大きく変わった学園組織の中の苦悩と、最後まで戦い続けていたのです。

療養中の湘南の地で歌った『湘南即興』の中に「やさしい心」という詩があります。病をおして参加した理事会の帰り、療養していた返子の停車場に降り立ったとき、雨の中を長い間自分を待っていてくれたお婆さん。春二はお婆さんの言葉と行動と笑顔から「心のやさしさ」を学んだのです。疲れ果て自由にならない自分の体、思い通り進まなくなってきた学園経営、そんな中で人間として必要な本当の「やさしさ」「あたたかさ」を宿のお婆さんから感じたのではないのでしょうか。肉体や精神の鍛錬に卓越した春二の心にもう一つの光明が……。先生はその詩の中でこう表現しています。「……何にも知らぬを婆さ

んだけれど／こんなやさしい純な心をもっている。／社会わ人と人の集まりである以上、／やさしい心は機械の油、／精巧な機械が発明されるやうに、／精巧な物知り人が多くわなつたろうが、／やさしい心の油がだんだんへって、／車わきしり炎は燃えて、／互いにもだえくるしんでいる。」と。

我武者羅に我が信するべき道を歩み続けてきた春二の生涯。たくさんの人との出会い。春二は「やさしい心は機械の油」という言葉の中で、大切なキーワードを私たちに語りかけているように思えてなりません。その語りかける思いは「たしかなあしぶみ」の詩に繋がっているように思えます。

### 算数の発展的な学習についての研究

小学校 関根 祐孝

現状の算数の学習指導を再点検してみると、少なくともおぼえ、多くのものをつくりだしていく本来の学習のあり方とは、遠ざかっている点が多々伺えます。さらに、これまでの教育ではできる子、理解の早い子、進んだ

子への手だてをおろそかにしていた面も強かったように思えます。発展的な学習に着目したのもこの点にあり、実際世に出された発展的な学習の資料を見て考察してみると、大抵が削除された旧指導内容の復活、あるいは教科書に少し手を加えた程度の練習問題と言ってよいほどのものが多く、問題解決能力の育成ということを考えたとき、果たしてこの程度のもので満足しよいか疑問がありました。

そこで、問題解決能力の育成ということを視野に入れて発展的な学習のあり方を探るべく、発展的な学習の段階、指導のための教材の開発や見直し、指導内容、方法などについて、世に出された文献やパズルなどの教材など様々な資料を参考にしながらの研究を行いました。その結果、次のようなことが成果としてあげられ、課題として残りました。

まず、成果としては、文献や教材の考察を通して、削除された内容の復活とは異なった発展教材を見つけたり、あるいは考え出したりすることが出来ました。また、「① posing ② formulating ③ generating」の



3段階を考えた問題作りをする  
ことの大切さを知ることが出来、  
さらにコース別学習での発展教  
材の重要性を再認識することが  
出来ました。

課題としては、①全単元にわ  
たる進んでいる子向きの発展教  
材の開発、②コース別(課題選  
択型)学習やコースガイダンス  
とのつながり、③発展問題と④  
つのストラテジー、⑤パターン  
を認めること⑥逆向きにやる  
こと⑦推測し、テストする  
こと⑧シミュレーションまた  
は実験すること⑨より簡単な  
場合へ戻してからやること⑩  
すべてを列挙すること⑪論理  
的に演繹すること⑫資料をグ  
ラフ、式、表、図などに表すこ  
と、との関連、⑬支援の仕方、  
⑭コース別での評価方法の5点  
があげられます。これらについ  
ては今後も引き続き研究してい  
こうと思っています。

## 視聴覚とパソコンを 利用した副教材(6 年歴史)作りと、そ の利用法をさぐる

小学校 佐藤 正信  
コンピュータが教育現場に溶

け込み長い年月が経ちます。コ  
ンピュータの導入に異論を投げ  
かけていた先生方も、今の時代  
ではあまり見かけず抵抗なく扱  
うようになってきました。成蹊  
小学校でも教職員にパソコンが  
支給されてからは、教材プリン  
トの作成、テストの作成、事務  
処理、学級通信等の作成、メー  
ルなど便利に活用し、今では当  
たり前のようにパソコンを使い  
こなすようになりました。

しかし、これを教室で授業に  
活用しているか?と問われます  
と、これは別問題。つまり、コ  
ンピュータは事務処理用として  
使うが、授業は別なのです。使  
われてもインターネットによる  
調べ学習が一番多いのです。そ  
の要因は、やはり、今回の教科  
書改訂でコンピュータが有効な  
学習の道具として紹介され、イ  
ンターネットの有用性が以前に  
も増して述べられるようになって  
きたからでした。しかし、インタ  
ーネットによる調査活動だけが  
コンピュータの持つ利便性では  
ありません。

今回、私が研究テーマとして  
これらを取り上げたのも、大が  
かりな事をせず、気楽に教材の  
一つとしてコンピュータが使え

ないものかと考え、模索したの  
です。

実は私もコンピュータは素人  
なので、あくまでシンブル。尚  
かつ、間違えのない方法を探っ  
た結果、私たちが成績処理など  
で使う、Officeのexcelを使っ  
て、年表作りするのが手軽で失  
敗の少ないことを突き止めまし  
た。それに付随する資料や文獻  
地図、写真などをハイパーリン  
ク機能を使って簡単に張り付け  
られ、副教材作りが簡単に出来  
るのでした。

今回のハイパーリンク機能を  
使った副教材作りは後付も容  
易にできるので、これをベース  
にし、使用する教員によってさ  
らにリンク項目を増やし、より  
詳細な教材作りができるように  
していけるのが、一番の利点で  
はないかと考えます。

## 教室での読書をすす める手法を探る

小学校 西岡 房子

児童の読書離れに危機感をも  
つ大人は多いが、近年少しずつ  
改善されてきている。毎年全国  
学校図書館協議会と毎日新聞社  
から発表される「子ども読書調

査」によると、小学生は一月に  
七〜八冊ぐらいいは読んでいると  
いう。しかし、中身については  
いささか気になる。

成蹊小学校には、平成十三年  
度まで図書館学習という専科教  
員による読書指導の時間があっ  
たが、こみち科に統合され、担  
任やこみち専科が指導するよう  
になった。しかし、担任が行う  
読書指導には限界があると考え  
ているので、担任による読書指  
導のよりよい方法をさぐってみ  
たいと考え、研究を進めてきた。  
教室には、図書館から学級文  
庫として配当された本が数冊あ  
る。その学級文庫に何冊かの本  
を加え、クラスの人員二七名全  
員にいきわたるようにし、必ず  
読まなければならない必読書と  
して、読むように指導した。

子どもが好んで選ぶ本と大人  
が読んでほしいと選ぶ本には、  
多少のずれがあるように思うが、  
本当の読書の楽しさがわかるに  
は、数多くの本を読むことも必  
要なのである。また、長い本で  
もがまんして読み進めていくと  
楽しさに近づくということを実  
感させ、それまでのがまんも必  
要なことだと気づかせたいと思  
い進めた。それは、読み終わっ

た本の主題や著者が伝えたいこ  
とがわかるということでもある  
と思う。だから、数多くの本を  
読んでいかなければならないと  
気づいてほしい。

さて、本を読んだ後で、あら  
すじや感想を短くノートにまと  
めたが、これを使い、みんなで  
楽しむという活動につながった。  
全員が同じ本を読み、感じた共  
通認識があるので、ほとんどの  
児童が楽しむことができた。こ  
れを「読書でクイズ」と名づけ  
た。子どもたちには大人気で、  
精読につながったように思う。  
身近に本があり、同じ読書経  
験があることで可能なことであ  
ったと思う。しかし、読書をす  
めるには、周りの働きかけが  
いかに大事なことであるか、再  
確認できたことである。



## ★成蹊会事務局からのお知らせ★

### ●住所・勤務先などの変更は必ず成蹊会事務局にご連絡を

転居先不明や記載の宛て先人の不明による返送が増えています。

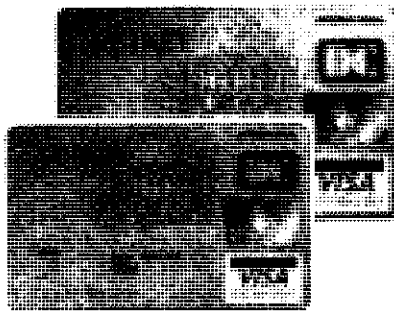
改姓、転居や市町村合併、転勤等でお届けの氏名、住所、〒番号、電話番号、勤務先（所属・役職・電話番号）に修正・変更・追加の必要がある場合は、必ず成蹊会事務局まで、総会出欠回答ハガキの「名簿資料届」、官製ハガキ、FAX、成蹊会ホームページ上の「住所勤務先変更届」でお知らせ下さい。その際には＜会員番号＞の記載をお忘れなく！（電話でのご連絡はご遠慮願います。）

### ●成蹊会会員及び学園教職員以外の方の成蹊会会員名簿の所持は禁止させていただきます。

会員名簿記載の個人情報保護のため、名簿の取扱には十分にご留意いただきたく願います。

### ●旧名簿の処分も慎重にお願いいたします。

旧名簿が不要になった場合もお手数ですが処分は慎重（例えば破棄・焼却）にお願いいたします。破棄・焼却が困難な場合や名簿は一家で一冊でよい等の場合には、成蹊会で処分・活用いたしますので、成蹊会宛ご返送ください。（着払いで結構です）



### —成蹊会カードが5月よりリニューアルします—

学園教職員・学生・学園在校生ご父母もお申し込みいただけます。

◎カードフェイスを一新しました。

◎発行対象を拡大。（学園教職員・学生・学園在校生ご父母）

◎サービスはそのまま、年会費が更に安くなります。

例) 一般カード 1,312円 → 787円 / ゴールドカード 10,500円 → 5,250円

※なお、新たな「学生カード」の年会費は無料です。

◎ 大学図書館（新情報図書館も）入館・開架閲覧ができます。

◎ 10月までお申し込みの方に、カード入会特典として下記ポイントをプレゼントいたします。

①一般カード・学生カードをお申込みの場合 DCハッピープレゼントポイント 400ポイント

②ゴールドカードをお申込みの場合 DCハッピープレゼントポイント 600ポイント

※ カード利用額の一部が成蹊会に還元され、母校支援に貢献します。

申込み・お問い合わせ

成蹊会 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766

# 成蹊会の母校への後援事業にご協力を

本会は成蹊学園創立(1912年)以来の卒業生団体であり、昭和30年社団(公益)法人に組織を変更して、従来の親睦団体活動のほかに下記のとおり幾多の有意義な事業を行っております。何卒ご後援のほどお願い申し上げます。

- 1. 育英奨学事業** (基金22,105万円・17年度実施額1,440万円)  
昭和31年以降、育英奨学制度を設け、主として成蹊大学生・高校生を対象に毎年奨学金を貸与しております。社会の要請に対応したより良い奨学金制度を目指しながら、この事業の拡充に努めております。(貸与額累計28,827万円・貸与者合計669名)
- 2. 学術・教育助成事業** (基金5,537万円・17年度実施額340万円)  
昭和49年以降、学術・教育助成制度を設け、小学・中学・高校・大学の教員に研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しております。また、平成2年度より成蹊会学術賞を設け、学術研究上顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に対して賞状と副賞(賞金)を贈呈しております。(助成額累計7,835万円・281件)
- 3. 国際交流事業** (基金2,869万円・17年度実施額90万円)  
昭和50年以降、国際交流基金を設け、成蹊高校と米国・濠州の高校との交換留学生交流諸費に充てております。日本の国際的地位の向上とともに、真に国際的に通用する人物の育成に寄与したいと考えております。(助成額累計1,845万円)
- 4. スポーツ振興事業** (基金2,878万円・17年度実施額557万円)  
平成2年度より新たにスポーツ振興基金を設け、小学・中学・高校にスポーツ振興助成金を贈呈、成蹊学園のスポーツ団体及び個人に後援金を助成しております。この奨励金により母校のスポーツ興隆を期待しております。(助成額累計1,881万円)
- 5. 文化振興事業** (基金4,389万円・17年度実施額486万円)  
平成12年度に旧「谷岡基金」の全額を移して新たに文化振興基金を設け、「成蹊桜祭」及び成蹊学園の文化団体に後援金を助成しております。その他、社会的に有益な文化事業を支援するため、必要な助成を行っております。(助成額累計2,749万円)

上記の各事業はご寄付金及び各基金から生じる運用収益金により賄われております。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のうちいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)指定いただければ当該基金に繰入れさせていただきます。
- 本件につきましてのおたずねは成蹊会で承ります。

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244

社団法人 成蹊会

# 平成17年度 寄付金芳名録

※ ご寄付金を寄せられた個人・団体・法人の皆様には厚く御礼申し上げます。 ※  
(敬称略)

**寄付金総額 6,007,345円** (平成17年4月1日～18年3月31日)

◇基金別寄付金明細 (372名・1団体・1法人)

**育英奨学基金 280,000円 (14名)**

10万円 山本 孝一(経 19)  
 3万円 服部 斐子(女 20)  
 2万円 跡部 清(高 31) 中村 泉(経 10) 渡辺 和雄(旧高24)  
 1万円 池田 容伸(工 21) 石黒 俊彦(高 29) 今給黎信子(高 10) 大友 直史(法 9)  
 笠原 敏弘(文 24) 釜谷 徹(政経18) 小林 慎也(経 18) 清水 英紀(政 8)  
 谷原 裕美(文 31)

**学術・教育助成基金 190,000円 (7名)**

10万円 高木 桂三(プ 9)  
 3万円 小林 茂(女 20)  
 2万円 飯口 威一(工 18)  
 1万円 今給黎篤弘(高 8) 清水 英紀(政 8) 田宮 貞和(高 4) 矢野 岳(旧高24)

**国際交流基金 90,000円 (8名)**

2万円 矢野 岳(旧高24)  
 1万円 小島 匠(工 15) 小林 慎也(経 18) 斎藤 正和(法 8) 清水 英紀(政 8)  
 鈴木 直志(工 35) 永井 正保(高 21) 中村 喜典(プ 3)

**スポーツ振興基金 3,935,000円 (339名・3団体)**

384万5千円 (高校ラグビー部全国大会出場に係る寄付金) 334名・3団体  
 5万円 飯田又右衛門(政 15)  
 1万円 落合 和雄(旧高13) 清水 英紀(政 8) 高畠頼一郎(旧高20) 松浦 隆三(政 16)

**文化振興基金 10,000円 (1名)**

1万円 清水 英紀(政 8)

**一般寄付 1,502,345円 (個人3名・1法人・8団体)**

島尾 和男(旧高19) 旧高80周年	400,000円
旧制高等学校同窓会	287,000円
大学卒業30周年同窓会	170,426円
大学卒業20周年同窓会	146,000円
故古屋隆一郎(高 26)	100,000円
一世印刷(株)	100,000円
高校卒業40周年同窓会	100,000円
たつみ会	100,000円
小林 慎也(経 18)	30,000円
高校卒業50周年記念同窓会	28,919円
小学校昭和34年卒業記念同窓会	20,000円
成蹊小学校50回卒業生 (亀村・清水晴・堀松・徳永学級)	20,000円

# 成蹊会報告

〔自平成17年11月1日  
至平成18年4月30日〕

## 一、会議

### ■理事会

第162回(18年1月24日)

- (1) 特別委員会委員(補充) 選任の件
- (2) 成蹊学園評議員の選任の件
- (3) 成蹊学園理事候補者選任の件
- (4) 平成18年度事業計画及び予算(案) 審議の件
- (5) 成蹊会カードのリニューアル(案) の件
- (6) その他

① 成蹊高等学校ラグビー部全国大会出場に伴う寄付依頼について  
第163回(18・3・14)

- (1) 平成18年度事業計画及び予算(案) 承認の件
- (2) 法科大学院同窓会の設立に関する件
- (3) 第46回成蹊会謝恩顕彰の実施(案) 承認の件
- (4) 第51回成蹊会通常総会日程(案) 承認の件
- (5) その他

① 成蹊会会員数の取り扱い(修正について)  
■特別委員会等

- 総務企画委員会(17・11・2/12・14/18・1・1・30/3・2/4・13)  
70周年委員会(17・11・10/18・1・1・27/3・22/4・27)  
桜祭委員会(17・12・1/18・1・1・26/2・23/3・11)  
Web小委員会(17・12・2/18・3・8)  
広報委員会(17・12・17)  
育英奨学委員会(17・12・20/18・4・21)

### ■同窓会

- 推薦委員会(18・1・16)  
スポーツ振興委員会(18・1・23)  
学術・教育助成委員会(18・4・21)

経済学部同窓会委員会(17・11・1/18・1・1・30/3・6)

法学部同窓会委員会(17・11・16/18・3・15)

工学部同窓会委員会(17・11・20/18・2・7)

政治経済学部同窓会委員会(17・11・29)

小学校同窓会委員会(17・12・6)

高校同窓会委員会(18・2・24)

文学部同窓会委員会(18・2・28)

旧制高校同窓会委員会(18・3・17)

### ■支部会・地域成蹊会

長野成蹊会(17・11・6) 2・山口成蹊会(17・11・6)

秋田成蹊会(17・11・18) 4・三重成蹊会(17・11・19)

長崎成蹊会(17・11・26) 6・岐阜成蹊会(17・11・26)

愛媛成蹊会(17・11・26) 8・渋谷成蹊会(18・2・10)

北海道支部「枯林忌の集い」(18・2・21)

兵庫成蹊会(18・4・8)

## 二、催事

83回枯林忌(18・2・18)

第29回成蹊桜祭(18・4・2)

## 三、その他

文部科学省実地検査(17・11・22)

育英奨学返還説明会(17・12・16)

成蹊会誌102号発行(18・1・1)

## 1. 育英奨学事業 1,440万円 (基金 22,105万円)

○育英奨学貸与金 1,440万円 (大学学部生 21名・大学院生 3名)

育英奨学金制度を設け、昭和 31 年以降、主として成蹊大学生・高校生を対象に、毎年奨学金を貸与しています。平成 17 年度までの貸与総額は 28,827 万円(669 名)、返済総額は 19,185 万円です。〈現在の貸与金額は、大学生は年額 60 万円/名、高校生は年額 48 万円/名〉

## 2. 学術・教育助成事業 340万円 (基金 5,537万円)

○学術・教育研究助成金 250万円 ○教育振興助成金 40万円 ○成蹊会学術賞 50万円

学術・教育研究助成制度を設け、昭和 49 年以降、成蹊学園に勤務する小学・中学・高校・大学の教員を対象に毎年教育研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しています。平成 17 年度までの贈呈総額は 7,835 万円(281 件)です。また、成蹊会学術表彰制度を設け、平成 2 年度より、学術研究上特に顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に「成蹊会学術賞」を贈呈(隔年実施)しています。平成 17 年度までの贈呈総額は 475 万円(19 件)です。

## 3. 国際交流事業 90万円 (基金 2,869万円)

○交換留学生助成金 90万円

国際交流基金を設け、昭和 50 年以降、毎年成蹊高校と米国・豪州の高校との交換留学生の諸費用を助成しています。平成 17 年度までの贈呈総額は 1,845 万円です。

## 4. スポーツ振興事業 557万円 (基金 2,878万円)

○スポーツ振興助成金 498万円 (内予算外にて高校ラグビー部支援 385万円を支出) ○スポーツ振興金 59万円

スポーツ振興基金を設け、平成 2 年度以降、成蹊学園の大学体育会・中学・高校・小学校にスポーツ振興助成金を、大学の学内スポーツ大会(陸上・レガッタ)及び全国大会の地方予選等で好成績をあげた学生・生徒(団体及び個人)にスポーツ振興金を贈呈しています。平成 17 年度までの贈呈総額は 2,438 万円です。

## 5. 文化振興事業 486万円 (基金 4,389万円)

○文化振興助成金 50万円 ○文化振興費 436万円

文化振興基金を設け、平成 12 年度以降、「成蹊桜祭」に文化振興費を後援し、「樺祭」(大学)「蹊祭」(中高)及び大学文化会・新聞会に文化振興助成金を贈呈しています。平成 17 年度までの贈呈総額は 2,749 万円です。

	育英奨学事業	学術・教育助成事業	国際交流事業	スポーツ振興事業	文化振興事業
12年度以前	20,163	6,245	1,395	1,239	457
13年度	1,788	340	90	156	475
14年度	1,860	280	90	156	430
15年度	1,788	340	90	159	443
16年度	1,788	290	90	171	458
17年度	1,440	340	90	557	486
合計	28,827	7,835	1,845	2,438	2,749

単位…万円

平成18年7月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 瀧 秀彦  
 企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光 邦  
 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766  
 メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ http://alumnet.ne.jp/